

鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事

| 図面目録 | | | | | |
|------|--------------|------|--------------|------|---------------|
| 図面番号 | 図面名称 | 図面番号 | 図面名称 | 図面番号 | 図面名称 |
| A-01 | 建築工事特記仕様書(1) | A-21 | 改修前後 建具表 | K-01 | 鉄骨構造標準図(7-1) |
| A-02 | 建築工事特記仕様書(2) | A-22 | 設備架台 1階平面詳細図 | K-02 | 鉄骨構造標準図(7-2) |
| A-03 | 建築工事特記仕様書(3) | A-23 | 設備架台 2階平面詳細図 | K-03 | 鉄骨構造標準図(7-3) |
| A-04 | 建築工事特記仕様書(4) | A-24 | 設備架台 立面図(1) | K-04 | 鉄骨構造標準図(7-4) |
| A-05 | 付近見取図・配置図 | A-25 | 設備架台 立面図(2) | K-05 | 鉄骨構造標準図(7-5) |
| A-06 | 仮設計画図 | A-26 | 設備架台 伏図 | K-06 | 鉄骨構造標準図(7-6) |
| A-07 | 改修前 1階平面図 | A-27 | 雑詳細図 | K-07 | 鉄骨構造標準図(7-7) |
| A-08 | 改修前 2階平面図 | | | | |
| A-09 | 改修前 3階平面図 | | | S-01 | 小屋伏図 |
| A-10 | 改修前 屋根伏図 | | | S-02 | 軸組図(1) |
| A-11 | 改修後 1階平面図 | | | S-03 | 軸組図(2) |
| A-12 | 改修後 2階平面図 | | | S-04 | 軸組図(3) |
| A-13 | 改修後 3階平面図 | | | S-05 | 補強詳細図 |
| A-14 | 改修後 屋根伏図 | | | S-06 | 設備架台地盤改良特記仕様書 |
| A-15 | 改修前 立面図(1) | | | S-07 | 設備架台地盤改良伏図 |
| A-16 | 改修前 立面図(2) | | | S-08 | 設備架台基礎伏図 |
| A-17 | 改修後 立面図(1) | | | S-09 | 設備架台伏図 |
| A-18 | 改修後 立面図(2) | | | S-10 | 設備架台軸組図 |
| A-19 | 改修前 断面図 | | | S-11 | 設備架台鉄骨架構図 |
| A-20 | 改修後 断面図 | | | | |

| I. 工事概要 | | 章 項 目 | 特 記 事 項 | 章 項 目 | 特 記 事 項 |
|-------------|---|--------------------|---|----------|---|
| 1. 工事名称 | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | ⑧ 施工体制台帳及び施工体系図 | (1)施工体制台帳の作成 受注者は、下請契約（以下の(3)及び(4)の場合を含む。）を締結した場合は、施工体制台帳及び再下請負通知書（以下「施工体制台帳」という。）を自らの責任において作成・保存するとともに、施工体制台帳を工事現場に備え置かなければならない。 (2)施工体系図の作成及び掲出 受注者は、下請契約（以下の(3)及び(4)の場合を含む。）を締結した場合は、各下請負者の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律に従って、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げなければならない。 (3)警備業者の記載 受注者は、交通誘導警備員を配置するときは、警備業者を含めて施工体制台帳及び施工体系図を作成・保存しなければならない。 (4)運搬業者の記載 受注者は、土砂等を運搬する大型自動車を設置するときは、運搬業者を含めて施工体制台帳及び施工体系図を作成・保存しなければならない。 (5)施工体制台帳及び施工体系図の提出 受注者は、施工体制台帳の写し及び施工体系図の写しを、下請契約を締結したときは下請契約日から、内容に変更が生じたときは変更が生じた日から、いずれも土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に監督員に提出し、確認を受けなければならない。ただし、提出日について、監督員が承諾したときはこの限りではない。 (6)再下請負通知書を提出する旨の書面の掲示 受注者は、再下請負通知書を提出する旨の書面を、工事現場の公衆が見やすい場所に掲示しなければならない。 | ⑩ 交通安全管理 | ◎輸送災害の防止 受注者は、工用車両による土砂、工用資材、機械等の輸送を伴う場合は、関係機関と打合せを行い、交通安全に関する担当者、輸送経路、輸送期間、輸送方法、輸送担当者、交通誘導員の配置、標識、安全施設等の設置場所その他安全輸送上の事項について計画を立て、災害の防止を図らなければならない。特に、輸送経路にある既設建造物に対して損害を与えるおそれがある場合は、当該物件およびその位置と必要な措置について工事着手前に監督員に報告しなければならない。 ◎過積載による違法運行の防止 受注者は、過積載による違法運行の防止に関し、特に次の事項について留意し、下請負業者を指導すること。 ・積載重量制限を超えた土砂等の積込みは行わないこと ・さし枠装備車、不表示車は使用しないこと ・過積載車両、さし枠装備車、不表示車から土砂等の引き渡しを受けないこと ・建設発生土の処理及び骨材の購入に当たっては、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害さないこと ・過積載による違法通行により、逮捕または起訴された建設業者は、指名停止措置を講ずる場合がある |
| 2. 工事場所 | 鳴門市撫養町南浜 | ⑨ 電気保安技術者等 | ◎電気保安技術者は次のとおりとし、必要な資格又は同等の知識及び経験を証明する資料により、監督員の承諾を受けること。 ・事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 ・一般用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第1種又は第2種電気工事士の資格を有する者とする。 | ◎発生材の処理等 | ◎発生材の処理等は、次により適正に行う。 (1)工事による発生材のうち、文化財保護法に基づく物及び骨材と判断される物については、報告及び引き渡しを要する。 (2)上記以外の発生材は、建設工事に係る資材の再生資源化等に関する法律、資材の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設副産物適正処理推進要綱その他関係法令等に従い処理すること。受注者は、工事で発生する産業廃棄物を保管する場合、または自ら搬送する場合等においては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の規定を遵守すること。図面に表示のないものについては、監督員に報告し指示を仰ぐこと。 (3)産業廃棄物の種類ごとの処分場については、各専門特記仕様書の1章一般共通事項「産業廃棄物の処理」又は「発生材の処理等」による。 (4)建設発生土の処理については、各専門特記仕様書の1章一般共通事項「建設発生土の処理」による。 (5)解体前に、照明器具、変圧器及び進相コンデンサのPCBの有無を調査し、有れば、監督員の指示に従うこと。 (6)空調機等の整備や撤去処分を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律をはじめとする関係法令に基づき、作業手続きを行う。家電リサイクル法に該当する機器については、家電リサイクル法により処理すること。 (7)受注者は、建設副産物が搬出される工事に当たっては、建設発生土は建設発生土搬出調書（様式3）、産業廃棄物は産業廃棄物管理票（マニフェスト）により、適正に処理されているか確認するとともに、監督員に建設発生土搬出調書を提出しなければならない。なお、監督員等の指示があった場合は直ちに産業廃棄物管理票の写しを提示しなければならない。 |
| 3. 敷地面積 | — | ⑩ 施工中の安全確保 | ◎工用電力設備の保安責任者を関係法令に従って有資格者を定め、監督員に報告すること。 ◎工事関係図書及び監督員から指示された事項等については、施工に携わる下請負人も十分周知徹底すること。 ◎工事現場における現場代理人、監理技術者、主任技術者の確認のため名札を着用すること。名札には現場代理人、監理技術者、主任技術者の別、氏名、会社名、工事名を記載し、顔写真を添付すること。 ◎工事現場の安全衛生管理については、労働安全衛生法等関係法令等に従って行うこと。 ◎工事の施工に伴う災害及び公害の防止は、建築基準法、労働安全衛生法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、建設工事公衆災害防止対策要綱（令和元年9月2日付け国土交通省告示第496号）、建設副産物適正処理推進要綱（平成5年1月12日 建設省建経発第3号）その他関係法令に従い適切に処理すること。 ◎受注者は、工事の施工箇所及びその周辺にある地上地下の既設構造物について工事（仮囲い等仮設材設置を含む）着手までに調査を行い、「支障物確認書」を監督員に提出し、監督員の確認を受けてから工事着手すること。 ◎地下埋設物への影響が予想される場所では、施工に先立ち、原則として試掘を行い、当該埋設物の種類、位置（平面・深さ）、規格、構造等を確認しなければならない。 ◎受注者は、工事箇所及びその周辺にある地上地下の既設構造物に対し、支障を及ぼさないような措置を施さなければならない。万一、損傷を与えた場合は、ただちに監督員に報告するとともに、施設の運営に支障がないよう、受注者の負担でその都度補修又は補償すること。 ◎受注者は、重量が100kg以上のものを貨物自動車に積み作業（ロープ掛けの作業及びシート掛けの作業を含む。）又は貨物自動車から即ず作業（ロープ解きの作業及びシート外しの作業を含む。）を行うときは、当該作業を指揮する者を定め、監督員に報告しなければならない。 ◎受注者は、機械等を貨物自動車に積み込む作業又は貨物自動車から即ず作業を行う場合は、当該作業を指揮する者を定め、指揮者の合図により行わなければならない。また、作業状況について、写真等の資料を整備及び保管し、監督員の請求があったときは、直ちに提示しなければならない。 ◎受注者は、輸送経路等において上空施設への接触事故を防止するため、重機回送時の高さ、移動式クレーンのブームの格納、ダンプトラックの架台の下ろし等について、走行前に複数の作業員により確認しなければならない。 ◎受注者は、トラック（クレーン装置付）を使用する場合は、上空施設への接触事故防止装置（ブームの格納忘れを防止（警報）する装置、ブームの高さを制限する装置等）付きの車両を原則使用しなければならない。なお、使用できない場合は事前に監督員と協議を行うこと。 ◎休日、夜間に作業を行う時は、事前に「休日・夜間作業届」を監督員に提出すること。 ◎受注者は、工事期間中安全監視を行い、工事区域及びその周辺の監視あるいは連絡を行い、安全を確保するとともに工事現場における盗難防止の観点から、資機材の保管状況等についてもさなければならない。万一、損傷を与えた場合は、受注者の負担でその都度補修又は補償すること。た場合には、速やかに提出すること。 ◎受注者は、高さが2m以上の箇所で作業を行う場合は、墜落防止に留意し、作業日毎に「墜落防止チェックシート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。 ◎仮囲いを設置する場合は、設置後に「営繕課発注現場安全再確認シート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。 | | |
| 4. 工事種目 | 改修工事 屋内運動場 RC造3階建て 屋根鉄骨造 延べ床面積2407.92㎡ | | | | |
| 5. 工事区分 | 建築工事 屋根改修工事：カバー工法による屋根断熱工事 軒樋整樋更新：東面、雨水の飛散防止対策工事 耐震改修工事：構造適及の法適合のため、屋根梁補強工事（8か所） 空調架台工事：津波対策の為、空調室外機置場を嵩上げ（津波浸水高さH=2.9mを想定） | | | | |
| II. 建築工事仕様書 | | 項目番号に○印のついたものを適用する | | | |
| 章 項 目 | 特 記 事 項 | | | | |
| 1章 一般共通事項 | ① 適用基準等 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の下記による。 ・ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編） 令和4年版（以下「標仕」という。） ・ 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編） 令和4年版 ・ 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編） 令和4年版 ・ 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編） 令和4年版（以下「改標仕」という。） ・ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編） 令和4年版 ・ 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編） 令和4年版 ・ 木造建築工事標準仕様書 令和4年版 ・ 建築物解体工事共通仕様書（平成31年版）・同解説 令和2年版 ・ 建築工事標準詳細図 令和4年版（以下「標準図」という。） ・ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編） 令和4年版 ・ 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編） 令和4年版 ・ 敷地調査共通仕様書 令和4年版 また、次の図書（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）を参考とする。 ① 建築工事監理指針（令和4年版）（以下「監理指針」という。） ② 建築改修工事監理指針（令和4年版） ③ 電気設備工事監理指針（令和4年版） ④ 機械設備工事監理指針（令和4年版） ② 優先順位 設計図書の優先順位は、次の順とする。 ① 質問回答書（②から⑤に対するもの） ② 補足説明書 ③ 特記仕様書 ④ 図面 ⑤ 公共建築工事標準仕様書等 ③ 工事実績データの登録 (1) 受注者は、請負代金額が500万円以上の工事については受注・変更・しゅん工・訂正時に、工事実績情報サービス（コリンズ）に基づき、工事実績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し監督員に提出して内容の確認を受けた上、次の期限までに登録機関に登録しなければならない。 (a) 受注時は、契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内とする。 (b) 登録内容の変更時は、変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内とする。 (c) しゅん工時は、工事しゅん工承認後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内とする。 (d) 訂正時は、適宜とする。 なお、変更登録は工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、請負代金額のみの変更の場合は、原則として登録を必要としない。 (2) 受注者は、実績登録完了後、登録機関発行の「登録内容確認書」が受注者に届いた際には、速やかに監督員に提示しなければならない。 なお、変更時としゅん工時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提示を省略できる。 ④ 工程表 受注者は、契約書に基づく工程表を契約締結後7日以内に提出すること。 ⑤ 工事の着手 受注者は、設計図面に定めのある場合、又は特別の事情により発注者の承諾があった場合を除き、工事開始日以降30日以上に工事に着手しなければならない。 なお、工事開始日は、契約書に明示した着工の日（特記仕様書において着工の日を別に定めた場合にあつては、その日）をいう。 ⑥ 施工計画書等 ◎施工に先立ち、実施工程表、工事の総合計画をまとめた総合施工計画書及び工種別施工計画書並びに施工図等を作成し、監督員に提出し、監督員の承諾を受けること。 ◎上記の施工計画書には、「地下埋設物等の近接作業に関する事項」を設けること。 ◎施工図、現寸図、見本等を、工事の施工に先立ち作成し、監督員の承諾を受けること。 | | | | |

| | | | | | |
|----|----|----|-----------------------|-------|---------------|
| 訂正 | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | A-01 実施設計図 |
| | | | 図面名称 | 幅尺 | |
| | | | 建築工事特記仕様書(1) | — | |

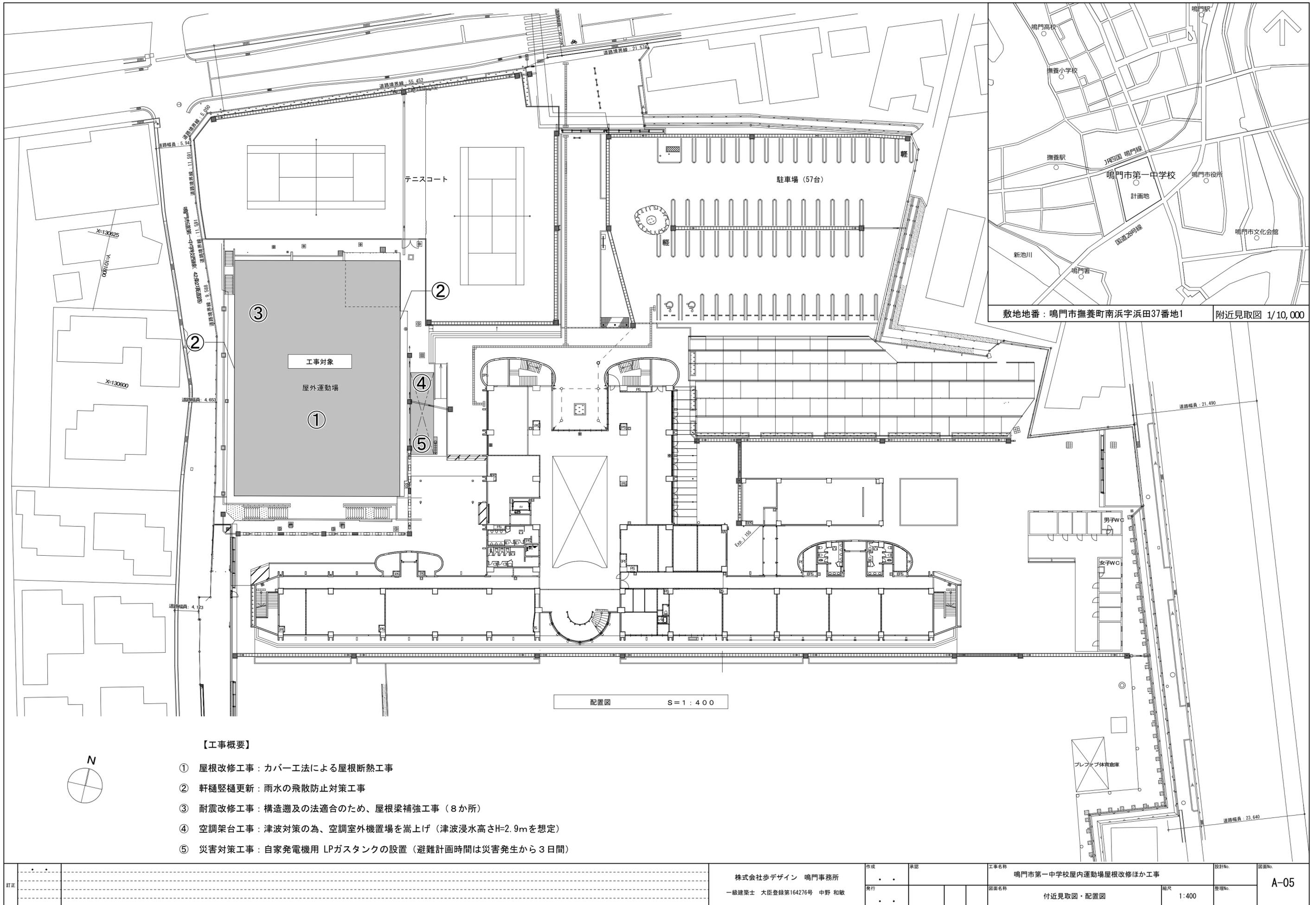
| 章 | 項 目 | 特 記 事 項 | 章 | 項 目 | 特 記 事 項 | 章 | 項 目 | 特 記 事 項 | |
|--------------------------------------|---|---|---|--|--|--|-------------------------|------------------|-----|
| 1 章 一 般 共 通 事 項 | | <p>◎資源の有効な利用の促進に関する法律（以下「資源有効利用促進法」という。）及び建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（以下「建設リサイクル法」という。）に基づく対応は、以下のとおり行うこと。</p> <p>(1) 受注者は、資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の再生資源の利用に関する判断の基準となるべき事項を定める省令（H3.10.25建設省令第19号）第8条で規定される工事又は建設リサイクル法施行令第2条で規定される工事（以下「一定規模以上の工事」という。）において、コンクリート（二次製品を含む。）、土砂、碎石、加熱アスファルト混合物又は木材を工事現場に搬入する場合には、（一財）日本建設情報総合センターの建設副産物情報交換システム（以下「COBRIS」という。）により再生資源利用計画書を作成し、監督員に提出すること。</p> <p>(2) 受注者は、資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の指定副産物に係るの促進に関する判断の基準となるべき事項を定める省令（H3.10.25建設省令第20号）第7条で規定される工事又は一定規模以上の工事において、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合には、COBRISにより再生資源利用促進計画書を作成し、監督員に提出すること。</p> <p>(3) 受注者は、上記計画書を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）すること。</p> <p>(4) 受注者は、上記計画書に変更が生じた場合は、速やかに計画を変更し、その変更の内容を監督員に報告すること。</p> <p>(5) 受注者は、工事完了後速やかにCOBRISにより再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を作成し、監督員に提出すること。</p> <p>(6) 受注者は、上記計画書及び実施書を工事完成後5年間保存すること。</p> <p>(7) 受注者は、COBRISの入力において、資源の供給元及び搬出する副産物の搬出先について、その施設名、施設の種類及び住所を必ず入力すること。ただし、パーシメン材を使用する生コンクリート及び購入土を除くものとする。</p> <p>において実施し、それに要する費用は受注者の負担とする。</p> <p>◎受領書の交付 受注者は、土砂を再生資源利用計画書に記載した搬入元から搬入したときは、法令等に基づき、速やかに受領書を搬入元に交付しなければならない。</p> <p>◎再生資源利用促進計画書を作成する上での確認事項等 受注者は、再生資源利用促進計画書の作成に当たり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、工事現場内の土地の掘削その他の形質の変更に関して発注者等が行った土壌汚染対策法等の現状状況や、搬出先が盛土規制法の許可地等であるなど適正であることについて、法令等に基づき確認しなければならない。</p> <p>また、確認結果は再生資源利用促進計画書に添付し監督員に提出するとともに、工事現場において公衆の見やすい場所に掲げなければならない。</p> <p>◎建設発生土の運搬を行う者に対する通知 受注者は、建設現場等から土砂搬出を他の者に委託しようとするとき、特記に土工事の記載がある場合は「建設発生土の処理」に定められた事項等（搬出先の名称及び所在地、搬出量）と、前項で行った確認結果を、委託した搬出者に対して、法令等に基づいて通知しなければならない。</p> <p>◎建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求等 受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画書に記載した搬出先へ搬出したときは、法令等に基づき、速やかに搬出先の管理者に受領書の交付を求め、受領書に記載された事項が再生資源利用促進計画書に記載した内容と一致することを確認するとともに、監督員に写しを提出しなければならない。</p> | 14 化学物質を発生する 建築材料等 | <p>◎本工事に使用する建築材料は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の(1)から(5)を満たすものとする。</p> <p>(1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗材は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>(2) 保温材、緩衝材、断熱材は、ホルムアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>(3) 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない揮発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>(4) 塗料（塗り床を含む）は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>(5) (1)、(3)及び(4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> | 18 工事看板等 | <p>◎工事現場には、工事看板を監督員の指示に従って見やすい場所に設けること。</p> <p>◎受注者は、監督員から渡される「技能労働者への適切な賃金水準の確保等に関するポスター（A3）」を現場関係者が見やすい場所に掲げるとともに、掲示状況を工事写真として提出しなければならない。ただし、次のいずれかに該当する工事は対象外とする。</p> <p>(1) 区画線工事、舗装工事、標識設置工事、照明灯工事 (2) 当初請負金額が200万円未満の工事</p> | | | |
| | <p>(15) 施工</p> <p>◎施工条件は次による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工程については、学校・施設管理者と協議の上決定すること。 ・騒音の出る工事は原則として学校休日とするが、学校・監督員と協議すること。 ・また、人員配置及び施工計画を綿密に行い遅滞のないようにつとめること。 ・施設の使用に影響のある騒音、振動、粉塵等を伴う作業は平日の授業中は原則施工できない。 ・また、休日においても施設管理者より作業中止の要望がある場合は、作業の中止を行う場合がある。 ・前面道路は通学路であるため、学校が指示する時間帯は工事車両の通行をしないこと。 ・その他の詳細な施工条件については、実施工程表及び総合施工計画書の作成時に学校・施設管理者と協議の上決定し、適宜相互に日程の調整及び確認を行う。 ・本工事は夏休みに入ってから工事を開始すること。 ・施工順序は学校・施設管理者と協議の上決定すること。 ・本工事期間中も施設は使用するので、通路を確保すると共に、工程の協議を行うものとする。 ・工事の施工に当たっては交通整理員を配置し、一般交通等に支障を及ぼさないように充分注意し施工するものとする。 <p>◎設計図書に疑義が生じたり、現場の納まり又は取合い等の関係で設計図書にすることが困難又は不都合な場合が生じたときは、標仕記載の「疑義に対する協議等」による。</p> <p>◎工事現場に監督員は常駐できないので、疑問点、その他打合せ決定を要する事項は、監督員の出向いた時、又はまちづくり課へ問い合わせ、工事に遅滞のないようにすること。</p> <p>◎品質管理は、適切な時期に品質計画に基づき、確認、試験又は検査を行うこと。結果が管理値を外れるなど疑義が生じた場合は、品質計画にしたがって適切な処理を施すこと。また、その原因を検討し、再発防止のための必要な処置をとること。</p> <p>◎施工にあたっては、設計図書に従って忠実に施工すること。不都合な工法等を発見した場合は、工事が進行済みであっても根本的な手直しを命ずるので、注意して施工すること。手直し工事は、受注者の責任において実施し、それに要する費用は受注者の負担とする。</p> <p>◎本工事の施工及び管理にあたり法規上必要となる有資格者については、工事着手前に資格者名簿及びその証明書類等を監督員に提出すること。</p> <p>◎設計図書（各施工計画書を含む）に定められた工程が完了した時、報告書を提出し、監督員の検査等を受け、承諾を受けて次の工程に進むこと。</p> <p>◎試験等によらなければ確認できない工事（製品）については、試験等計画書（施工計画書に記載）を提出し、監督員の承諾を受け試験を行い、その結果を報告し承認を得ること。</p> | <p>(20) 設計変更箇所確認</p> <p>◎設計事務所による工事監理がある場合、受注者は、工事監理業務受注者が作成する設計変更箇所一覧表の内容について、監督員、工事監理業務受注者とともに定期的に確認すること。また、工事しゅん工前には全ての設計変更箇所及び内容を監督員、工事監理業務受注者とともに、書面により確認すること。</p> <p>◎鳴門市工事検査規定及び鳴門市工事検査基準に基づき検査を受けること。</p> <p>◎設計図書（各施工計画書を含む）に定められた工程が完了した時、報告書を提出し、監督員の検査等を受け、承諾を受けて次の工程に進むこと。</p> <p>◎試験等によらなければ、確認できない工事（製品）については、試験等計画書（施工計画書に記載）を提出し、監督員の承諾を受けて試験を行い、その結果を報告し承認を得ること。</p> <p>◎提出書類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竣工図（製本3部（うち一部縮小版）、電子データ1部） ・工事写真（写真帳2部（ 着手前 ・ 工中 ・ 竣工 ）、電子データ1部） <p>・使用材料一覧表（ 1部、うち電子データ1部）</p> <p>・保全に関する資料</p> <p>◎竣工図は関係図面（原因貸与）を修正して作成すること。 竣工図データは、関係図面（データ貸与）を修正して作成し、PDF形式及びDXF形式又はJWW形式をCD-Rに保存する。</p> <p>◎工事写真はしゅん工、着工前、資材、施工状況の順に整理する。 しゅん工については、工事目的物の状態が、また、資材、施工状況等については、不可視不文の出来形が写真で的確に確認できること。</p> <p>◎工事写真の撮影は、国土交通省大臣官房官庁営繕部「営繕工事写真撮影要領」によること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>サイ ズ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着 工 前</td> <td>カラー、手札版又はサービスサイズ</td> </tr> <tr> <td>工 中</td> <td>カラー、手札版又はサービスサイズ</td> </tr> <tr> <td>竣 工</td> <td>カラー、手札版又はサービスサイズ</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎工事完成撮影は、専門家に（まる・よらない）ものとする。</p> <p>◎本工事に伴う諸官公署への各種申請は、請負業者が行うものとし、費用（完了検査手数料等）については、請負者の負担とする。</p> | | 区 分 | | サイ ズ | 着 工 前 | カラー、手札版又はサービスサイズ | 工 中 |
| 区 分 | サイ ズ | | | | | | | | |
| 着 工 前 | カラー、手札版又はサービスサイズ | | | | | | | | |
| 工 中 | カラー、手札版又はサービスサイズ | | | | | | | | |
| 竣 工 | カラー、手札版又はサービスサイズ | | | | | | | | |
| 13 材料・製品等 | <p>◎本工事に使用する建築材料、設備機材等（以下「建材等」という）は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとする。</p> <p>◎受注者は、建材等の発注の際には、発注前に、品質及び性能に関して記載された工種別施工計画書及びその証明となる資料を監督員へ提出しなければならない。ただし、設計図書に定めるJIS又はJASの材料で、JIS又はJASのマーク表示のあるものを使用する場合又はあらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。</p> <p>なお、各専門特記仕様書中、「評価名簿による」と記載されているものは、一般社団法人公共建築協会発行の「建築材料等評価名簿（最新版）」及び「設備機材等評価名簿（最新版）」記載品を指すものとする。</p> <p>◎製材等（製材、集成材、合板、単板積層材）、フローリング、再生木質ボード（パーティクルボード、繊維板、木質系セメント板）については、合法性に係る確認（「産地認証」及び「品質認証」を含む。）が行われたものを使用する。ただし、機能上、需給上など正当な理由により確保が困難であり、使用できない場合には監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。</p> <p>また、それらの木質又は紙の原料となる原木についての合法性に係る確認は、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン（平成18年2月15日）」に準拠して行うものとし、監督員に合法証明書を提出するものとする。ただし、平成18年4月1日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成18年4月1日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成18年4月1日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法な木材であることの証明は不要とする。</p> <p>◎標仕等に記載されていない特別な材料の仕様・工法は、監督員の承諾を受けて、当該製品の仕様及び指定工法による。</p> <p>◎県内産再生砕石の原則使用 受注者は、再生砕石を使用する場合、県内の再資源化施設（廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第15条第1項に基づく許可を有する施設（同法第15条の2の6第1項に基づく変更の許可において同じ。））で製造された再生砕石を原則として使用しなければならない。</p> | 16 建設機械等 | <p>◎排出ガス対策型建設機械 本工事に使用する土工機械は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3.10.8 建設省経機発第249号 最終改正 平成14.4.1国総発第225号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械とする。ただし、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明により評価された排出ガス浄化装置を装着することで排出ガス対策型建設機械と同等とみなすが、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。なお、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の全景及び型番等が分かる写真を監督員に提出するものとする。</p> <p>◎低騒音・低振動型建設機械 本工事で使用する建設機械は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程（国土交通省告示 平成13年4月9日改正）」に基づき指定された建設機械を使用するものとする。現場代理人は、施工現場において使用する建設機械の全景及び型番等、同規程に基づき指定された建設機械であることが分かる写真を監督員に提出するものとする。ただし、同規程に記載されていない機種、規格の建設機械により施工する場合はこの限りでない。なお、同規程に基づき指定された建設機械を現場に供給するのが著しく困難な場合は、監督員と協議する。ただし、騒音規制法、徳島県公害防止条例等の関係法令を遵守するものとする。</p> <p>◎特定自主検査 本工事で使用する建設機械（労働安全衛生法により特定自主検査が義務づけられている建設機械）は、1年以内毎に1回特定自主検査を実施済みの機械を使用し、その検査証明書（検査記録表）の写しを使用工程の施工計画書に添付し提出すること。</p> <p>◎不正軽油の使用禁止 受注者は、ディーゼルエンジン仕様の車両及び建設機械等を使用する場合は、地方税法（昭和25年法律第226号）に違反する軽油等を燃料として使用してはならない。 また、受注者は、市の徴税吏員が行う使用燃料の採取調査に協力しなければならない。</p> | 24 火災保険 | <p>◎火災保険 本工事の着手に際し、火災保険等（火災保険、建設工事保険その他の保険（これに準ずるものを含む。））を請負額に応じて付保する。（標準請負契約約款 第55条）</p> <p>(1) 対象物 工事的目的物及び工事材料（支給材料を含む）について付保する。</p> <p>(2) 付保除外工事 次に掲げる単独工事については、付保を除外できる。 ・杭及び基礎工事 ・コンクリート躯体工事 ・屋外付帯工事 ・その他実状を判断のうえ必要がないと認めた場合（外壁補修工事等）</p> <p>本工事の着手に際し、火災保険等（火災保険、建設工事保険その他の保険（これに準ずるものを含む。））を請負額に応じて付保する。（標準請負契約約款 第55条）</p> <p>(1) 対象物 工事的目的物及び工事材料（支給材料を含む）について付保する。</p> <p>(2) 付保除外工事 次に掲げる単独工事については、付保を除外できる。 ・杭及び基礎工事 ・コンクリート躯体工事 ・屋外付帯工事</p> <p>(3) 付保する時期及び金額 鉄筋コンクリート造の場合は躯体工事完了時に、木造及び鉄骨造の場合は基礎工事完了時に、請負金額相当額を付保する。また、模様替え工事等については、工事着手時に請負金額相当額を付保する。</p> <p>(4) 保険終期 工事完成期日に14日を加えた期日とする。なお、工期延伸した場合には保険の期間も延長する。</p> <p>(5) その他 ・付保する時期以降に出来高払を行う場合は、受注者は保険契約の証券の写しを出来高払の書類に添付する。 ・建設工事保険に付保した場合は、火災保険に付保したものとみなす。</p> | | | | |
| 訂正 | | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 作成 ● ● 発行 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 図面名称 建築工事特記仕様書(2) 縮尺 — | 設計No. 図面No. 整理No. | A-02 実施設計図 | |

| 章 項 目 | 特 記 事 項 | 章 項 目 | 特 記 事 項 | 章 項 目 | 特 記 事 項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---|---|---|--|---|----------|------|-------|-------|------------|-------------|--------|----------|------------|------------|--------------------|--|-----------|-------------------------------|--|-----------|---------|----|------------------------------|------|----|----|------|----|---|--|--|----------|----|----|----|----|---|--|--|----------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-------|-------|-------|----|----|------|--------|---|----|--|--|--|---------------|-----|----|--|--|---------------|---------------|-----|----|--|--|----------------|---------------|-----|----|--|--|--|---------------|------|----|--|--|--|
| 1章 一般共通事項 | <p>26) 暴力団からの不当要求又は工事妨害の排除</p> <p>(1) 受注者は、工事の施工に関し、暴力団等からの不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合（(2)に規定する場合は、下請負人から報告があったとき）には、その旨を直ちに発注者に報告するとともに、併せて所轄の警察署に届けなければならない。</p> <p>(2) 受注者は、本工事の一部を下請に付する場合、下請工事の施工に関して下請負人が暴力団等からの不当介入を受けたときは、受注者にその旨を報告することを義務付けなければならない。</p> <p>(3) 受注者は、発注者及び所轄の警察署と協力して不当介入の排除対策を講じなければならない。</p> <p>(4) 受注者は、排除対策を講じたにもかかわらず、工期に遅れが生じるおそれがある場合には、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期内に工事が完成しないと認められる場合は、「徳島県公共工事標準請負約款」（以下「約款」という。）第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。</p> <p>(5) 受注者は、暴力団等から不当介入による被害を受けた場合は、その旨を直ちに報告し、被害届を速やかに所轄の警察署に提出しなければならない。</p> <p>発注者に工期延長の請求を行わなければならない。</p> <p>(6) 受注者は、前項被害により、工期に遅れが生じるおそれがある場合は、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期に遅れが生じると認められた場合は、約款第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。</p> | <p>5章 鉄筋工事</p> <p>⑤ 建設発生土の処理</p> <p>⑥ 建設発生汚泥の処理</p> <p>③ シーリング</p> <p>① 材料</p> <p>② 材料試験</p> <p>③ 加工及び組立て</p> <p>④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔</p> <p>⑤ 配筋検査</p> | <p>④ 打継ぎの位置 ひび割れ誘発目地 打継ぎ目地</p> <p>⑤ レディミクストコンクリート 工場の指定</p> <p>⑥ 型枠</p> | <p>② 一般事項</p> <p>2. ベンチマーク</p> <p>③ 足場等</p> <p>④ 養生</p> <p>⑤ 工事用水、電力等</p> <p>⑥ 工事車両用駐車場 資材置場 現場事務所用地等</p> <p>3章 躯体工事(一)(土工事)</p> <p>① 根切り</p> <p>② 排水</p> <p>③ 埋め戻し及び盛土</p> | <p>① 一般事項</p> <p>② コンクリートの仕上がり</p> <p>③ 普通コンクリート</p> | <p>◎場内敷き均しとする。</p> <p>◎舗装版切断に伴い発生する排水は汚泥に該当するため、関係法令等に基づき適正に処理すること。</p> <p>◎シーリング材は、JIS A 5758の規格品とする。</p> <table border="1"> <tr> <th>規格番号</th> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>径(mm)</th> </tr> <tr> <td>JIS G 3112</td> <td>鉄筋コンクリート用棒鋼</td> <td>SD295A</td> <td>D10, D13</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3551</td> <td>溶接金網及び鉄筋格子</td> <td>網目の形状： 寸法：150 径：6φ</td> <td></td> </tr> </table> <p>◎材料試験は行わない。ただし、規格証明書を提出し、監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎主要構造部の配筋は、コンクリート打ちに先立ち、監督員の検査を受ける。</p> <p>◎鉄筋の継手は（重ね継手、ガス圧接継手、特殊継手）とする。</p> <p>◎結束線の端部は内側に折り曲げる。</p> <p>◎スラブのスペーサーは鋼製を原則とし、他の箇所についても材種等について監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎鉄筋の90°未満の折曲げの内法直径は図示による。</p> <p>◎鉄筋の定着方法及び長さは図示による。</p> <p>◎柱、梁の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、標仕 表5.3.5の数値に10mmを加えた数値を標準とする。</p> <p>◎目地がある場合のかぶりは、目地底からの寸法とする。</p> <p>◎各部の配筋は、図示による。図示されていない場合は、標仕参考図【1節-基礎及び基礎梁の配筋】～【7節-梁貫通孔その他配筋】による。</p> <p>◎主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督職員の検査を受ける。</p> <p>◎コンクリートの種別 ・I類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）</p> <p>◎設計基準強度</p> <table border="1"> <tr> <th>コンクリートの種類</th> <th>設計基準強度 Fc(N/mm²)</th> <th>調合管理強度 F_n(N/mm²)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>強度試験の有無</th> <th>種別</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>21</td> <td>21+S</td> <td>15</td> <td>有</td> <td></td> <td></td> <td>躯体コンクリート</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>15</td> <td>無</td> <td></td> <td></td> <td>土間コンクリート</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◎構造体コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度(Fc)に構造体強度補正值(S)を加えた値とする。なお、構造体強度補正值(S)は、標仕 表6.3.2Iによりセメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。</p> <p>◎コンクリートの強度試験 コンクリートの強度試験については、次のとおり取扱うものとする。 ・第4週強度確認 第三者試験機関にて、主任技術者又は現場代理人立会いの上、行うこと。</p> <p>◎コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容値は、</p> <p>◎合板せき板を用いる打放し上げの種別は (A)・B・C) 種とする。</p> <p>◎セメントの種類は、(普通ポルトランドセメント)とする。</p> <p>◎受注者は、コンクリートの使用にあたってアルカリ骨材反応を抑制するため、次の3つの対策の中のいずれか1つについて確認をとらなければならない。</p> <p>(1) コンクリート中のアルカリ総量の抑制 アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、コンクリート1m³に含まれるアルカリ総量をNa2O換算で3.0kg以下にする。</p> <p>(2) 抑制効果のある混合セメント等の使用 JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメント [B種またはC種] あるいはJIS R 5213フライアッシュセメントに適合するフライアッシュセメント [B種またはC種]、もしくは混和材をポルトランドセメントに混入した結合材でアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたものを使用する。</p> <p>(3) 安全と認められる骨材の使用 骨材のアルカリシリカ反応性試験(化学法またはモルタルバー法)の結果で無害と確認された骨材を使用する。 試験方法は、JIS A 1145骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(化学法)またはJIS A 5308(レディミクストコンクリート)の付属書7「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(化学法)」, JIS A 1146骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)またはJIS A 5308(レディミクストコンクリート)の付属書8「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による。</p> | 規格番号 | 規格名称 | 種類の記号 | 径(mm) | JIS G 3112 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 | SD295A | D10, D13 | JIS G 3551 | 溶接金網及び鉄筋格子 | 網目の形状： 寸法：150 径：6φ | | コンクリートの種類 | 設計基準強度 Fc(N/mm ²) | 調合管理強度 F _n (N/mm ²) | スランプ (cm) | 強度試験の有無 | 種別 | 気乾単位容積質量 (t/m ³) | 適用箇所 | 普通 | 21 | 21+S | 15 | 有 | | | 躯体コンクリート | 普通 | 18 | 21 | 15 | 無 | | | 土間コンクリート | | | | | | | | | <p>◎骨材は、標仕6.3.1(2)による。</p> <p>◎細骨材としてフェロニッケルスラグ使用(=できる・できない)。</p> <p>◎細骨材に含まれる塩化量は、NaCl換算で0.04%以下とする。</p> <p>◎構造体コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度(Fc)に構造体強度補正值(S)を加えた値とする。なお、構造体強度補正值(S)は、改標仕 表8.2.4Iによりセメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。</p> <p>◎コンクリート中の塩化量は、0.30kg/m³以下とし、試験方法は標仕6.5.4Iによる。</p> <p>◎I類のコンクリートは試験りを行わない。</p> <p>◎所要空気量は4.5%±1.5%とする。</p> <p>◎工事に先立ち、レディミクストコンクリート工場を選定し、監督職員の承諾を得る。</p> <p>◎打継ぎの位置 梁及びスラブ (スラブの中央又は端から1/4付近) ・図示による) 柱及び壁 (スラブ、梁又は基礎の上端) ・図示による)</p> <p>◎コンクリートの打継ぎ目地の寸法は、標仕9.7.3【目地寸法】(I) (A)による。</p> <p>◎ひび割れ誘発目地の位置 (図示による))</p> <p>◎工事開始に先立ち、工場を選定し、監督職員の承諾を受ける。</p> <p>◎型枠は、(県産木製型枠・合板・金属製・樹脂系・打込み型枠・ブロック)とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>型枠の種別</th> <th>仕上げ種別</th> <th>塗装の有無</th> <th>材質</th> <th>厚さ</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県産木製型枠</td> <td>—</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>標仕6.8.2(2)(ア)</td> <td>A 種</td> <td>あり</td> <td></td> <td></td> <td>柱根巻部、外周スラブ立上り</td> </tr> <tr> <td>標仕6.8.2(2)(イ)</td> <td>B 種</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td>その他(見えがかり部分以外)</td> </tr> <tr> <td>標仕6.8.2(2)(イ)</td> <td>C 種</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>標仕6.8.2(2)(イ)</td> <td>普通型枠</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎打ち放し仕上げの打ち増し厚さは(15)mmとし、打ち増しの範囲は図示による。</p> <p>◎打ち放し仕上げのコーンは原則、Pコンとする。また脱型後の穴埋めは、樹脂モルタルにより打ち放し面より2mm程度、引込める。</p> | 型枠の種別 | 仕上げ種別 | 塗装の有無 | 材質 | 厚さ | 適用箇所 | 県産木製型枠 | — | なし | | | | 標仕6.8.2(2)(ア) | A 種 | あり | | | 柱根巻部、外周スラブ立上り | 標仕6.8.2(2)(イ) | B 種 | なし | | | その他(見えがかり部分以外) | 標仕6.8.2(2)(イ) | C 種 | なし | | | | 標仕6.8.2(2)(イ) | 普通型枠 | なし | | | |
| 規格番号 | 規格名称 | 種類の記号 | 径(mm) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| JIS G 3112 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 | SD295A | D10, D13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| JIS G 3551 | 溶接金網及び鉄筋格子 | 網目の形状： 寸法：150 径：6φ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| コンクリートの種類 | 設計基準強度 Fc(N/mm ²) | 調合管理強度 F _n (N/mm ²) | スランプ (cm) | 強度試験の有無 | 種別 | 気乾単位容積質量 (t/m ³) | 適用箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 普通 | 21 | 21+S | 15 | 有 | | | 躯体コンクリート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 普通 | 18 | 21 | 15 | 無 | | | 土間コンクリート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 型枠の種別 | 仕上げ種別 | 塗装の有無 | 材質 | 厚さ | 適用箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 県産木製型枠 | — | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 標仕6.8.2(2)(ア) | A 種 | あり | | | 柱根巻部、外周スラブ立上り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 標仕6.8.2(2)(イ) | B 種 | なし | | | その他(見えがかり部分以外) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 標仕6.8.2(2)(イ) | C 種 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 標仕6.8.2(2)(イ) | 普通型枠 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

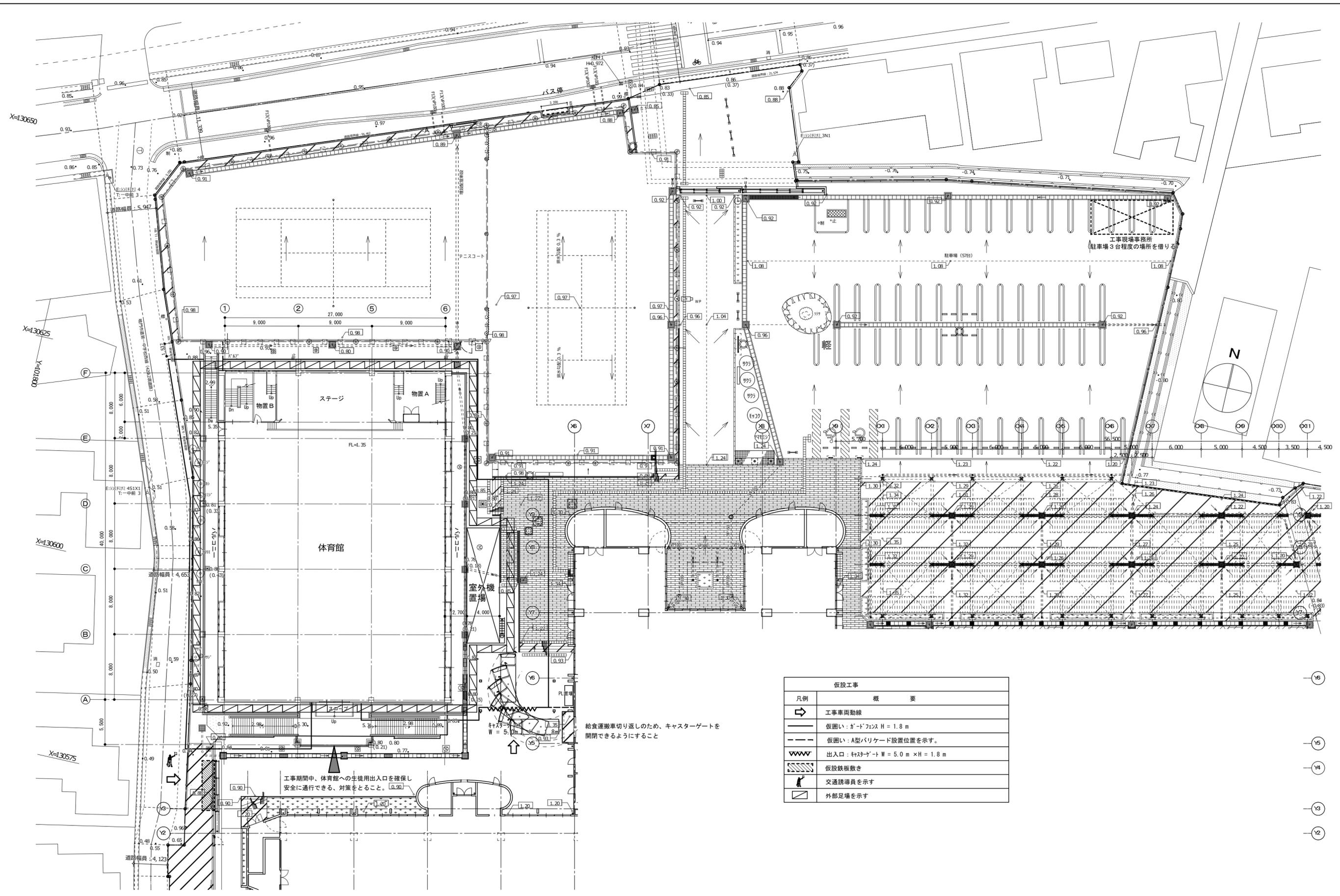
| | | | | | | | |
|----|--|---|---------|----|-------------------------------|-------|---------------|
| 訂正 | | | 作成 . | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. A-03 |
| | | 株式会社社デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 発行 . | | 図面名称 建築工事特記仕様書(3) | 整理No. | 実施設計図 |

| 章 項 目 | 特 記 事 項 | 章 項 目 | 特 記 事 項 | 章 項 目 | 特 記 事 項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|-----------|------------|-------|---------|--|--|--|--|--|--|--|--|-------|-------|--------|-----------------|------------|-----------|------------|-----------|----------|-----------------|--------------|---------|---------|--|---------------|---|
| 7章 鉄骨工事 | <p>① 一般事項</p> <p>◎製作工場は、国土交通大臣の認定による（ R ）グレード工場とし、その証明となる資料を監督職員に提出する。</p> <p>◎鉄骨製作工場には施工管理技術者を（置く・置かなくともよい）</p> <p>◎工事現場には、鉄骨製作工場名等を記載した板（30～35×45cm）（H.4.9.30 住指発第347号）を掲示すること。</p> <p>② 材料</p> <p>◎鋼材は次による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>規格番号・規格名称等</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎高力ボルトは、（JIS形高力ボルト・トルシア形高力ボルト2種・溶融亜鉛めっき高力ボルト）とする。径は、（ ）とし、使用箇所は図示による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格番号等</th> <th>規格名称等</th> <th>セットの種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建築基準法に基づき指定又は認定</td> <td>トルシア形高力ボルト</td> <td>JSS II 09</td> </tr> <tr> <td>JIS B 1186</td> <td>JIS形高力ボルト</td> <td>2種（F10T）</td> </tr> <tr> <td>建築基準法に基づき指定又は認定</td> <td>溶融亜鉛めっき高力ボルト</td> <td>1種（F8T）</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎普通ボルト及びナットの材料等は、（JIS付属品（JIS B 1180及びJIS B 1181） ・ JIS本体規格品（ISO規格））とする。径は、（ ）とし、使用箇所は図示による。</p> <p>◎構造用アンカーボルトの材質は（ ABR400 ・ ABR490 ）とする。</p> <p>◎建方用アンカーボルトの材質は（ SS400 ・ SS490 ）とする。</p> <p>◎溶接材料は、母材の種類、寸法及び溶接条件に相応したもので、製作工場の通常使用のものとする。</p> <p>◎ターンバックル 鋼の種類（割枠式・パイプ式）ボルトの種類（羽子板ボルト・両ねじボルト・アイボルト）ねじの呼び及びターンバックルの呼び長さは、（M6～M3）×（ ）mmとする。</p> <p>◎柱底均しモルタルを無収縮モルタルとする場合は次による。 ・セメントは、JIS R 5210による普通又は早強ボルトランドセメントとする。 ・混和材は、膨張セメント系（酸化カルシウム、カルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。 ・砂、配合比等は、製造所の仕様による。 ・無収縮モルタルの品質及び試験方法は、標仕 表7.2.5による。</p> <p>③ 材料試験</p> <p>◎JIS規格品は、材料試験は行わない。ただし、規格証明書を出し、監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎トルシア形高力ボルトは、製品に対する製造管理方法及び品質管理試験の結果を、監督員に提出し承諾を受けること。</p> <p>◎板厚方向の引張試験を（行う・行わない）。</p> <p>④ 工作一般</p> <p>◎高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等は図示による。</p> <p>◎床書き現寸図は作成（する・しない）。</p> <p>◎鉄骨の製作精度は、標仕7.3.3及びH12建告第1464号第二号イによる。H12建告第1464号第二号イ（1）（2）のただし書きによる補強は、「突き合わせ継手の食い違いのずれの検査・補強マニュアル」による。</p> <p>◎仮設のため鉄骨に補助材等取付け及び貫通孔等を設ける場合は、工場溶接を原則とし、現場溶接となる場合は監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎仮組を（実施する・実施しない）。</p> <p>⑤ 高力ボルト接合</p> <p>◎すべり係数試験は（行う・行わない）。ただし、溶融亜鉛めっき工法の場合は、「13.溶融亜鉛めっき工法」によるものとする。</p> <p>◎ショットプラスト又はグリットプラストにより摩擦面の表面粗度を50μmRz以上確保する場合の表面粗度の確認方法は次のいずれかによる。 （1）表面粗度測定機による測定 （2）プラスト機器の性能表による確認 （3）スプライスプレート販売元からの表面粗度検査結果証明書による確認 上記の方法により確認できない場合は、すべり係数試験（サンプル試験）を行い、すべり係数値0.45以上を確認すること。</p> <p>◎高力ボルトを工事現場に搬入後、JIS形高力ボルトは、トルク係数値の確認試験を（行う・行わない）。</p> <p>◎確認試験の数量は、呼び径ごとに代表ロットを選び、その中から任意に取り出した5セットとする。</p> | 種類の記号 | 規格番号・規格名称等 | 適用箇所 | | | | | | | | | | 規格番号等 | 規格名称等 | セットの種類 | 建築基準法に基づき指定又は認定 | トルシア形高力ボルト | JSS II 09 | JIS B 1186 | JIS形高力ボルト | 2種（F10T） | 建築基準法に基づき指定又は認定 | 溶融亜鉛めっき高力ボルト | 1種（F8T） | 7章 鉄骨工事 | <p>◎トルシア形高力ボルトは、軸力の確認試験を（行う・行わない）。</p> <p>◎締付け施工の確認は、JASS6 6.3〔締付け施工の確認〕に準じる。</p> <p>◎原則として本接合ボルトを仮ボルトとして使用しないこと。 ◎仮ボルトの本数は標仕7.10.5（2）～（4）とし、本接合完了までの応力に対して検討を行うこと。</p> <p>◎普通ボルトの戻しめは（二重ナット・ナットの溶接・ゆるみ防止用特殊ナット）による。ただし、母屋・胴縁類の取付用ボルトは、全ねじボルトとする。戻り止めは省略できない。</p> <p>◎普通ボルトの座金は（JIS B 1256 ）による。</p> <p>⑥ 普通ボルト接合</p> <p>◎溶接作業は、工場作業を原則とする。ただし、やむを得ない場合は監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎溶接技能者に対して、技量付加試験を（行う・行わない）。</p> <p>◎開先の形状は構造図による。</p> <p>◎溶接部の余盛り高さは、JASS6 付則6〔鉄骨精度検査基準〕付表3〔溶接〕による。</p> <p>◎スカラップの形状は、図示による。</p> <p>◎鋼製エンドタブの切断は（行う・行わない）。行う場合は図示による。</p> <p>◎エンドタブ、表当て金等は、梁フランジ等の端から、1～5mm残して、部材断面を欠損しないよう直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。</p> <p>◎低応力高サイクル疲労を受ける部位は、図示による。</p> <p>⑨ 錆止め塗装</p> <p>◎素地ごしらは、標仕表18.2.3（A）・B・C）種とする。 ※A種及びB種は製作工場で行うものとする。</p> <p>◎塗料種別 鉄面 標仕表18.3.1の（A）・B・C・D）種 亜鉛めっき面 標仕表18.3.2の（A）・B・C）種</p> <p>◎塗料塗り種別 鉄面 標仕表18.3.3の（A）・B）種（工場1回、現場1回） 亜鉛めっき面 標仕表18.3.5の（A）・B）種（現場1回）</p> <p>⑪ 工事現場施工</p> <p>◎鉄骨建方の精度は、（社）日本建築学会「建築工事標準仕様書－6.鉄骨工事付則－6.鉄骨精度検査基準」による。ただし以下のものは図面による。 ・特に精度を必要とする構造物あるいは構造物の部分。 ・軽微な構造物あるいは構造物の部分。</p> <p>◎建方用アンカーボルトを（使用する・使用しない）。</p> <p>◎建方（及び付属鉄骨）用アンカーボルトの形状及び寸法は図示による。</p> <p>◎構造用アンカーボルトを（使用する・使用しない）。</p> <p>◎構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状及び寸法は図示による。</p> <p>◎アンカーボルトの保持及び埋込み工法は（A）・B）種とする。</p> <p>◎柱底均しモルタル工法は（A）・B）種とし、厚さは図示による。A種の場合の無収縮モルタルは、製造所の仕様による。</p> <p>◎摩擦面の処理は、（プラスチック処理・リン酸塩処理）とする。</p> <p>◎プラスト処理とする場合は、5.高力ボルト接合同様の方法で表面粗度50μmRz以上の確認を行う。</p> <p>◎リン酸塩処理とする場合は、すべり耐力等を確認するものとし、確認方法は（すべり試験）とする。すべり試験の要領は、溶融亜鉛めっき高力ボルト技術協会の「めっき高力ボルト接合設計施工指針」による。</p> | 13章 屋根及びびとい工事 | <p>① 一般事項</p> <p>◎屋根葺き材、緊結金物については、下地も含め引き抜き試験等により安全性を確認し、メーカー等の風圧計算書等をふまえ、監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎標準仕様書以外の工法は、専門業者の仕様による。</p> <p>◎建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速 $V_0 = (36)$ m/s 地表面粗度区分 （ I ・ II ・ III ・ IV ） 積雪区分 建設省告示第1455号 別表（ 35 ）</p> <p>◎屋根は、メーカーの10年保証を条件とする。</p> <p>◎とい受金物 材種（ SUS ） 形状（ 図示 ） 取付間隔（ 図示 ）</p> <p>◎材種（ 硬質塩化ビニル ） 径（ 図示 ）</p> <p>◎硬質塩化ビニル雨どいの1本の長さは、10m以内とし、伸縮に対応する工法を選択すること。</p> <p>◎ルーフドレン及びびといは、取付け完了後、清掃し、通水試験を行う。</p> <p>◎さがり止めは図面により、図示のもの以外は標仕13.5.3（1）（ア）（d）又は13.5.3（2）（イ）による。</p> <p>14章 環境配慮（グリーン）改修工事</p> <p>1. アスベスト含有建材の処理工事</p> <p>① 一般事項</p> <p>◎関係法令、都道府県の条例等を遵守すること。</p> <p>◎石綿ばく露防止対策等の実施内容を改標仕9.1.2（6）により見やすい場所に掲示すること。</p> <p>◎既存のアスベスト含有建材の分析結果は（賞与する・ない）</p> <p>◎事前の施工調査等を改標仕1.5.1及び大気汚染防止法により行うこと。 ・調査結果を石綿事前調査結果報告システムにより、労働基準監督署及び自治体に報告すること。監督員へも結果を提出すること。 ・調査結果は3年間保存すること。 ・分析によりアスベスト含有調査を行う場合は、JIS A 1481-IIによること。</p> <p>◎表示、掲示は次のとおり行うこと。 ・事前調査結果の概要を公衆が見やすい場所に掲示する。 ・「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ」を労働者及び周辺住民の見やすい場所に掲示する。 ・作業に従事する労働者への注意事項を見やすい場所に掲示する。 ・喫煙及び飲食の禁止並びに関係者以外の立入禁止について、作業場の見やすい箇所に掲示する。</p> <p>◎アスベスト粉塵濃度測定を（行う・行わない）。 ・濃度測定は「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法－第一部：光学顕微鏡法及び定電圧顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。 ・測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。 ・報告書を（ ）部作成し監督員に提出すること。 ・測定場所及び箇所は図示による。測定時期（ ）</p> <p>◎施工計画 （1）工事着手前に施工計画書（関係法令の作業計画内容を含む）を監督員に提出し、承諾を受けること。 （2）アスベスト除去工事に係る官公署他への手続きを遅延なく行うこと。</p> <p>◎アスベスト含有吹付け材の除去を直接行う専門工事業者については、工事に相応した技術を有することを証明する資料を監督員に提出する。</p> |
| 種類の記号 | 規格番号・規格名称等 | 適用箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 規格番号等 | 規格名称等 | セットの種類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築基準法に基づき指定又は認定 | トルシア形高力ボルト | JSS II 09 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| JIS B 1186 | JIS形高力ボルト | 2種（F10T） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築基準法に基づき指定又は認定 | 溶融亜鉛めっき高力ボルト | 1種（F8T） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|----|--------------------------|--|--|--|----|----|-----------------------|--|-------|-------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 | | | | 作成 | 承認 | 工事名称 | | 設計No. | 図面No. |
| | 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | | |
| | | | | | | | 図面名称 | | 整理No. | |
| | | | | | | | 建築工事特記仕様書(4) | | 縮尺 | |
| | | | | | | | - | | | |



| | | | | | | | | |
|----|---|--|--|-----------|----|-------------------------------|-------------|------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | A-05 |
| | | | | 発行 ● ● | | 図面名称 付近見取図・配置図 | 縮尺 1:400 | |

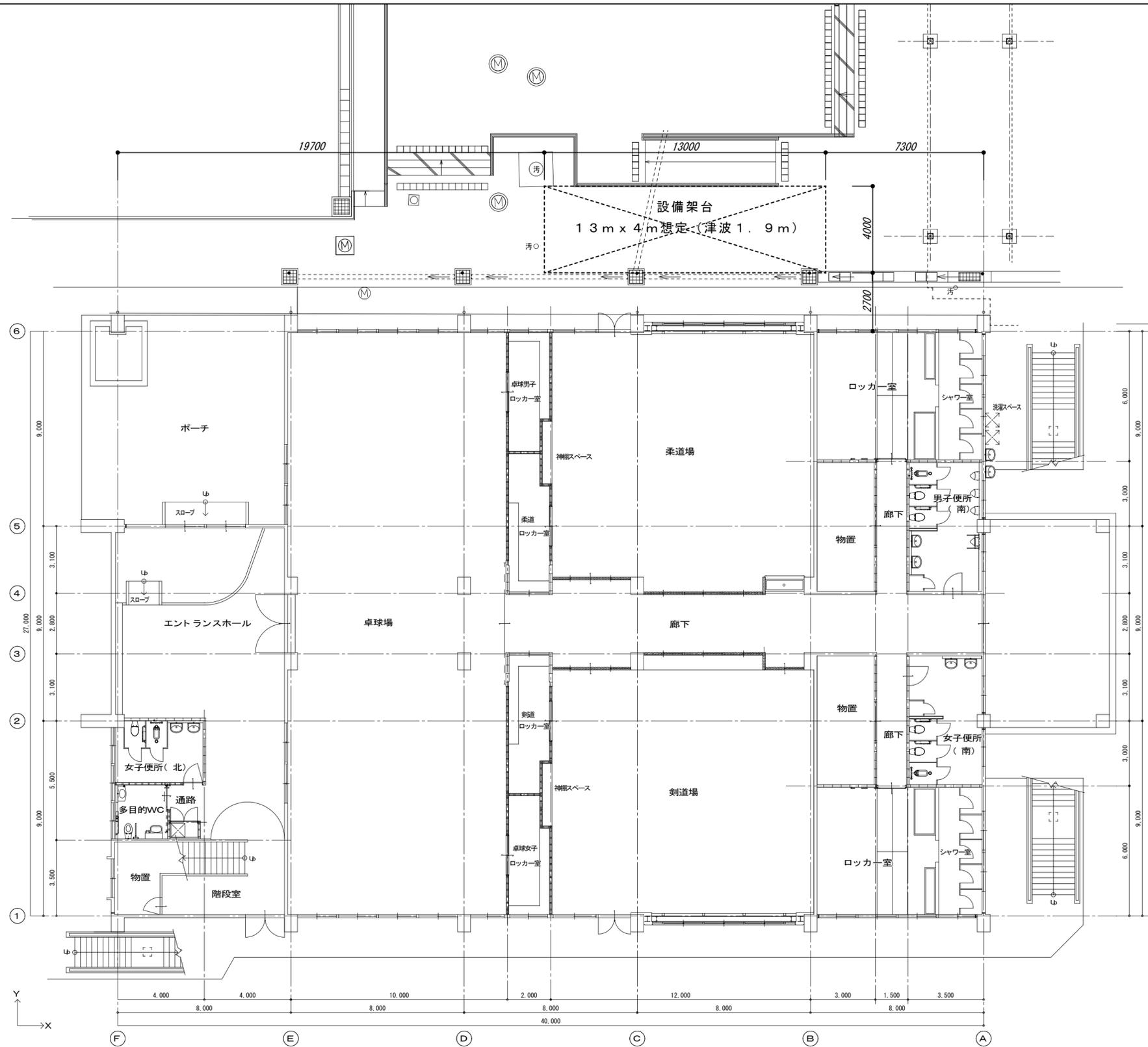
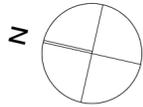


給食運搬車切り返しのため、キャスターゲートを
W = 5.0m 開閉できるようにすること

工事中、体育館への主使用出入口を確保し
安全に通行できる、対策をとること。[0.90]

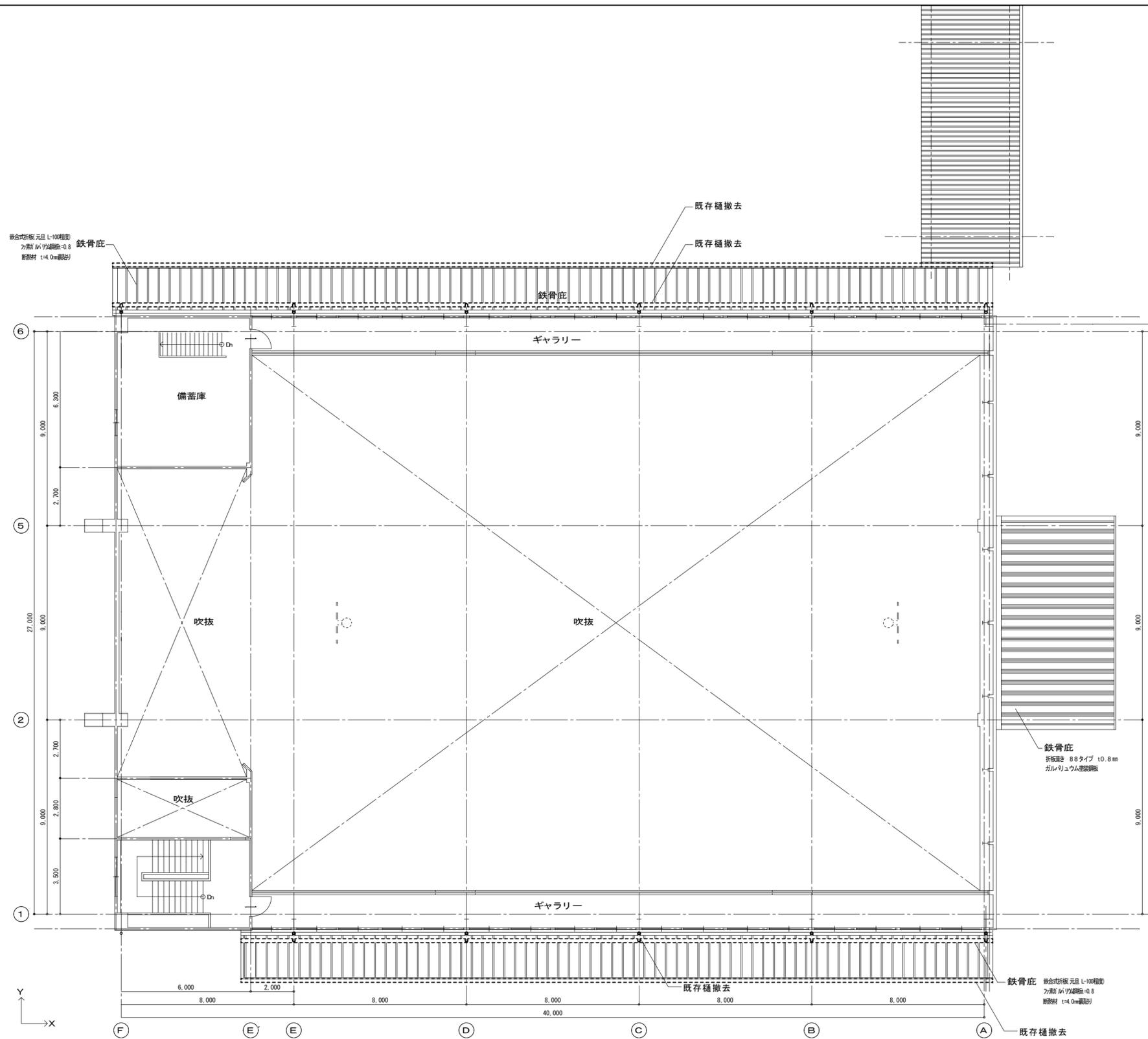
| 仮設工事 | |
|------|------------------------------------|
| 凡例 | 概要 |
| | 工事車両動線 |
| | 仮囲い：ガードフェンス H = 1.8 m |
| | 仮囲い：A型バリケード設置位置を示す。 |
| | 出入口：キャスターゲート W = 5.0 m × H = 1.8 m |
| | 仮設鉄板敷き |
| | 交通誘導員を示す |
| | 外部足場を示す |

| | | | | | | |
|----|---|----|----|-------------------------------|----------------|---------------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. A-06 |
| | | 発行 | | | 図面名称 仮設計計画図 | |



1階平面図 1/150

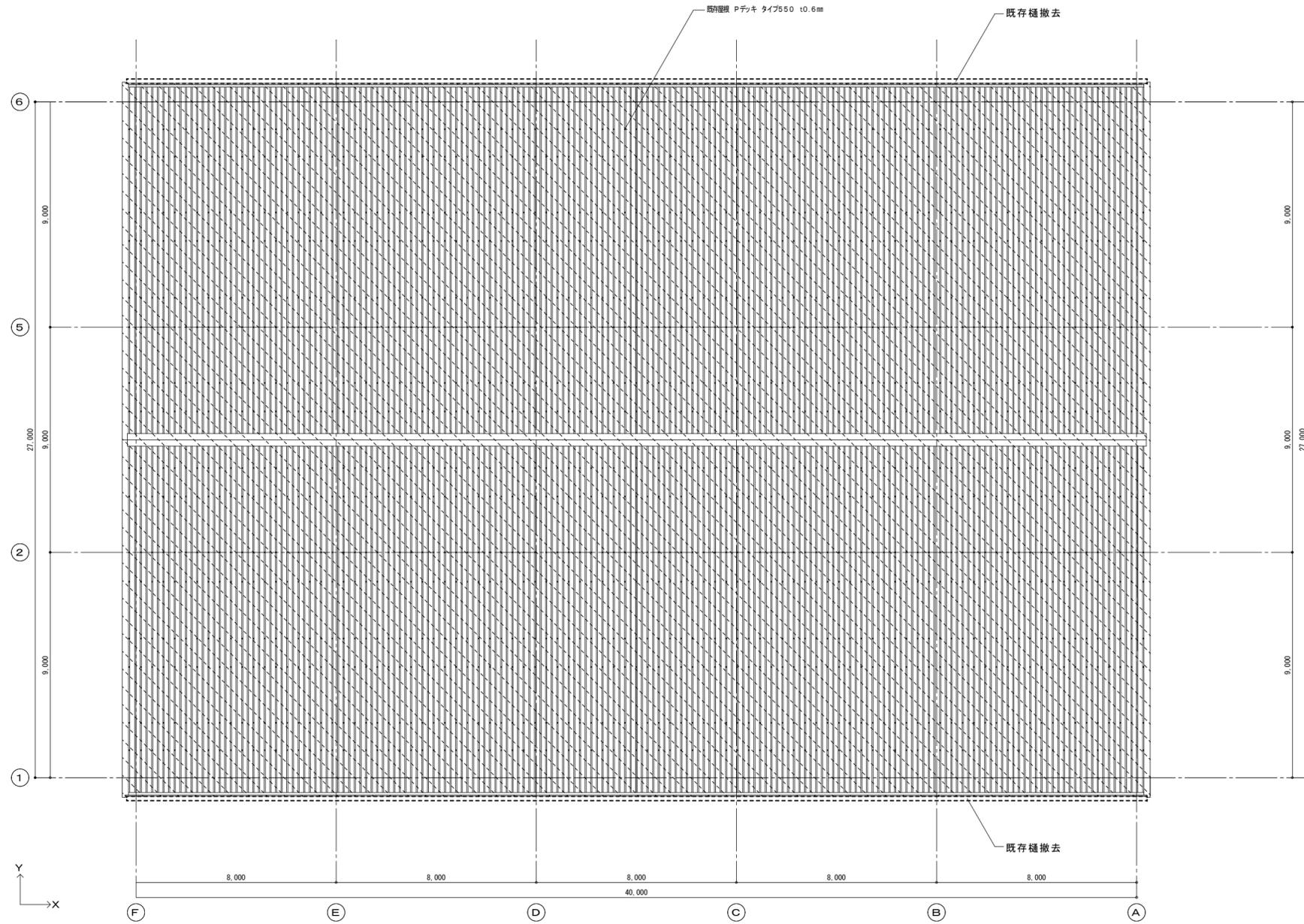
| | | | | | | | | | | | |
|----|--|--|--|--|---|--|-----------|----|-------------------------------|-------------|------|
| 訂正 | | | | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | A-07 |
| | | | | | | | 発行 ● ● | | 図面名称 改修前 1階平面図 | 縮尺 1:150 | |



3階平面図 1/150

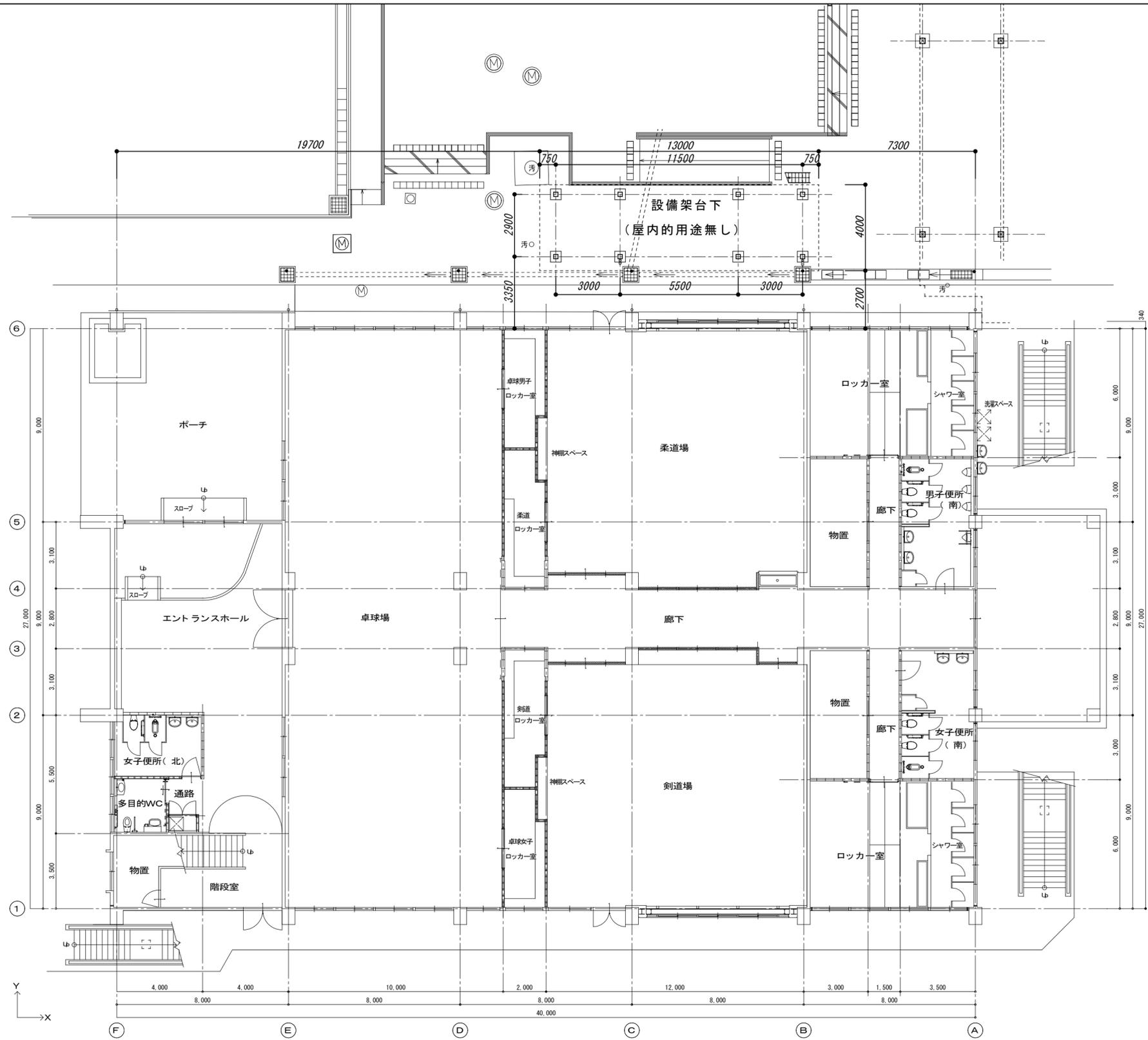
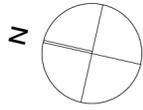
| | | | | | | | | | |
|----|---|--|--|--|----|----|-------------------------------|-------------|------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | A-09 |
| | | | | | 発行 | | 図面名称 改修前 3階平面図 | 縮尺 1:150 | |

凡例



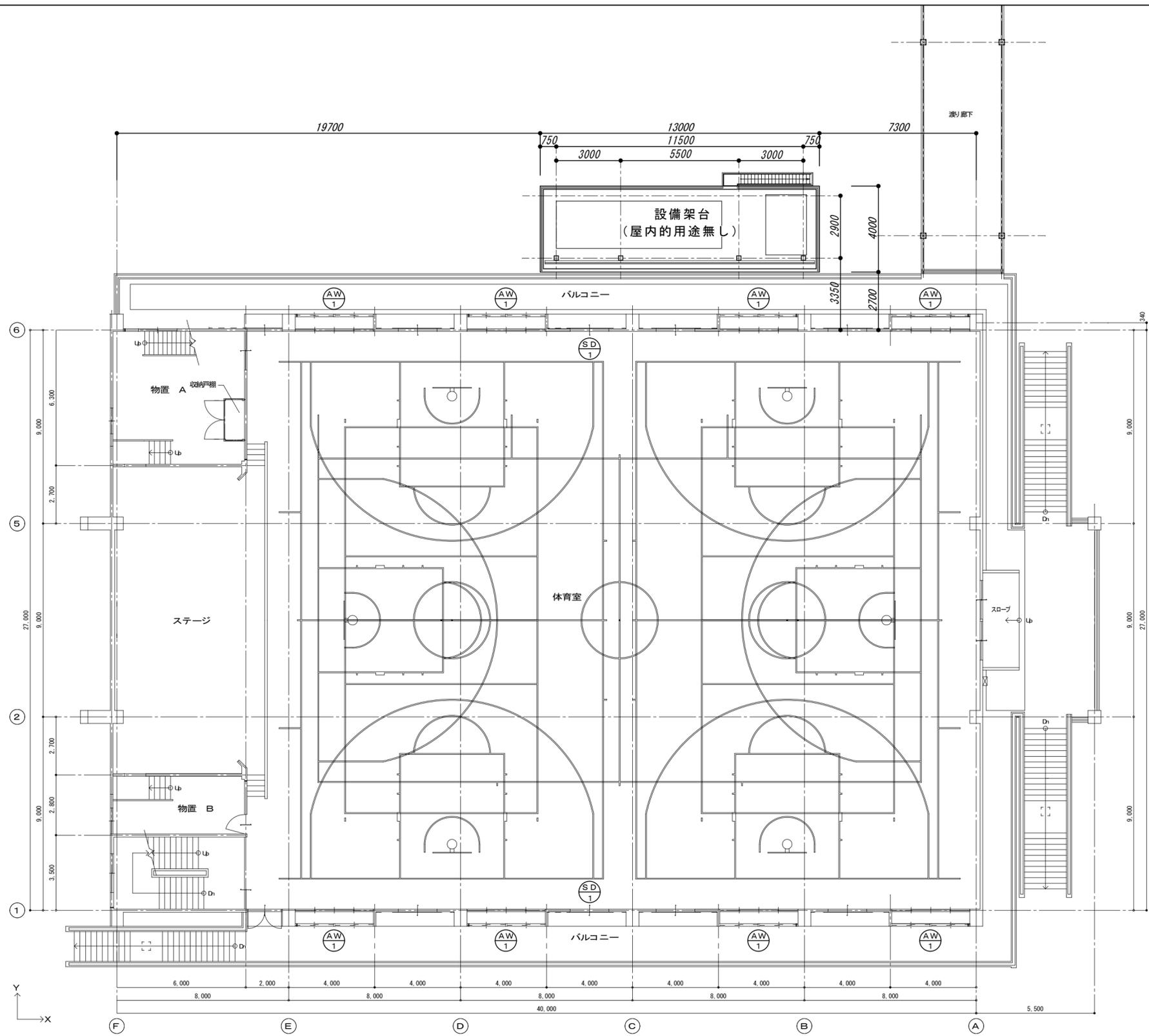
屋根伏図 1/150

| | | | | | | | | | |
|----|---|--|--|--|-----------|----|-------------------------------|-------------|---------------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. A-10 |
| | | | | | 発行 ● ● | | 図面名称 改修前 屋根伏図 | 縮尺 1:150 | |



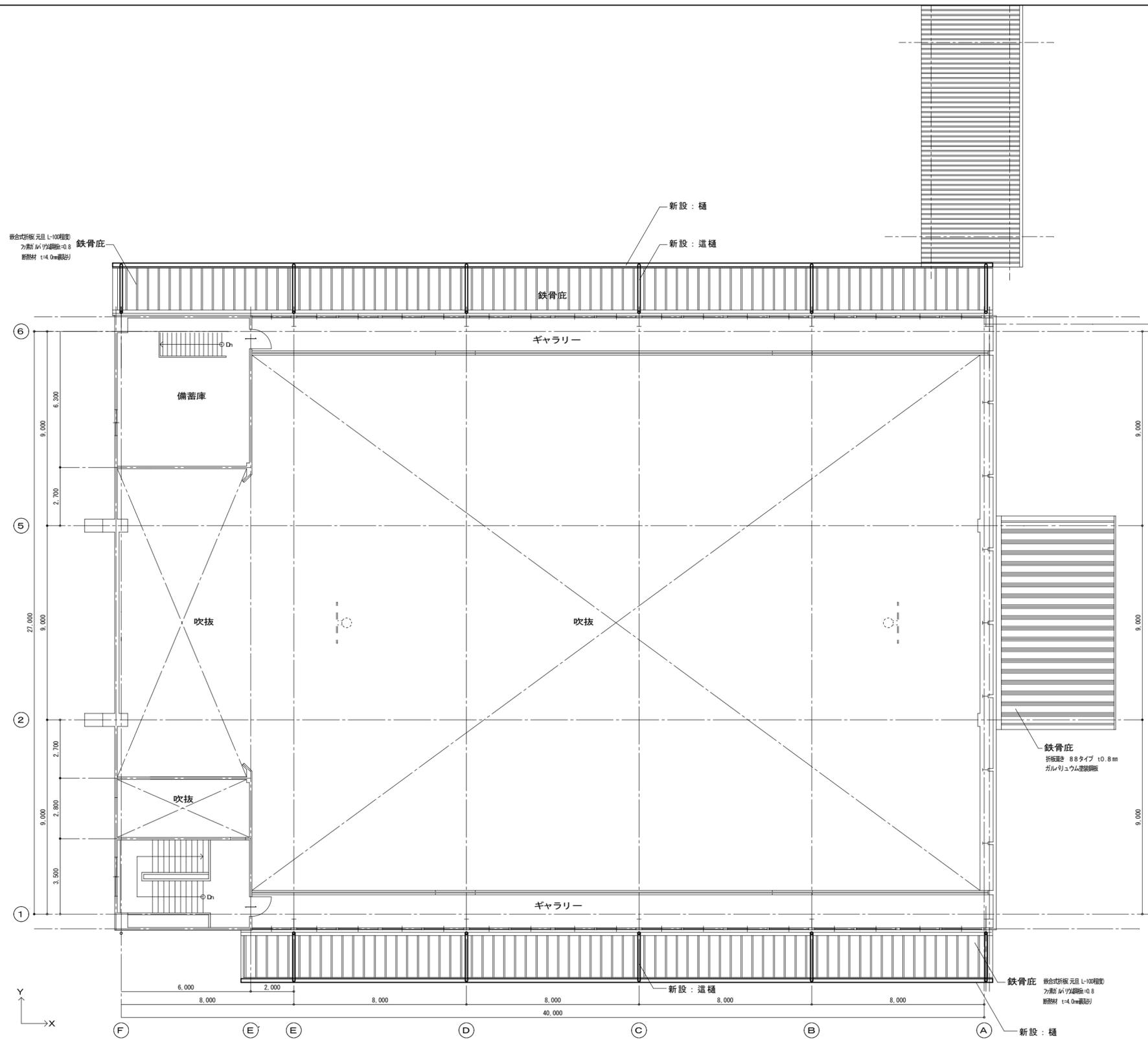
1階平面図 1/150

| | | | | | | | | | |
|----|---|--|--|--|-----------|----|-------------------------------|-------------|------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | A-11 |
| | | | | | 発行 ● ● | | 図面名称 改修後 1階平面図 | 縮尺 1:150 | |



2階平面図 1/150

| | | | | | | | | | |
|----|---|--|--|--|---------|---------|-------------------------------|-------------|---------------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | | 作成 . | 承認 . | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. A-12 |
| | | | | | 発行 . | | 図面名称 改修後 2階平面図 | 縮尺 1:150 | |



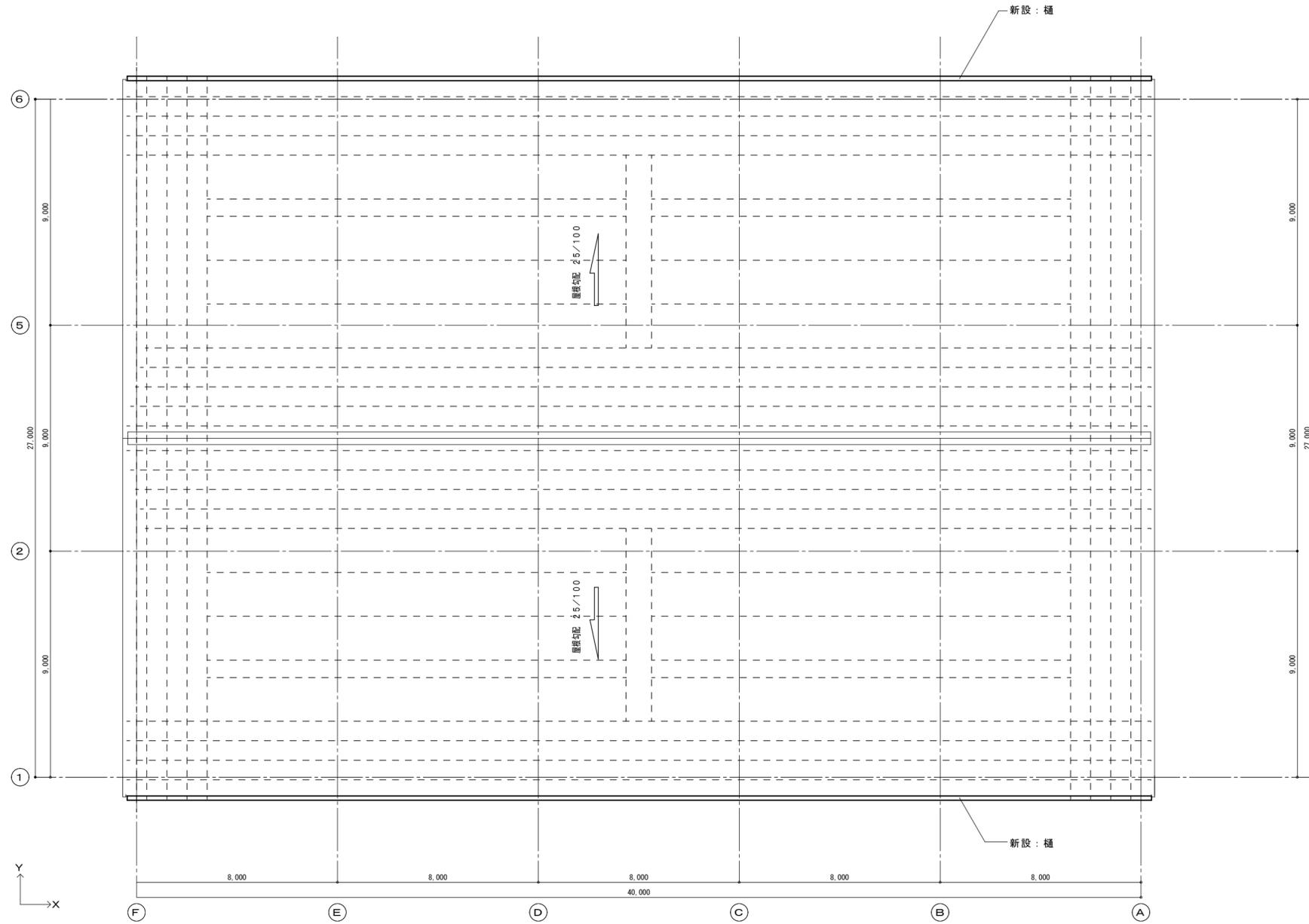
3階平面図 1/150

| | | | | | | | | | |
|----|---|--|--|--|-----------|----|-------------------------------|-------------|---------------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. A-13 |
| | | | | | 発行 ● ● | | 図面名称 改修後 3階平面図 | 縮尺 1:150 | |

凡例

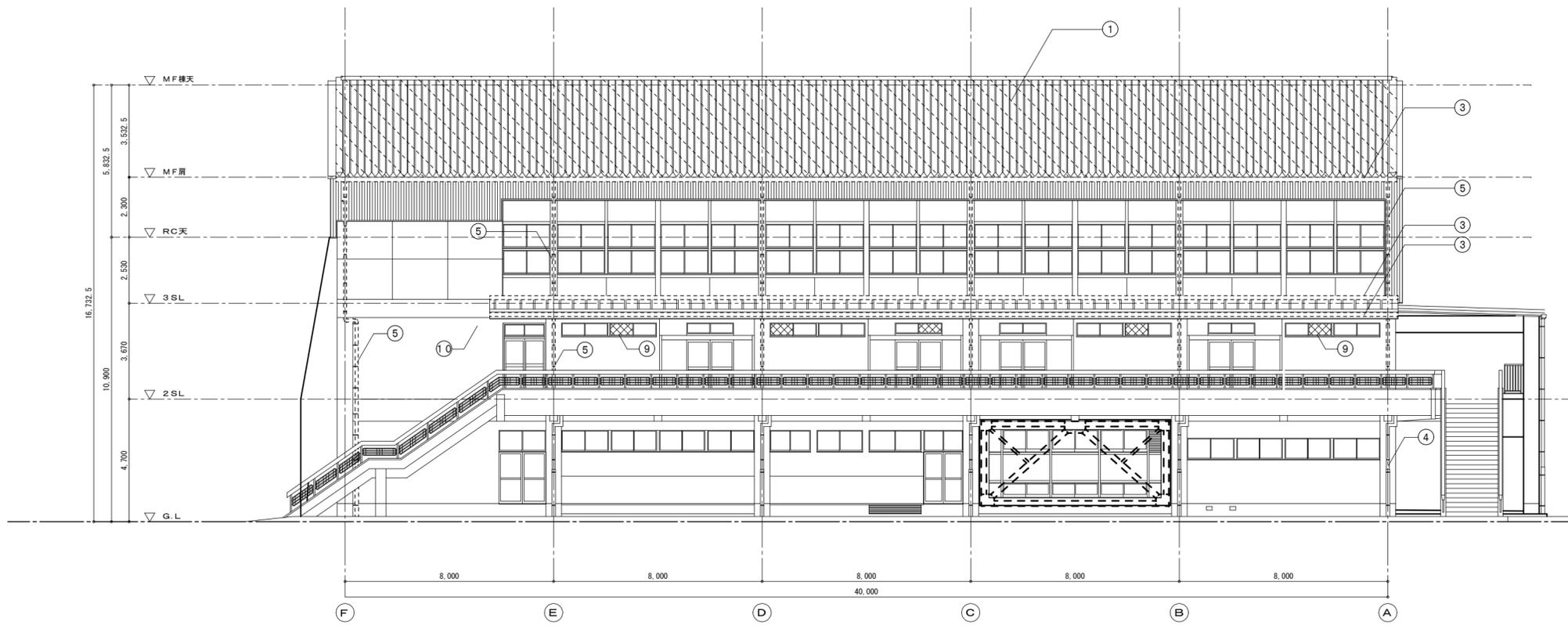
| | |
|------------|---|
| 新設屋根 | 屋根：ハイタフEGシート t=1.52 (ホワイト) 同等品 断熱材：ハイタフHITボード t=35 同等品 |
| --- 新設屋根下地 | 下地：ガルバリウム鋼板 t=0.8 |

特記：屋根改修の際は、適宜養生、清掃を行うこと。

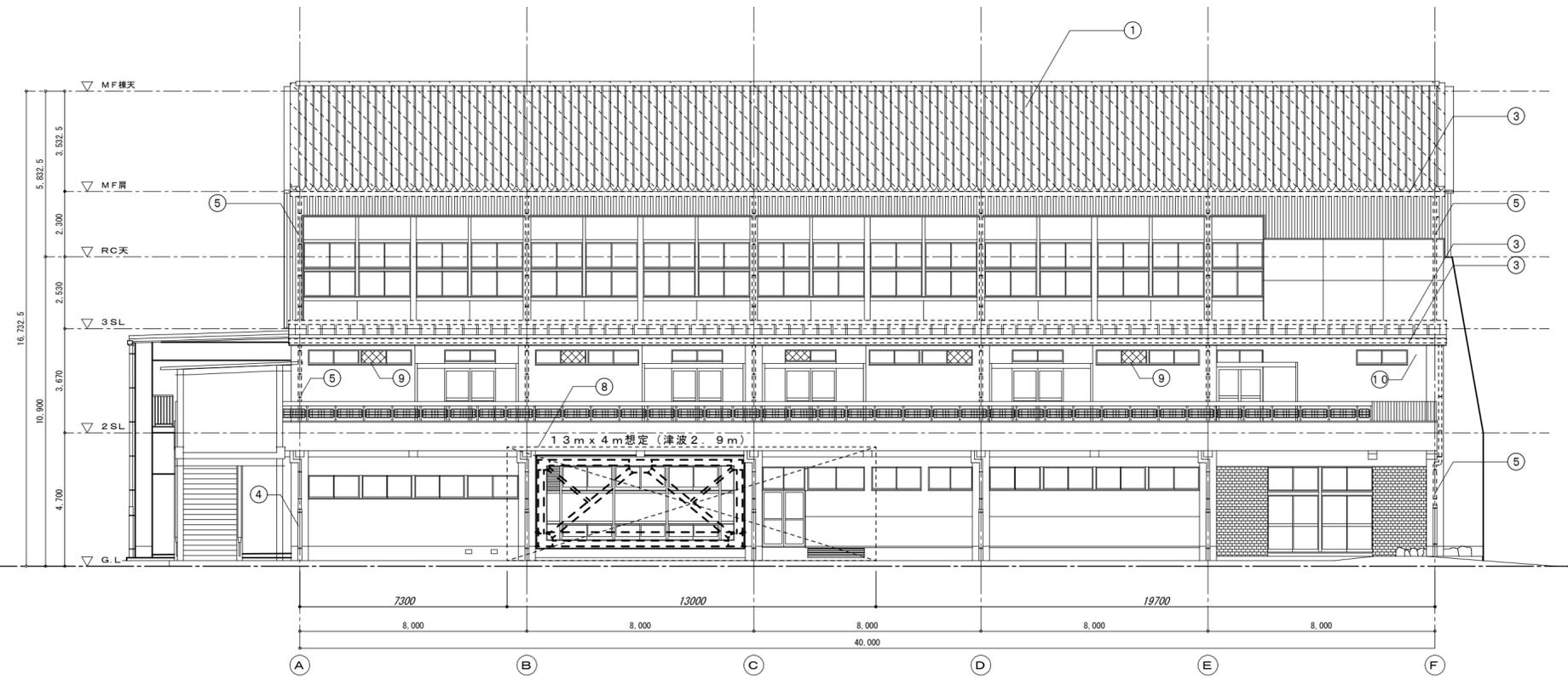


屋根伏図 1/150

| | | | | | |
|----|---|----|-----------------------|-------|-------|
| 訂正 | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | |
| | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | 図面名称 | 縮尺 | A-14 |
| | | | 改修後 屋根伏図 | 1:150 | |



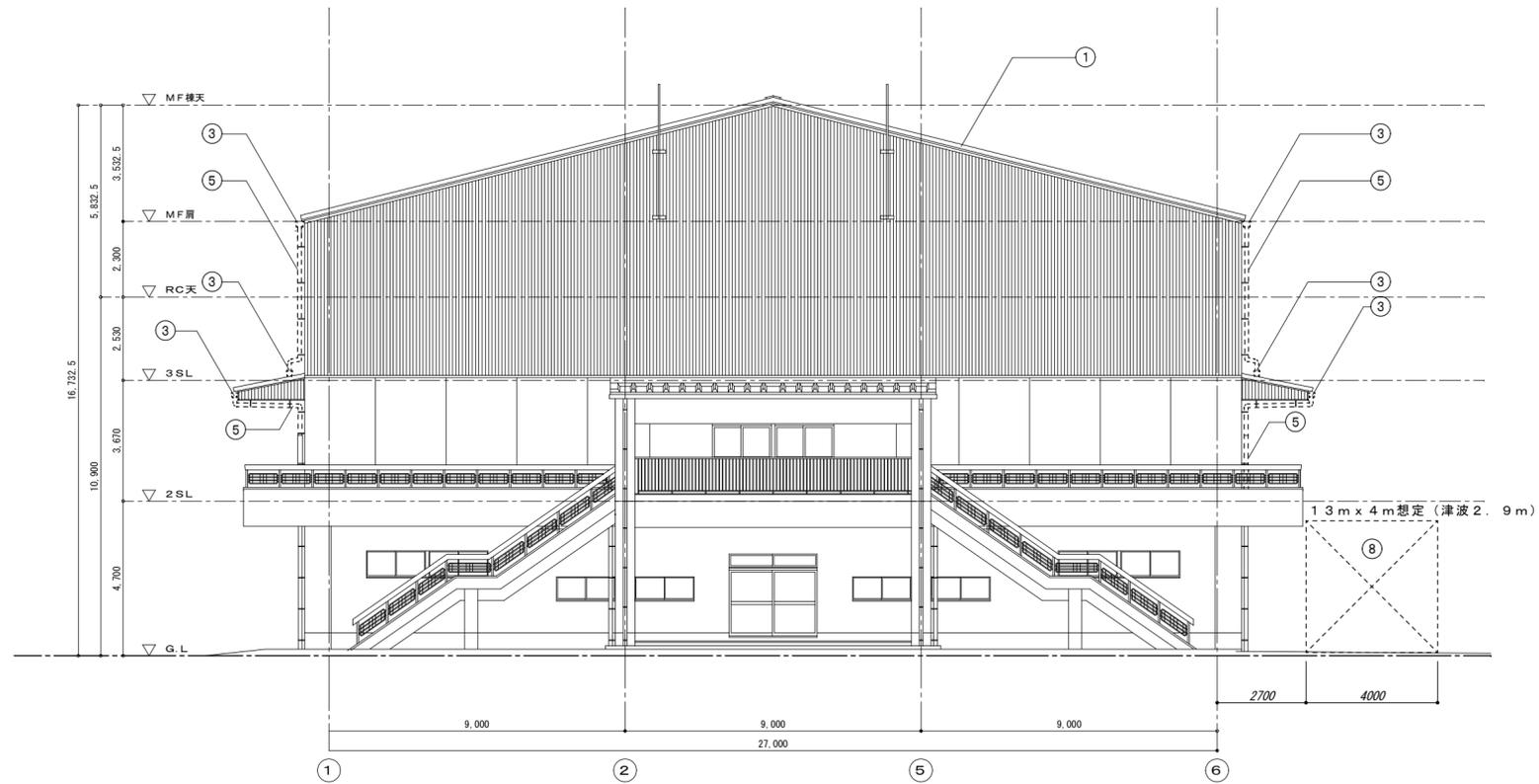
西立面図 1/150



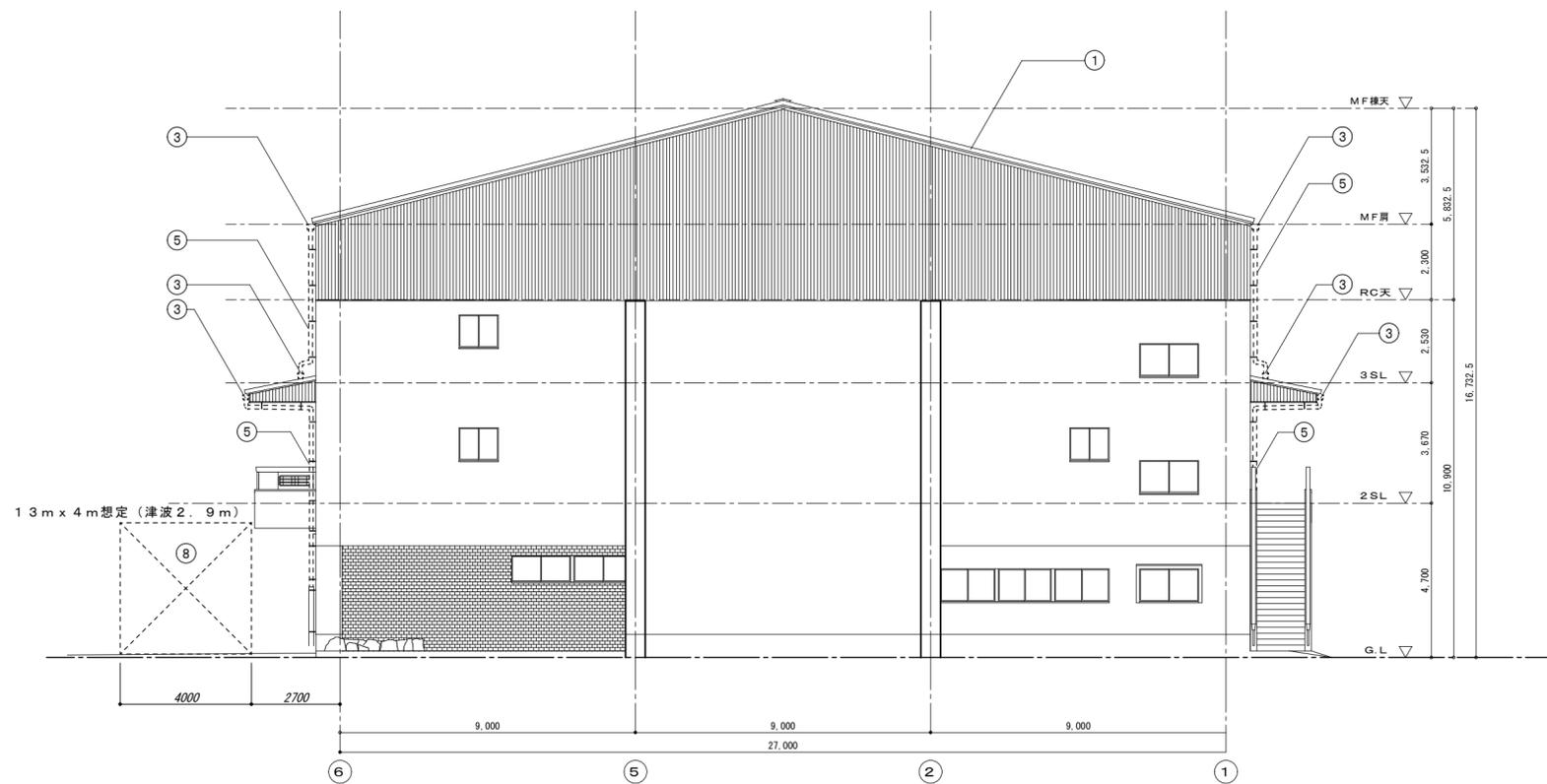
東立面図 1/150

| 記号 | 凡例等 | 部位 | 工事内容概要 |
|----|-----|-------|---|
| ① | | 屋根 | 既設屋根、高圧洗浄 |
| ② | | 屋根 | 屋根カバー工法：ハイタフEGシート t=1.52 同等品 断熱材：ハイタフHTボード t=35 同等品 【新設】 |
| ③ | | 軒種 | 軒種：塩ビW=150 【撤去】 |
| ④ | | タテ種 | カラーVP100φ (SUS摺り金物共) 【既設のまま】 |
| ⑤ | | タテ種 | カラーVP100φ (SUS摺り金物共) 【撤去】 |
| ⑥ | | 軒種 | 軒種：塩ビ H=165×W=200 【新設】 |
| ⑦ | | タテ種 | カラーVP100φ、125φ (SUS摺り金物共) 【新設】 |
| ⑧ | | 設備架台 | 鉄骨造：溶融亜鉛メッキ仕上げ 【新設】 手摺、階段：溶融亜鉛メッキ仕上げ (詳細図による) |
| ⑨ | | 建具 | 設備：空調冷暖管部：既設ガラス 【撤去】 ガラス撤去後アルミパネル入れ替え 【新設】 |
| ⑩ | | 防鳥ネット | ポリエステル製 網目25mm 糸径2.2mm 透明 配管ラック 周囲3方巻き |

| | | | | | | | | |
|----|---|--|--|-----------|----|-------------------------------|-------------|------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | A-15 |
| | | | | 発行 ● ● | | 図面名称 改修前 立面図(1) | 縮尺 1:150 | |



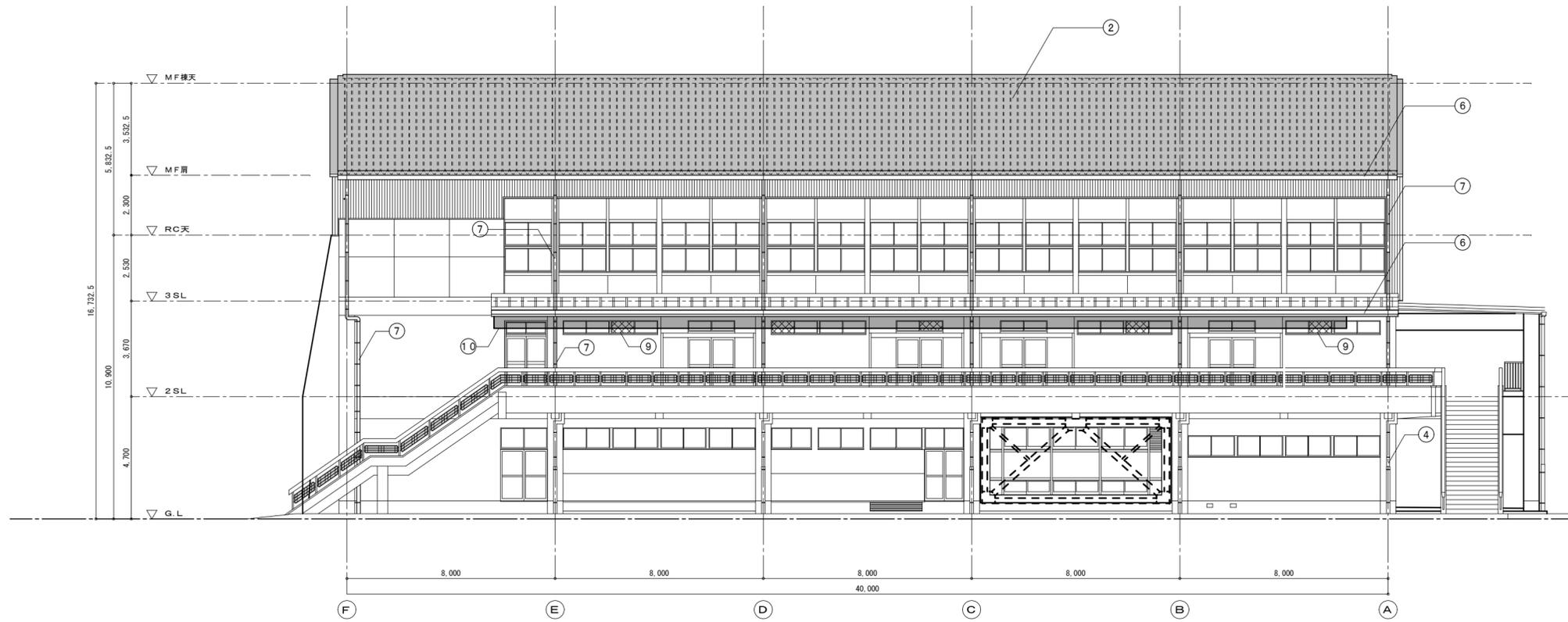
南立面図 1/150



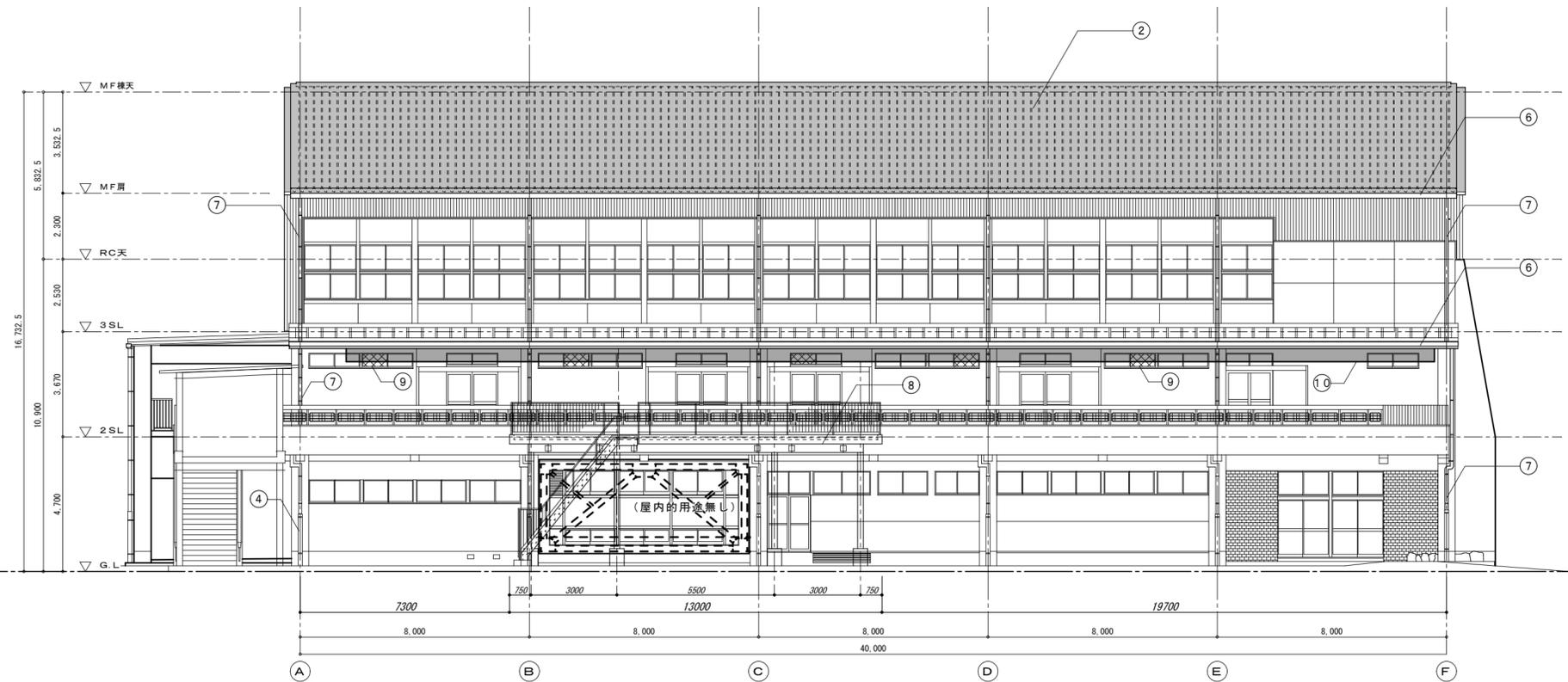
北立面図 1/150

| 記号 | 凡例等 | 部位 | 工事内容概要 |
|----|-----|-------|--|
| ① | | 屋根 | 既設屋根、高圧洗浄 |
| ② | | 屋根 | 屋根カバー工法：ハイタフEGシート t=1.52 同等品 断熱材：ハイタフHITボード t=35 同等品 【新設】 |
| ③ | | 軒種 | 軒種：塩ビW=150 【撤去】 |
| ④ | | タテ種 | カラーVP100φ (SUS摺り金物共) 【既設のまま】 |
| ⑤ | | タテ種 | カラーVP100φ (SUS摺り金物共) 【撤去】 |
| ⑥ | | 軒種 | 軒種：塩ビ H=165×W=200 【新設】 |
| ⑦ | | タテ種 | カラーVP100φ、125φ (SUS摺り金物共) 【新設】 |
| ⑧ | | 設備架台 | 鉄骨造：溶融亜鉛メッキ仕上げ 【新設】 手摺、階段：溶融亜鉛メッキ仕上げ (詳細図による) |
| ⑨ | | 建具 | 設備：空調冷暖管部 既設ガラス 【撤去】 ガラス撤去後アルミパネル入れ替え 【新設】 |
| ⑩ | | 防鳥ネット | ポリエスチル製 網目25mm 糸径2.2mm 透明 配管ラック 周囲3方巻き |

| | | | | | | | | | |
|----|---|--|--|--|----|----|-------------------------------|-------------|------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | A-16 |
| | | | | | 発行 | | 図面名称 改修前 立面図(2) | 縮尺 1:150 | |



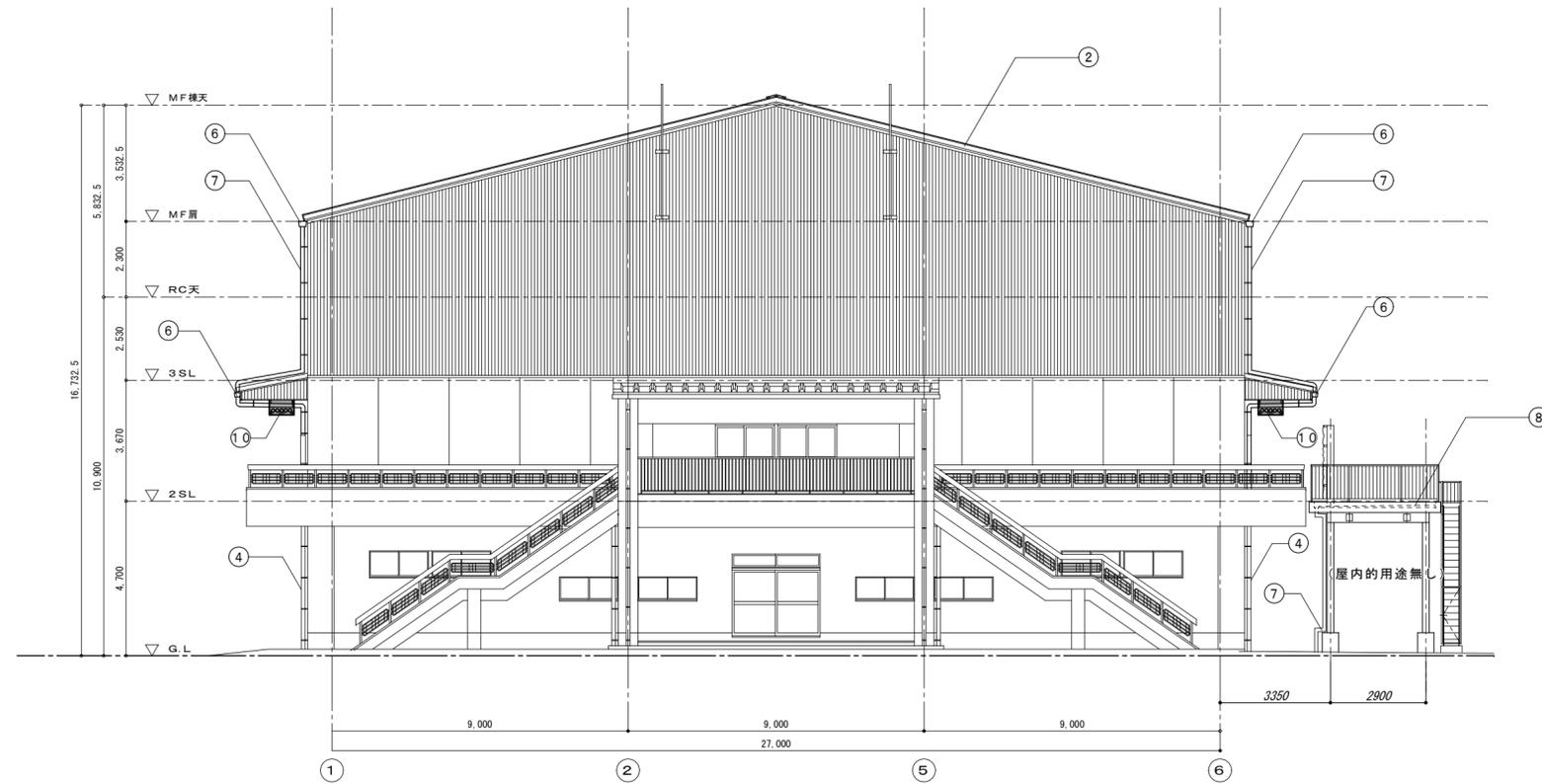
西立面図 1/150



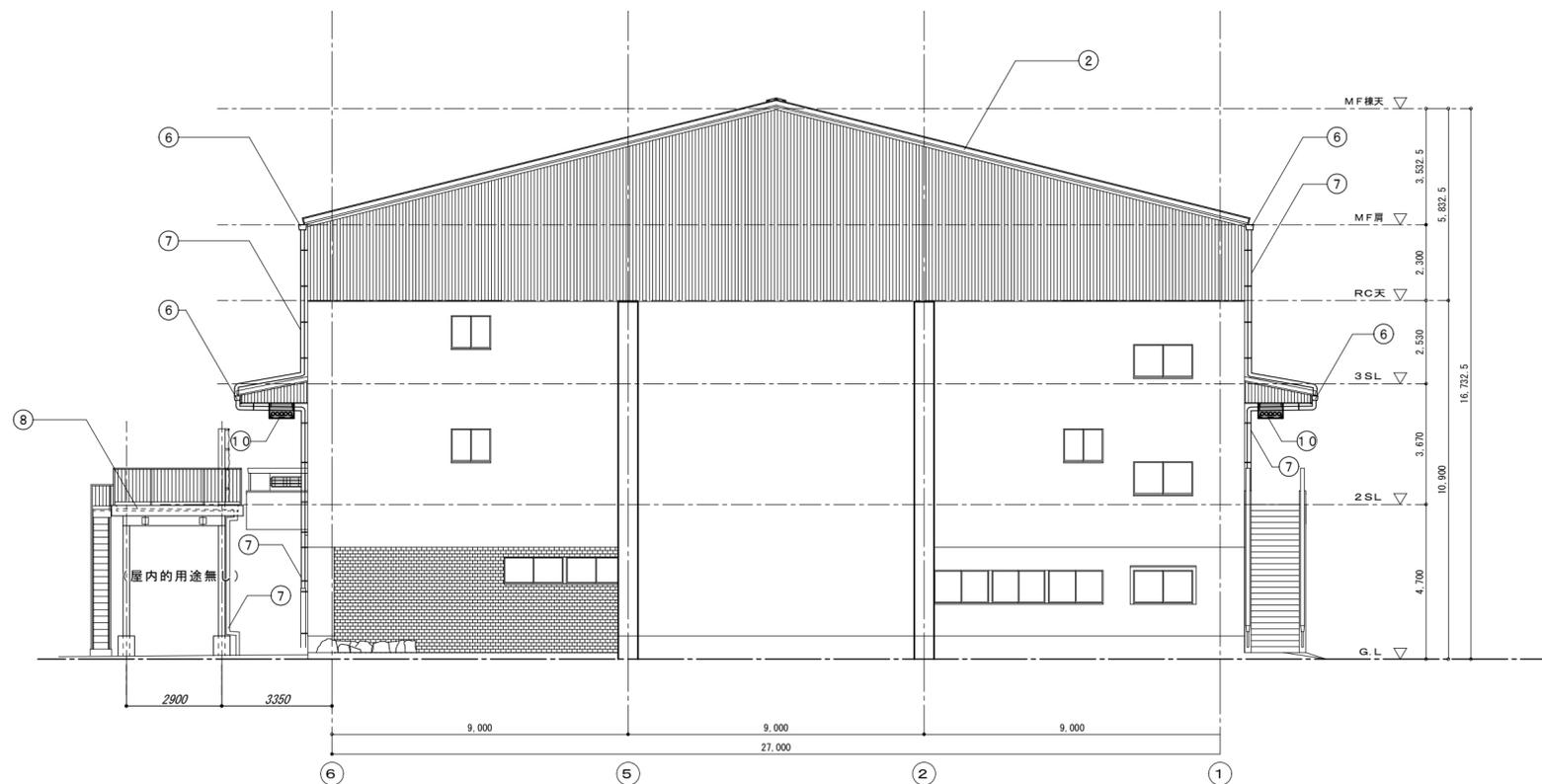
東立面図 1/150

| 記号 | 凡例等 | 部位 | 工事内容概要 |
|----|-----|-------|--|
| ① | | 屋根 | 既設屋根、高圧洗浄 |
| ② | | 屋根 | 屋根カバー工法：ハイタフEGシート t=1.52 同等品 断熱材：ハイタフHITボード t=35 同等品 【新設】 |
| ③ | | 軒種 | 軒種：塩ビW=150 【撤去】 |
| ④ | | タテ種 | カラーVP100φ (SUS摺り金物共) 【既設のまま】 |
| ⑤ | | タテ種 | カラーVP100φ (SUS摺り金物共) 【撤去】 |
| ⑥ | | 軒種 | 軒種：塩ビ H=165×W=200 【新設】 |
| ⑦ | | タテ種 | カラーVP100φ、125φ (SUS摺り金物共) 【新設】 |
| ⑧ | | 設備架台 | 鉄骨造：溶融亜鉛メッキ仕上げ 【新設】 手摺、階段：溶融亜鉛メッキ仕上げ (詳細図による) |
| ⑨ | | 建具 | 設備：空調冷暖管部 既設ガラス 【撤去】 ガラス撤去後アルミパネル入れ替え 【新設】 |
| ⑩ | | 防鳥ネット | ポリエチレン製 網目25mm 糸径2.2mm 透明 配管ラック 周囲3方巻き |

| | | | | | | | | |
|----|---|--|--|-----------|----|-------------------------------|-------------|------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | A-17 |
| | | | | 発行 ● ● | | 図面名称 改修後 立面図(1) | 縮尺 1:150 | |



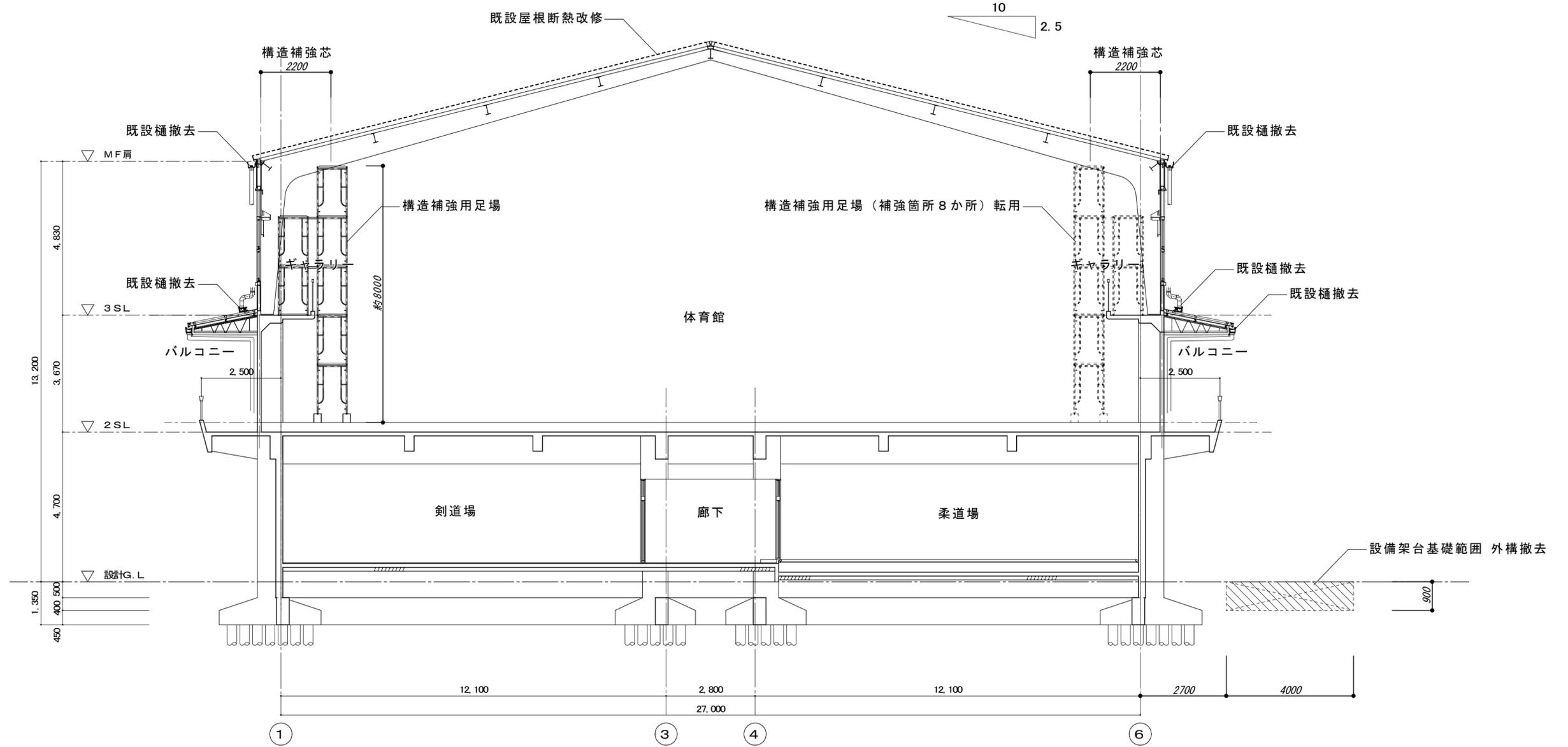
南立面図 1/150



北立面図 1/150

| 記号 | 凡例等 | 部位 | 工事内容概要 |
|----|-----|-------|--|
| ① | | 屋根 | 既設屋根、高圧洗浄 |
| ② | | 屋根 | 屋根カバー工法：ハイタフEGシート t=1.52 同等品 断熱材：ハイタフHITボード t=35 同等品 【新設】 |
| ③ | | 軒種 | 軒種：塩ビW=150 【撤去】 |
| ④ | | タテ種 | カラーVP100φ (SUS摺り金物共) 【既設のまま】 |
| ⑤ | | タテ種 | カラーVP100φ (SUS摺り金物共) 【撤去】 |
| ⑥ | | 軒種 | 軒種：塩ビ H=165×W=200 【新設】 |
| ⑦ | | タテ種 | カラーVP100φ、125φ (SUS摺り金物共) 【新設】 |
| ⑧ | | 設備架台 | 鉄骨造：溶融亜鉛メッキ仕上げ 【新設】 手摺、階段：溶融亜鉛メッキ仕上げ (詳細図による) |
| ⑨ | | 建具 | 設備：空調冷暖管部 既設ガラス 【撤去】 ガラス撤去後アルミパネル入れ替え 【新設】 |
| ⑩ | | 防鳥ネット | ポリエチレン製 網目25mm 糸径2.2mm 透明 配管ラック 周囲3方巻き |

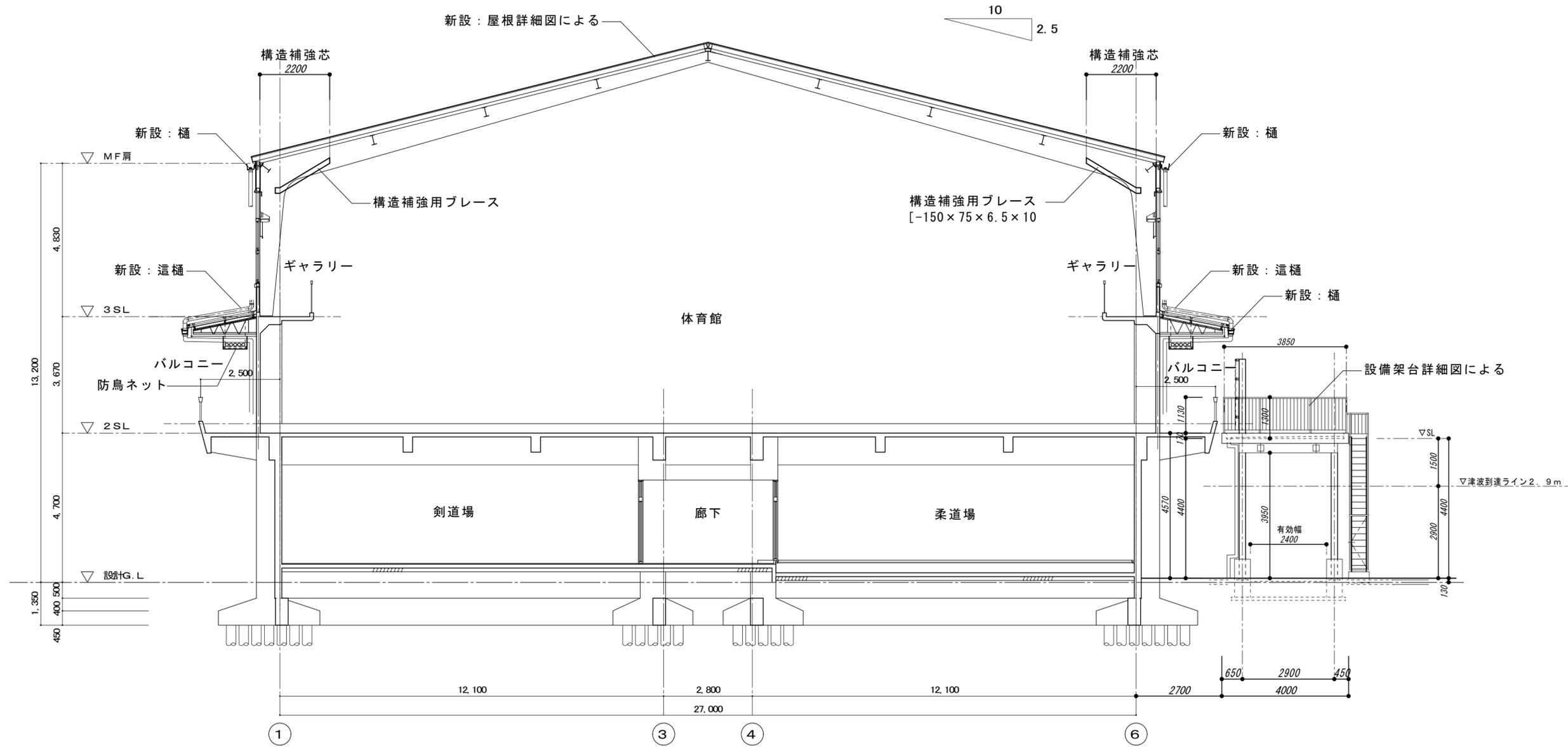
| | | | | | | | | |
|----|---|--|--|-----------|----|-------------------------------|-------------|------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | A-18 |
| | | | | 発行 ● ● | | 図面名称 改修後 立面図(2) | 縮尺 1:150 | |



C、D通り軸組図 1/100

特記
 鉄骨補強工事の溶接による床、壁等への損傷がないように養生を行うこと。
 足場設置の際、床面への損傷がないように養生を行うこと。

| | | | | | | | |
|----|--|---|----|----|-----------------------|-------|---------------|
| 訂正 | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. A-19 |
| | | | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | |
| | | | | | 図面名称 | 縮尺 | 整理No. |
| | | | | | 改修前 断面図 | 1:100 | |



C、D通り軸組図 1/100

| | | | | | | | |
|----|--|---|----|----|-------------------------------|-------|------|
| 訂正 | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | A-20 |
| | | | 発行 | | | 図面名称 | |
| | | | | | 改修後 断面図 | 1:100 | |

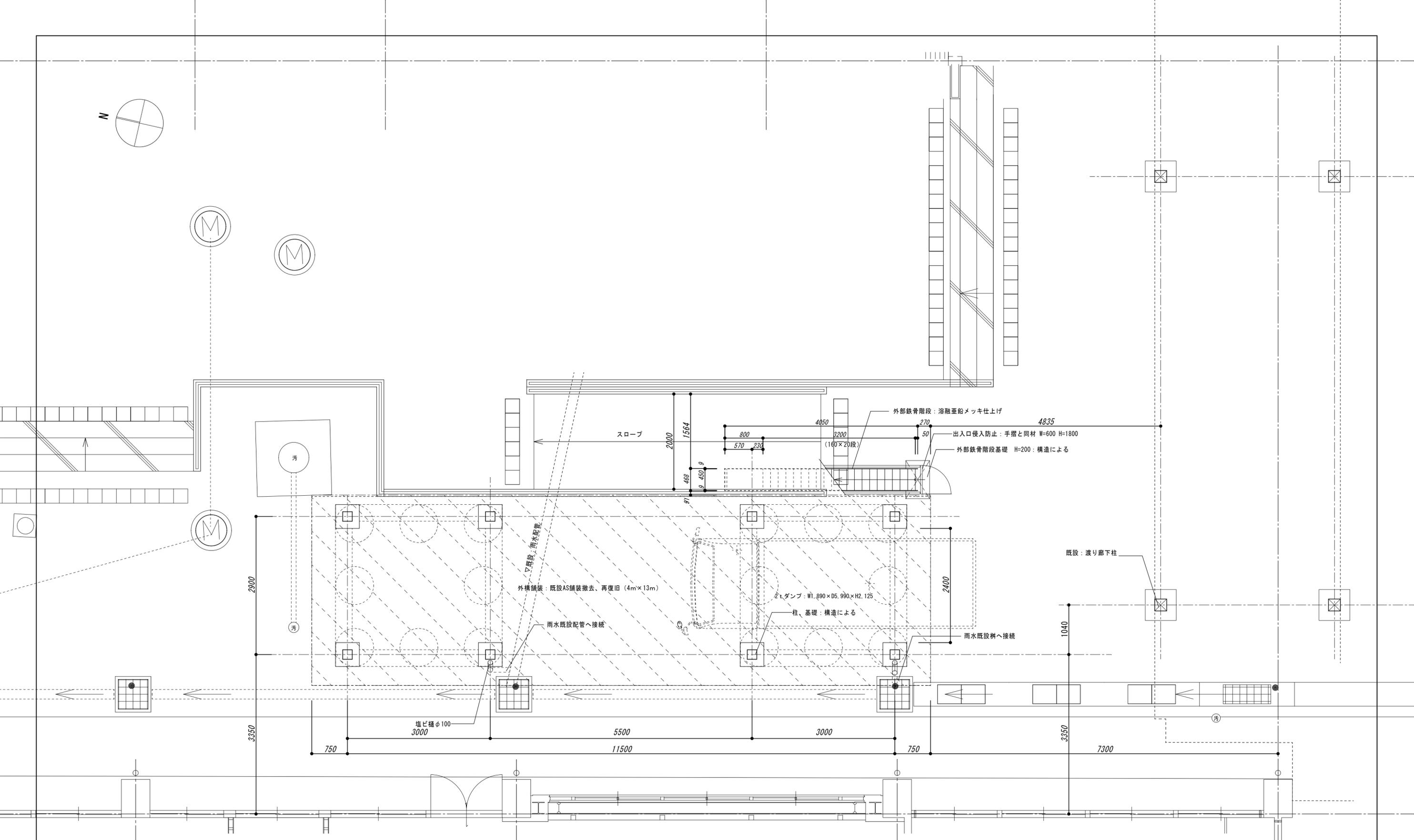
改修前建具表

| 記号 | 型式 | SD T | 2段両開中抜ドラランマ引違窓 |
|------|----------------------|---------|----------------|
| 姿図 | | | |
| 見込 | 86 | | |
| 材料 | スチール | | |
| ガラス | トーマイ学校用強化ガラス (t-4.0) | | |
| 付属金物 | ドアチェック、丁番 | | |
| | 円筒錠 | | |
| | その他金物一式 | | |
| 備考 | 2箇所 (体育室, 2階) | | |
| 記号 | 型式 | AW T | 2連引違窓 |
| 姿図 | | | |
| 見込 | 100 | | |
| 材料 | アルミ | | |
| ガラス | トーマイ学校用強化ガラス (t-4.0) | | |
| 付属金物 | アングルビス、他付属金物一式 | | |
| | 防球格子 | | |
| 備考 | 8箇所 (体育室, 2階) | | |
| 記号 | 型式 | | |
| 姿図 | | | |
| 見込 | | | |
| 材料 | | | |
| ガラス | | | |
| 付属金物 | | | |
| 備考 | | | |

改修後建具表

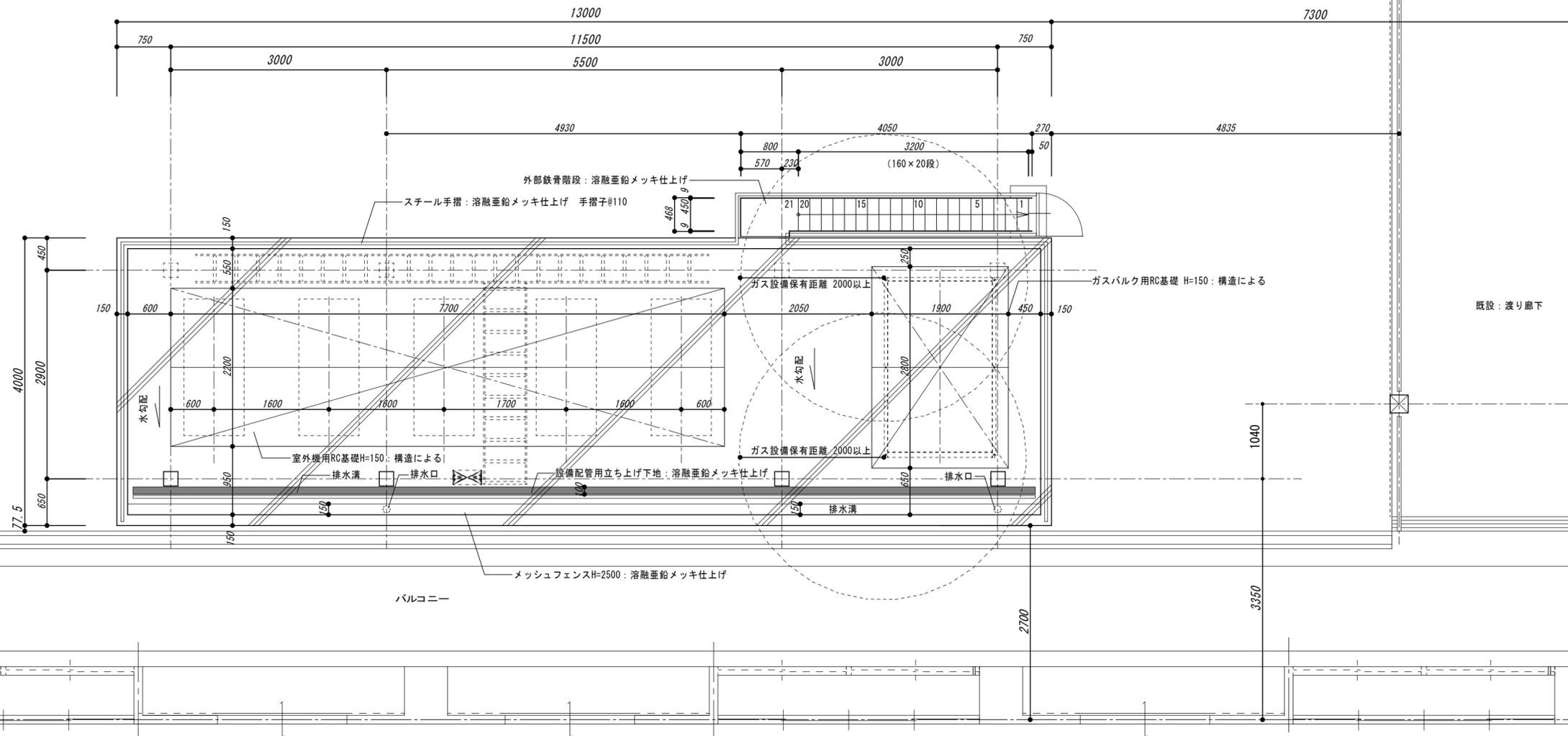
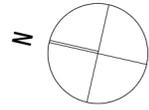
| 記号 | 型式 | SD T | 2段両開中抜ドラランマ引違窓 |
|------|----------------------|---------|----------------|
| 姿図 | | | |
| 見込 | 86 | | |
| 材料 | スチール | | |
| ガラス | トーマイ学校用強化ガラス (t-4.0) | | |
| 付属金物 | ドアチェック、丁番 | | |
| | 円筒錠 | | |
| | その他金物一式 | | |
| 備考 | 2箇所 (体育室, 2階) | | |
| 記号 | 型式 | AW T | 2連引違窓 |
| 姿図 | | | |
| 見込 | 100 | | |
| 材料 | アルミ | | |
| ガラス | トーマイ学校用強化ガラス (t-4.0) | | |
| 付属金物 | アングルビス、他付属金物一式 | | |
| | 防球格子 | | |
| 備考 | 8箇所 (体育室, 2階) | | |
| 記号 | 型式 | | |
| 姿図 | | | |
| 見込 | | | |
| 材料 | | | |
| ガラス | | | |
| 付属金物 | | | |
| 備考 | | | |

| | | | | | | | | | |
|----|---|--|--|--|-----------|----|-------------------------------|-------|-------|
| 訂正 | | | | | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. |
| | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敏 | | | | | | | | |



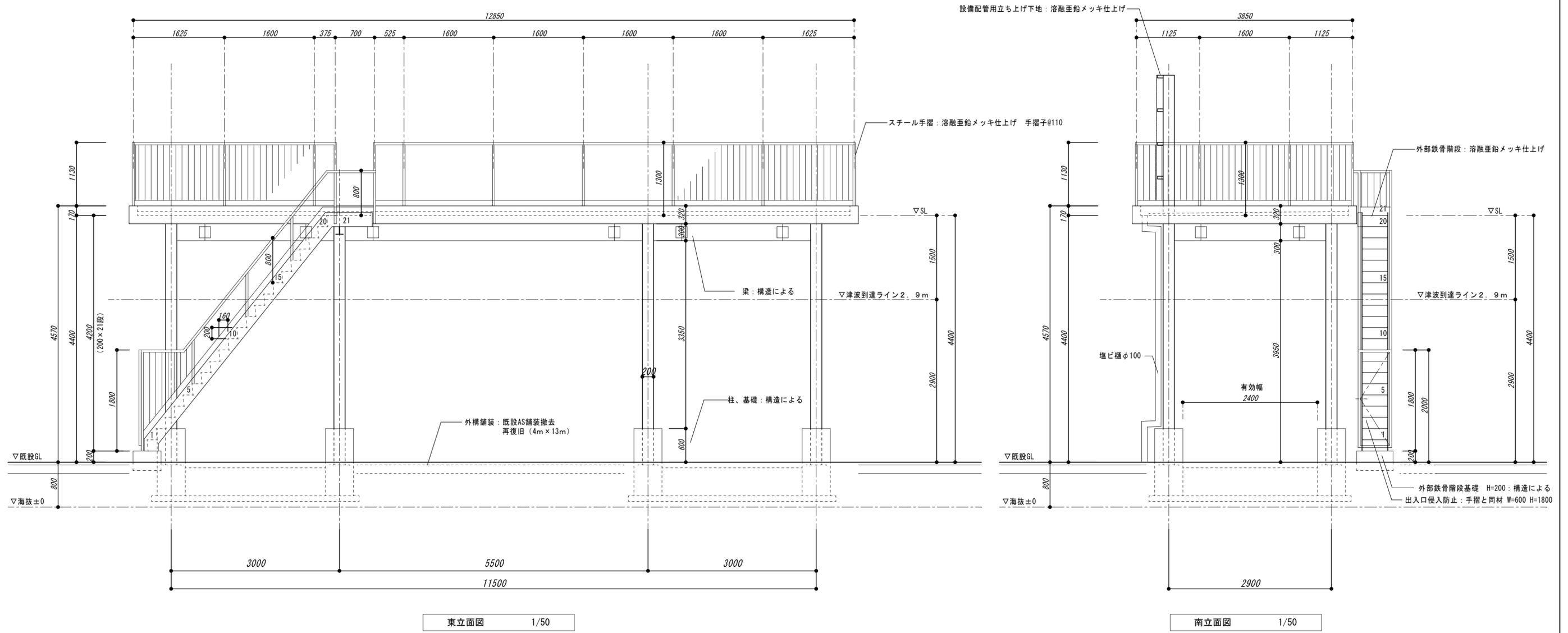
1階平面詳細図 1/50

| | | | | | |
|----|---|----|-----------------------|-------|-------|
| 訂正 | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | |
| | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | 図面名称 | 縮尺 | A-22 |
| | | | 設備架台 1階平面詳細図 | 1:50 | |

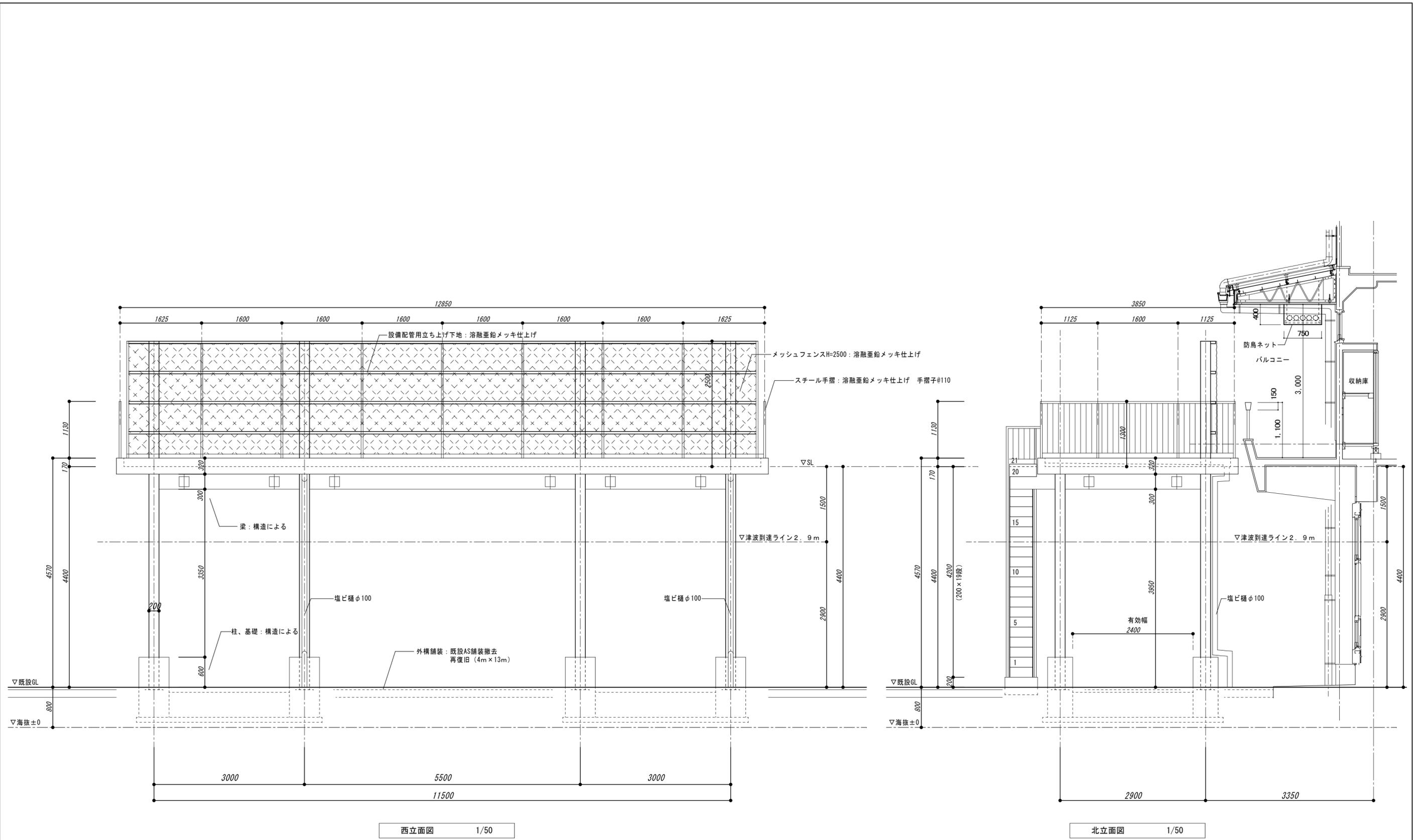


2階平面詳細図 1/50

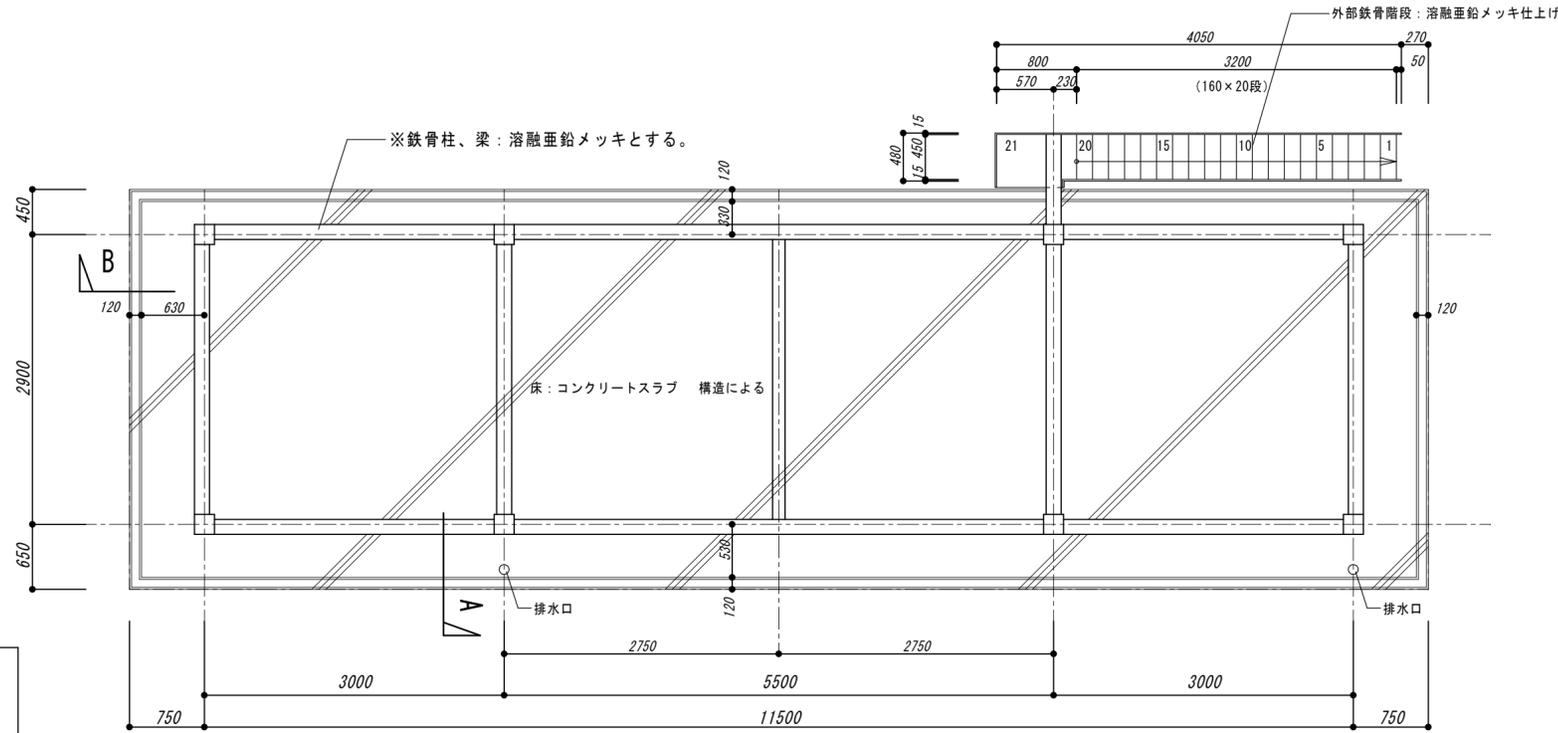
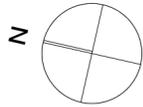
| | | | | | | | |
|----|--|---|----|----|-------------------------------|----------------------|---------------|
| 訂正 | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. A-23 |
| | | | 発行 | | | 図面名称 設備架台 2階平面詳細図 | |



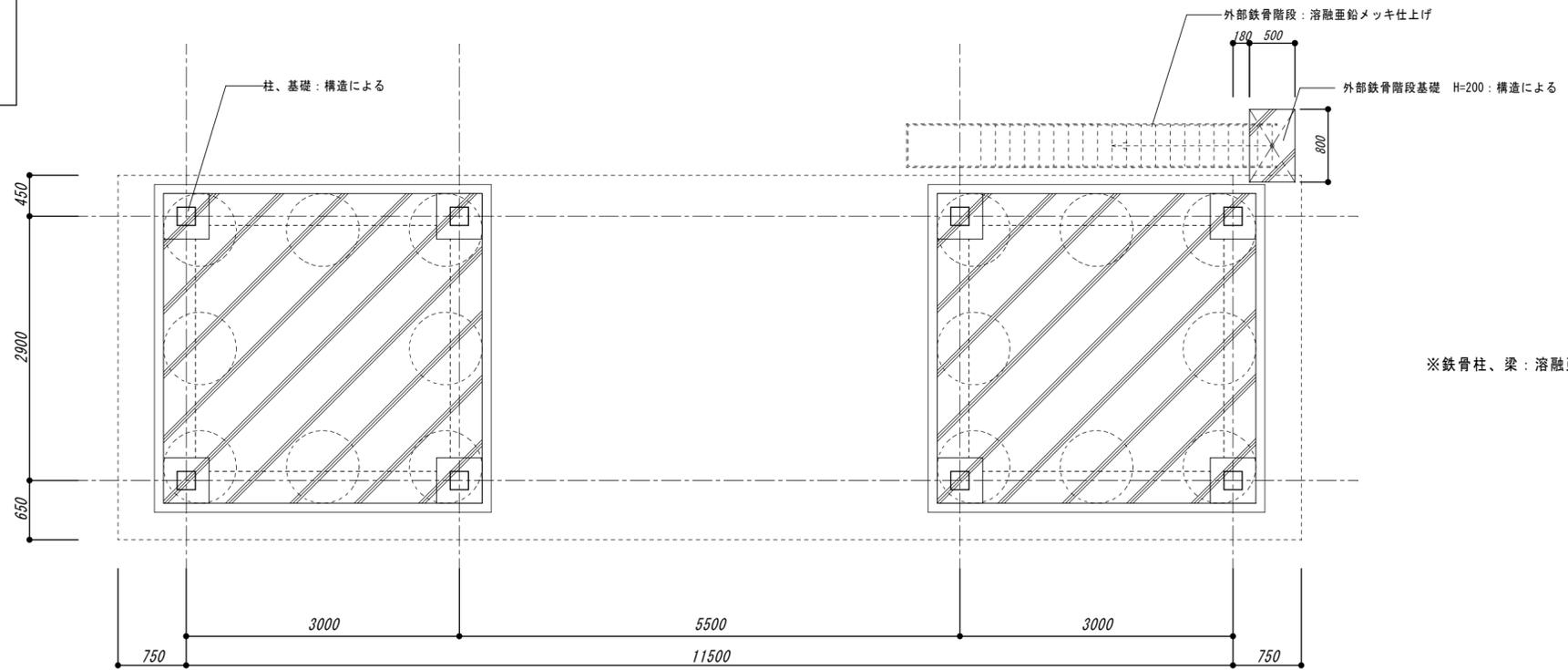
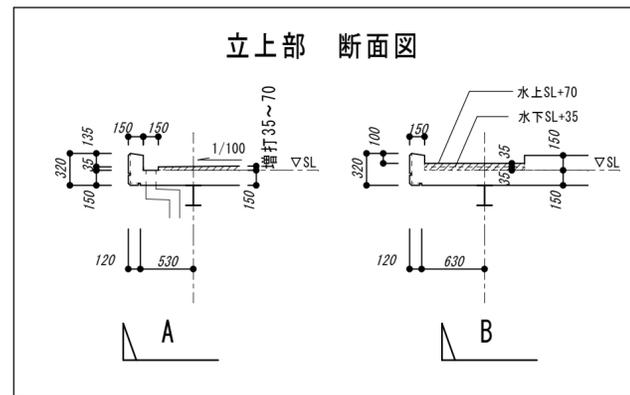
| | | | | | |
|----|--------------------------|----|-----------------------|-------|-------|
| 訂正 | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | |
| | 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | 図面名称 | 縮尺 | A-24 |
| | | | 設備架台 立面図(1) | 1:50 | |



| | | | | | |
|----|----|----|-----------------------|-------|-------|
| 訂正 | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | |
| | | | 図面名称 | 縮尺 | A-25 |
| | | | 設備架台 立面図(2) | 1:50 | |



天井伏図 1/50

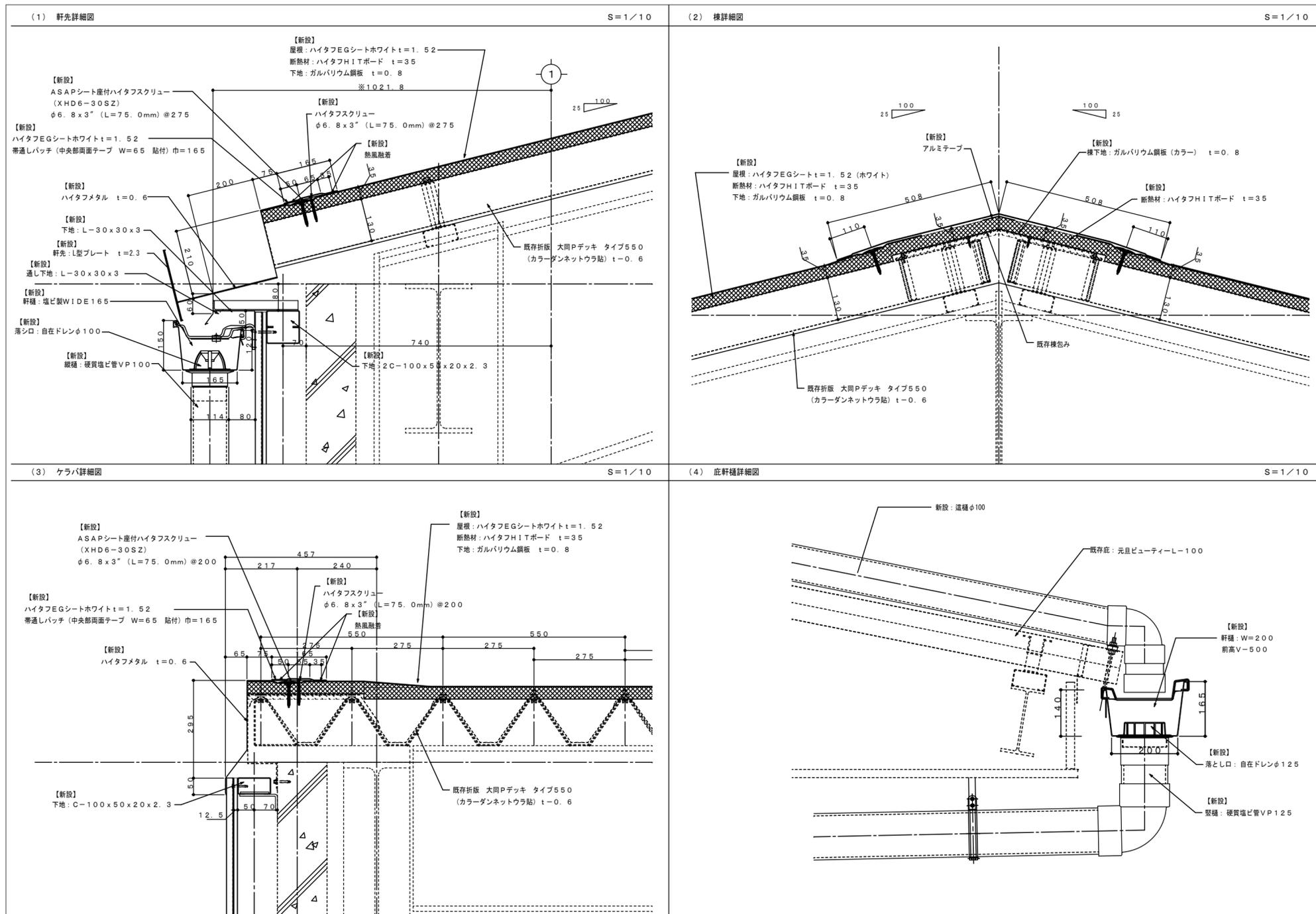


基礎伏図 1/50

※鉄骨柱、梁: 溶融亜鉛メッキとする。

| | | | | | |
|----|---|----|-----------------------|---------|-------|
| 訂正 | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | |
| | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | | | 図面名称 | 幅尺 |
| | | | | 設備架台 伏図 | 1:50 |
| | | | | 整理No. | A-26 |

特記：【品名、材料名は同等品とする】収まり参考図でありメーカーを特定するものではない。



| | | | | | | | |
|----|--|---|----|----|-------------------------------|--------------|---------------|
| 訂正 | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. A-27 |
| | | | 発行 | | | 図面名称 雑詳細図 | |

鉄骨構造標準図 7-2 (基礎配筋標準図)

6. 鉄筋の定着

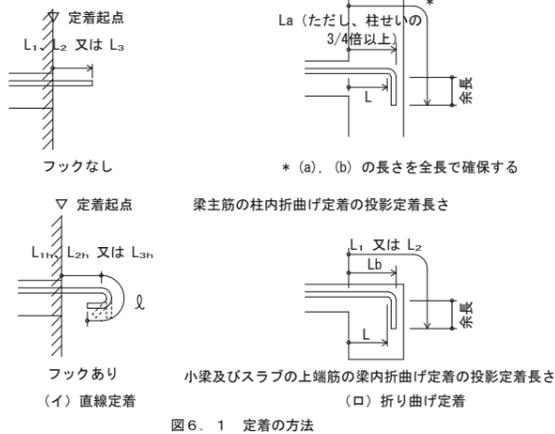
- (a) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、40d (軽量コンクリートの場合は50d) 表 6. 1 の定着長さのうち大きい値とする。
- (b) (a) 以外の鉄筋の定着の長さは、表 6. 1 による。

表 6. 1 鉄筋の定着の長さ

| 鉄筋の種類 | コンクリートの設計基準強度 (Fc) (N/mm ²) | フックなし | | フックあり | | | | | |
|-------|---|----------------|----------------|----------------|--------------------------|-----------------|-----------------|-----|-----|
| | | L ₁ | L ₂ | L ₃ | | L _{3h} | | | |
| | | | | 小梁 | スラブ | L _{1h} | L _{2h} | 小梁 | スラブ |
| SD295 | 18 | 45d | 40d | 20d | 10d かつ 150mm 以上 | 35d | 30d | 10d | - |
| | 21 | 40d | 35d | | | 30d | 25d | | |
| | 24, 27 | 35d | 30d | | | 25d | 20d | | |
| | 30, 33, 36 | 35d | 30d | | | 25d | 20d | | |
| SD345 | 18 | 50d | 40d | 20d | 10d かつ 150mm 以上 | 35d | 30d | 10d | - |
| | 21 | 45d | 35d | | | 30d | 25d | | |
| | 24, 27 | 40d | 35d | | | 30d | 25d | | |
| | 30, 33, 36 | 35d | 30d | | | 25d | 20d | | |
| SD390 | 21 | 50d | 40d | 20d | 10d かつ 150mm 以上 | 35d | 30d | 10d | - |
| | 24, 27 | 45d | 40d | | | 35d | 30d | | |
| | 30, 33, 36 | 40d | 35d | | | 30d | 25d | | |

- (注) 1. L₁, L_{1h}: (b) 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 2. L₂, L_{2h}: 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着長さ及びフックあり定着の長さ
 3. L₃: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
 4. L_{3h}: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
 5. フックあり定着の場合は、図 6. 1 に示すようにフック部分 ℓ を含まない。また中間部での折り曲げは行わない。
 6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- (c) 定着の方法は、図 6. 1 による。
 なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さ L が、表 6. 1 のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を表 6. 1 に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を 8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表 6. 2 に示す長さ (かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの 3/4 倍以上) をのみ込ませる。



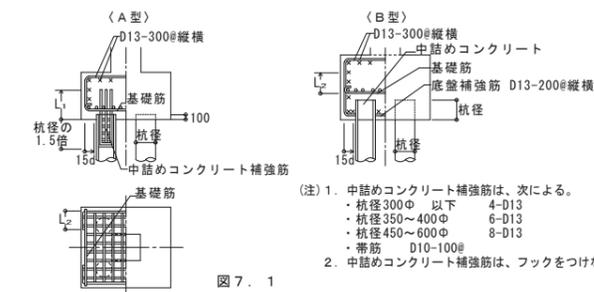
- (注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持ち梁及びスラブを含む。)
 2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

表 6. 2 投影定着長さ

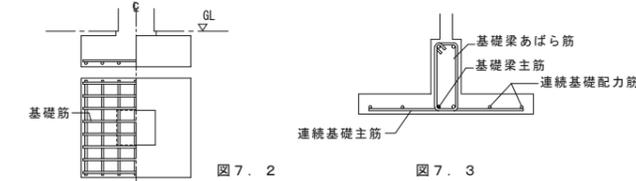
| 鉄筋の種類 | コンクリートの設計基準強度 (Fc) (N/mm ²) | La | Lb |
|-------|---|-----|-----|
| SD295 | 18 | 20d | 15d |
| | 21 | 15d | 15d |
| | 24, 27 | 15d | 15d |
| | 30, 33, 36 | 15d | 15d |
| SD345 | 18 | 20d | 20d |
| | 21 | 20d | 20d |
| | 24, 27 | 20d | 15d |
| | 30, 33, 36 | 15d | 15d |
| SD390 | 21 | 20d | 20d |
| | 24, 27 | 20d | 20d |
| | 30, 33, 36 | 20d | 15d |

7. 基礎

- A. 杭基礎の場合
 既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、図 7. 1 の A 型又は B 型とし、適用は特記による。特記がなければ B 型とする。なお、中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。下図以外の場合は、特記による。

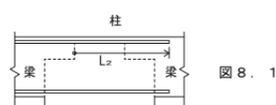


- B. 直接基礎 (独立基礎) の場合の配筋は、図 7. 2 による。
 C. 直接基礎 (連続基礎) の場合の配筋は、図 7. 3 による。

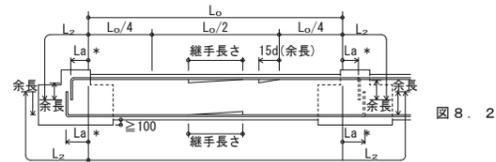


8. 基礎梁

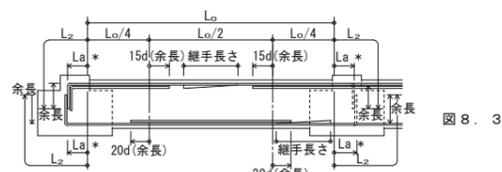
- A. 一般事項
 (1) 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図 8. 1 による。
 (2) 梁筋を柱内に定着する場合は次による。
 ① 梁主筋のみ込み長さは、柱せいの 3/4 以上とする。
 ② 上端筋: 曲げ降ろす。
 ③ 下端筋: 曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監督員の承諾を受けて、曲げ降ろすことができる。
 ④ 定着の方法は、6. (c) による。



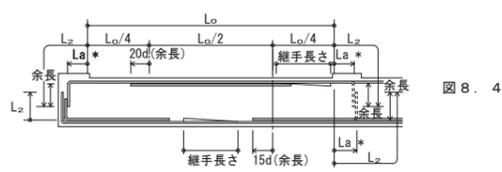
- B. 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- C. 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長 (耐圧スラブが付く場合は D. による)

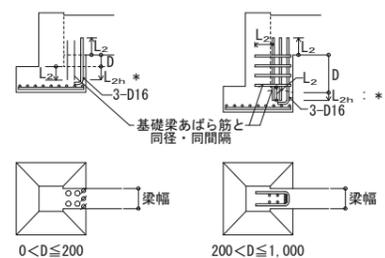


- D. 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



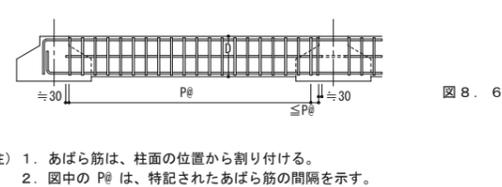
- (注) 1. 印は、継手及び余長を示す。
 2. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 3. Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

- E. 基礎接合部の補強



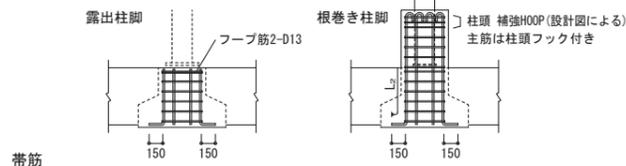
- (注) 1. L_{2h}を確保できない場合は、6. (c) によることができる。

- F. あばら筋の割り付け



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中の P\phi は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

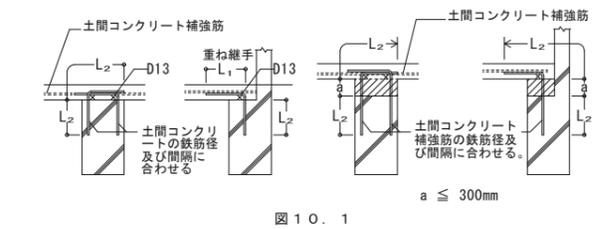
9. 基礎柱



- 帯筋
 (1) H形とする。
 (2) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
 (3) 溶接する場合の溶接長さLは両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
- ① H形 (イ) (ロ) ② W-I形 (イ) (注) 溶接は、鉄筋の組立て前に行う

10. 土間コンクリートの補強

- A. 土間コンクリートの補強
 土間コンクリートの補強筋は、特記による。なお、基礎梁との接合部は、図 10. 1 による。



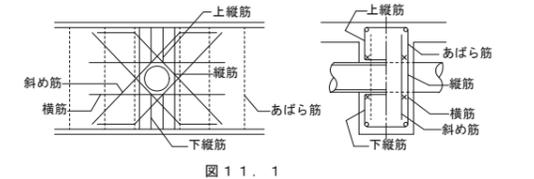
11. 梁貫通孔補強

- (1) H形配筋

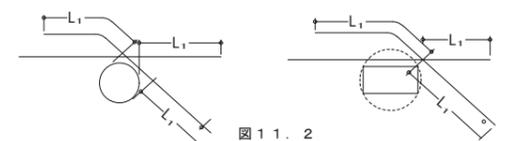
| 配筋種別 | 斜め筋 | 縦筋 | 横筋 | 上下縦筋 | 配筋図 |
|------|---------|---------|---------|---------|-----|
| H 1 | 2-2-D13 | なし | なし | なし | |
| H 2 | | 2-2-D13 | | | |
| H 3 | 4-2-D13 | | | | |
| H 4 | 4-2-D16 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | |
| H 5 | 4-2-D16 | | | | |
| H 6 | 4-2-D19 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
| H 7 | 4-2-D22 | | | | |

- (注)は、一般部分のあばら筋を示す。

1. 梁貫通孔補強筋の名称などは図 11. 1 による。



2. 孔の径は、梁せいの 1/3 以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
 3. 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は、梁下端より 1/3 d の範囲に設けてはならない。
 4. 孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁 (小梁) の面から原則として 1.5 D (D は梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
 5. 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
 6. 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
 7. 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは図 11. 2 による。
 8. 孔の径が梁せいの 1/10 以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
 9. 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
 10. 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
 なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
 11. 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



- (注) 採用する配筋については、特記による。大臣認定による既製品を使用する場合は、すべて認定内容による。

| | | | | | | |
|----|--|--|----------|-------------------------------|----------------|------|
| 訂正 | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 | 作成 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. 図面No. | K-02 |
| | | | 発行 | 図面名称 鉄骨構造標準図(7-2) | 縮尺 整理No. | |

特記事項

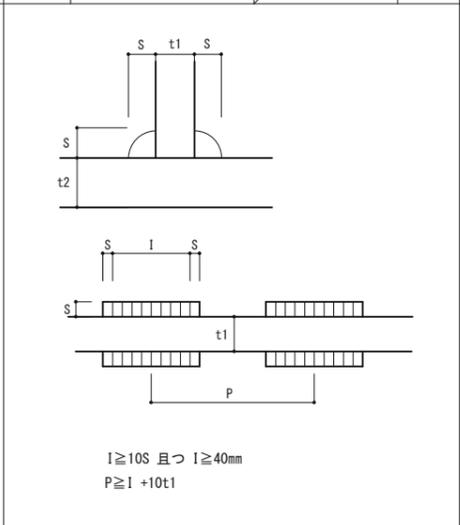
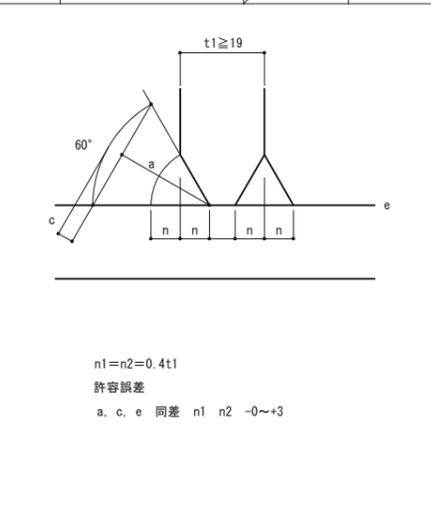
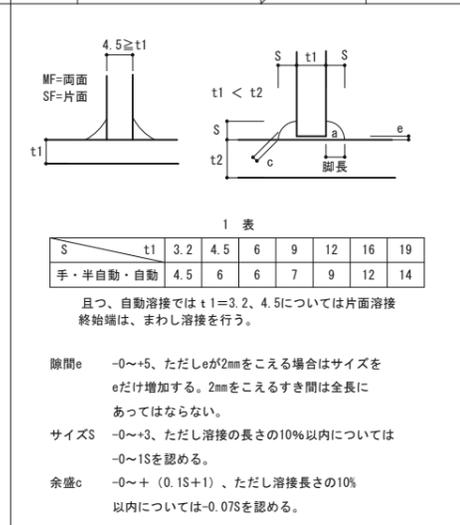
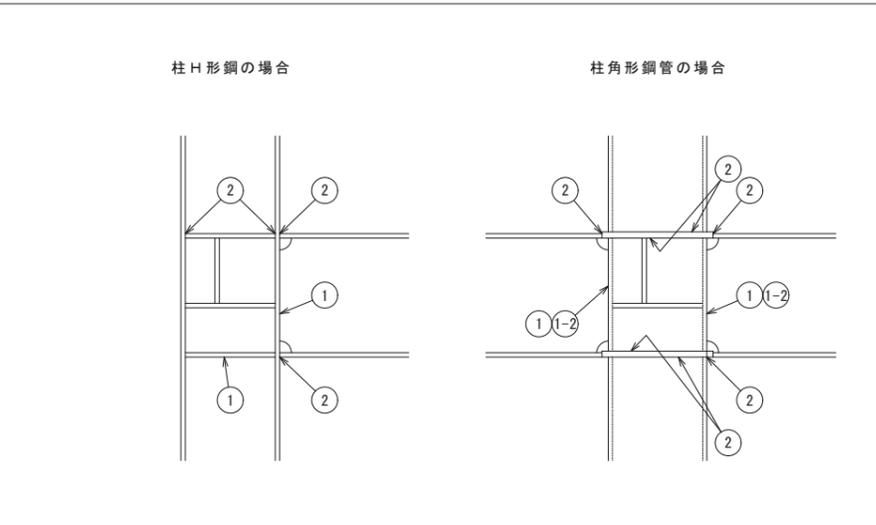
1 適用範囲

1. 本標準図は「溶接工作基準・同解説、I アーク溶接、IV サーマージアーク自動溶接、IV ガスシールド半自動溶接：日本建築学会」に従い、工場溶接を行う場合に適用する。
 2. 特に設計者の指示がある場合はそれに従う。
 3. 本図によらない場合は、設計者の承認を受ける。
 4. 本構造標準図は、設計者の責任において使用すること。

2 適用鋼材

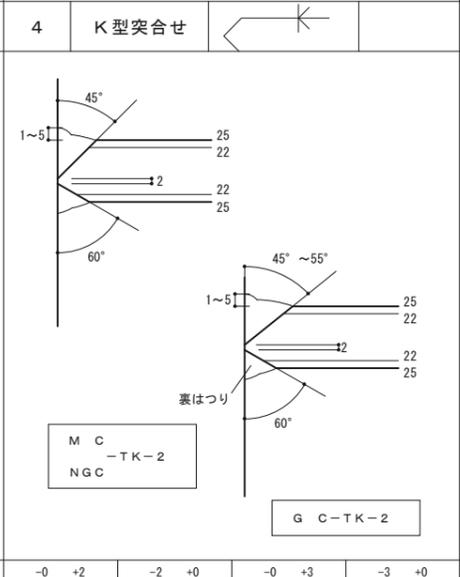
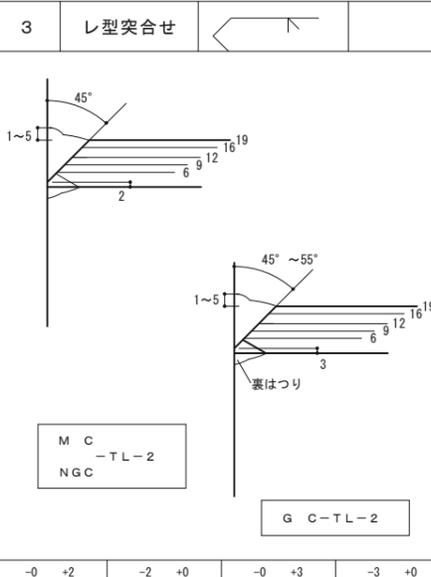
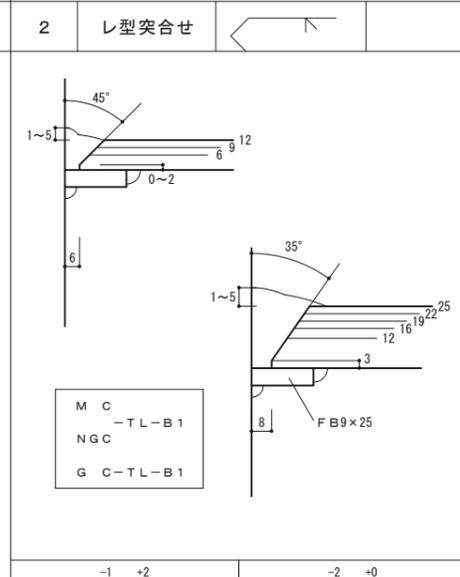
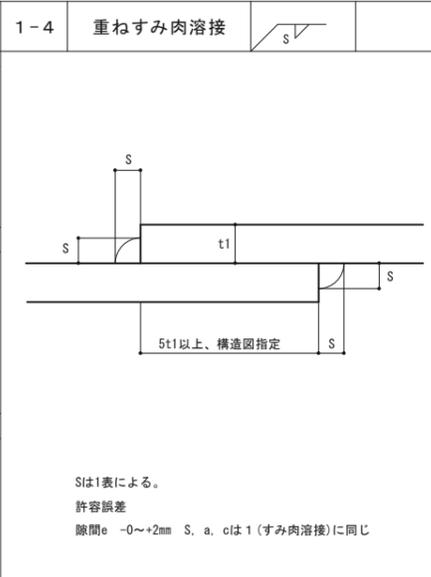
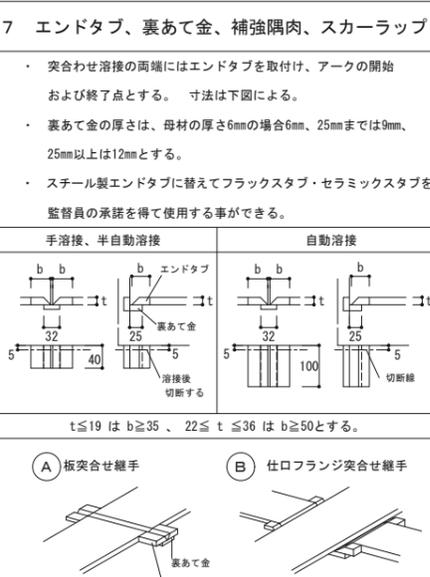
| 溶接法 | 鋼材の記号 | 板厚(mm) |
|-----|------------------------------------|--------|
| M | SS400 SSC400 STKR400 STK400 STK490 | 2.3~6 |
| M | SS400 SM490YA STKR400 STK490 | 6~25 |
| M | SM400A SM490B SN400B・C SN490B・C | 6~32 |
| NG | SM490A SM520B SN400B・C SN490B・C | 6~38 |
| G | SN400B・C BCR295 BCP235 BCP295 | 6~45 |
| S | SN400B・C SN490B・C | 6~45 |
| | SM400B SM400C・SM520C SM570 | 6~50 |

予熱は、鉄骨工事技術指針に従うものとする。技術指針に該当しない鋼材については、必要な試験を行った上、適切な熱管理のもとで準用してよい。



3 適用溶接法と記号

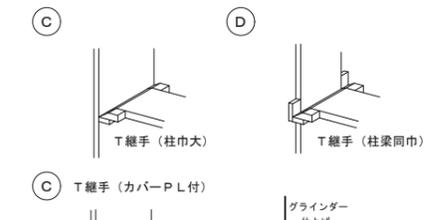
M アーク手溶接
 NG ノンガスシールドアーク半自動溶接
 G ガスシールドアーク半自動溶接
 S サーマージアーク自動溶接
 C 突合せ溶接
 P 部分溶け込み溶接
 F すみ肉溶接
 T T継ぎ手
 L 角継ぎ手
 B 突合せ継ぎ手
 I I形
 V V形
 レ レ形
 K K形
 X X形
 B 裏あて金
 1 片面溶接
 2 両面溶接 MC, NGC, GC, は、表はつりをする。
 (例) MC-TL-B1=アーク手溶接突合せレ形T継ぎ手-裏あて金付き片面溶接



4 溶接姿勢

F 下向姿勢
 H 水平又は、横向姿勢
 V 立向姿勢
 O 上向姿勢

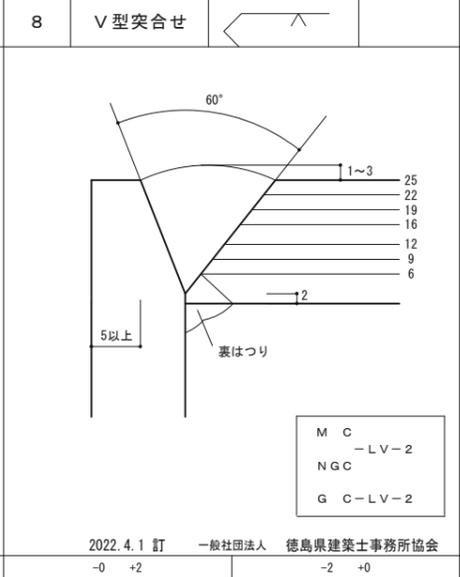
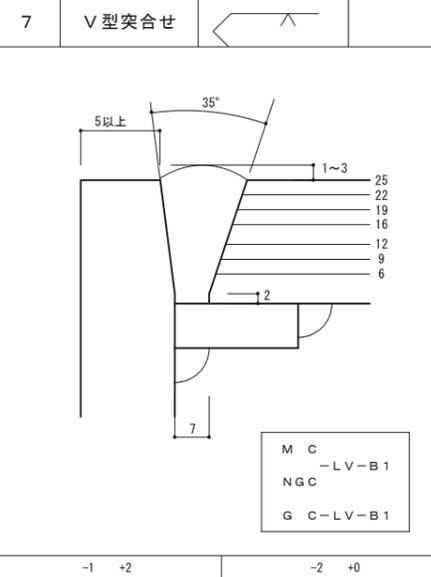
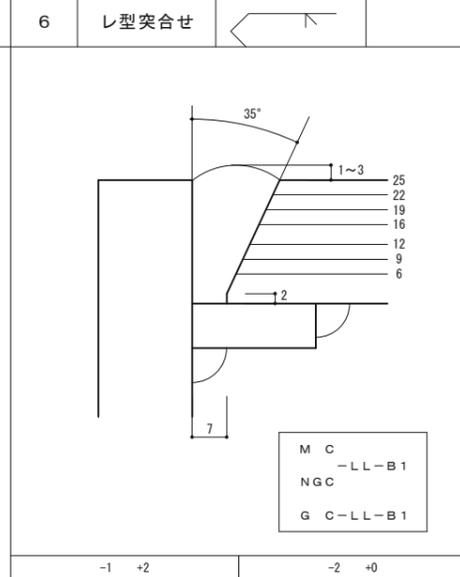
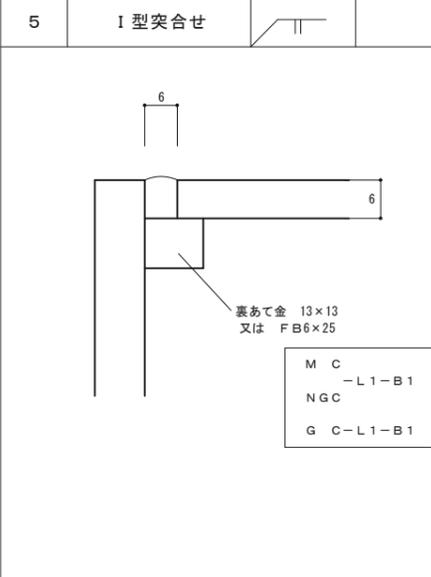
手溶接における姿勢は、特記あるものを除き、原則として下向とする。



5 その他

1. 使用板厚は半自動、自動溶接の場合は6mm以上とする。
 2. 手溶接において、1層目の溶接を行う棒径は4mm以下とする。
 3. 寸法の許容誤差で図示したもの以外は、下記による。

a 開先角度は、 $-3^\circ \sim +5^\circ$ とする。
 b 裏あて金のすきまは0とし許容誤差は、 $-0 \sim +1$ とする。
 c 重ね継ぎ手のすきまは0とし許容誤差は、 $-0 \sim +2$ とする。
 d グループ溶接部の相互の目違いは0とし、許容誤差は、 $-1 \sim +1$ とする。
 e 突き合わせ溶接及び部分溶け込み溶接の余盛の高さは、特記なき場合は、右記詳細図によるものとする。



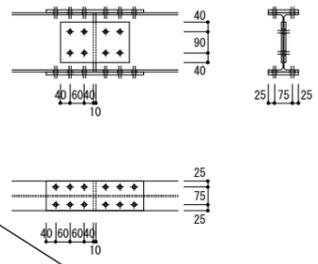
鉄骨構造標準図 7-4 (接合部)

H型鋼標準接合部

特記事項

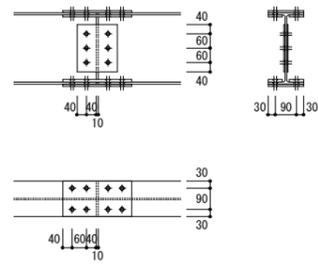
- 許容耐力設計において、存在耐力が本標準図の許容耐力以内であることを確認すること。
- 本標準図は保有耐力接合を示す標準図である。
- 孔径はボルト軸径+2mm以内とする。
- 鋼材の材質は SS400、SN400A・B・Cとする。
- 高力ボルトは S10T、F10Tとする。
- 亜鉛メッキを施した場合には本表は使用できない。
- 大梁の内法長さが本表に示す最小長さ以下の場合せん断耐力が不足するため本表は使用できない。
- 別途設計をした場合本標準図は使用しなくても良い。
- 継手部添板の切断はガス手動切断・シャー切断をしてはならない。

H-250×125×6×9



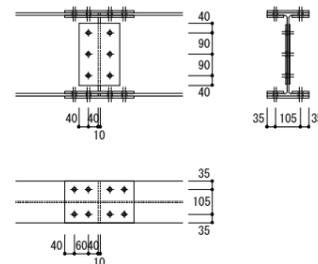
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 24 | M16 | 2 | 12 | 125 | 410 | 0.80m |
| ウェブ | 8 | M16 | 2 | 6 | 290 | 170 | |

H-300×150×6.5×9



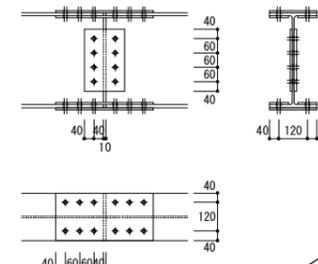
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 16 | M16 | 2 | 9 | 150 | 290 | 0.97m |
| ウェブ | 6 | M16 | 2 | 6 | 170 | 200 | |

H-350×175×7×11



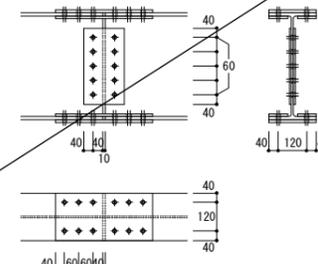
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 16 | M20 | 2 | 9 | 175 | 290 | 1.25m |
| ウェブ | 6 | M20 | 2 | 6 | 170 | 260 | |

H-400×200×8×13



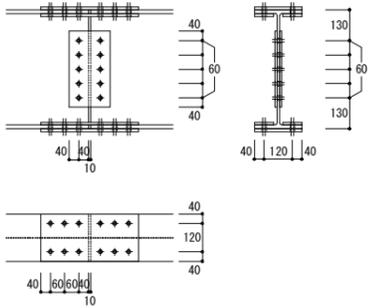
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 24 | M20 | 2 | 9 | 200 | 410 | 1.52m |
| ウェブ | 8 | M20 | 2 | 9 | 170 | 260 | |

H-450×200×9×14



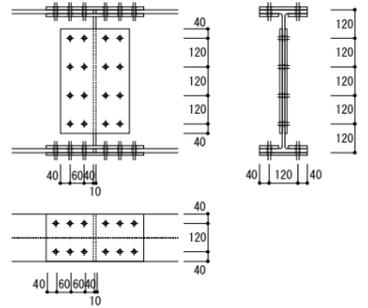
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 24 | M20 | 2 | 12 | 200 | 410 | 1.56m |
| ウェブ | 10 | M20 | 2 | 9 | 170 | 320 | |

H-500×200×10×16



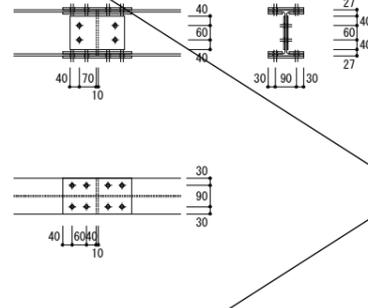
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 24 | M20 | 2 | 12 | 200 | 410 | 1.57m |
| ウェブ | 10 | M20 | 2 | 9 | 170 | 320 | |

H-600×200×11×17



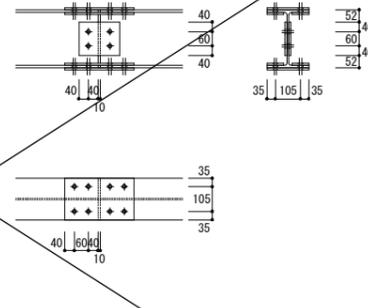
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 24 | M20 | 2 | 12 | 200 | 410 | 1.46m |
| ウェブ | 16 | M20 | 2 | 9 | 290 | 440 | |

H-194×150×6×9



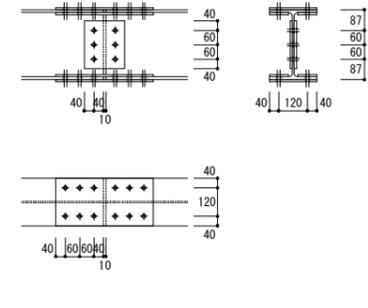
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 16 | M16 | 2 | 9 | 150 | 290 | 0.95m |
| ウェブ | 4 | M16 | 2 | 6 | 230 | 140 | |

H-244×175×7×11



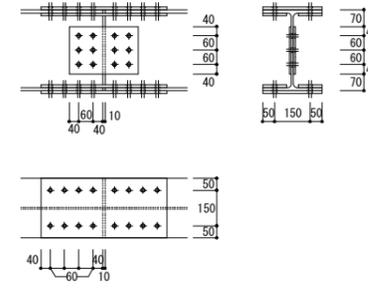
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 16 | M20 | 2 | 9 | 175 | 290 | 1.17m |
| ウェブ | 4 | M20 | 2 | 9 | 170 | 140 | |

H-294×200×8×12



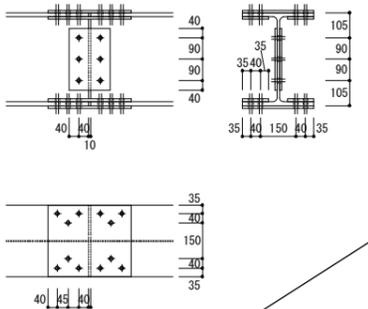
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 24 | M20 | 2 | 9 | 200 | 410 | 1.36m |
| ウェブ | 6 | M20 | 2 | 9 | 170 | 200 | |

H-340×250×9×14



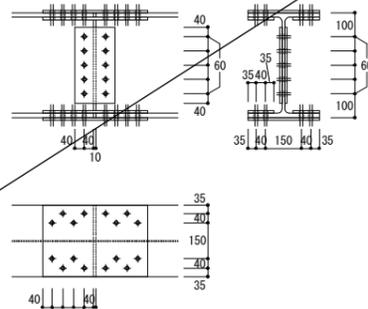
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 32 | M20 | 2 | 12 | 250 | 530 | 1.65m |
| ウェブ | 12 | M20 | 2 | 9 | 290 | 200 | |

H-390×300×10×16



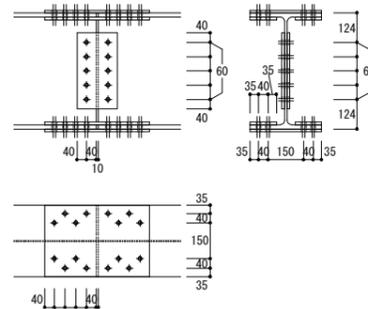
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 24 | M22 | 2 | 12 | 300 | 350 | 1.98m |
| ウェブ | 6 | M22 | 2 | 9 | 170 | 260 | |

H-440×300×11×18



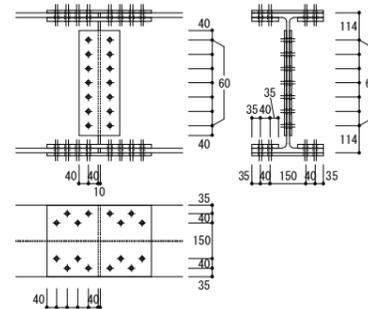
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 32 | M22 | 2 | 12 | 300 | 440 | 2.33m |
| ウェブ | 10 | M22 | 2 | 9 | 170 | 320 | |

H-488×300×11×18



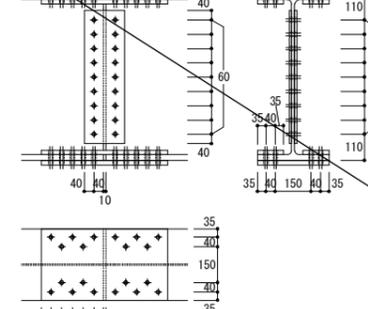
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 32 | M22 | 2 | 12 | 300 | 440 | 2.27m |
| ウェブ | 10 | M22 | 2 | 12 | 170 | 320 | |

H-588×300×12×20



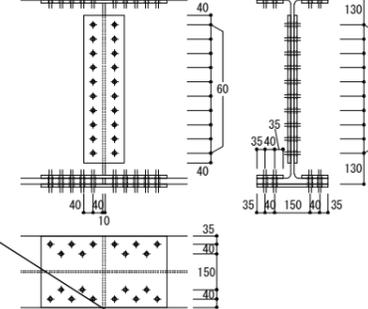
| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 32 | M22 | 2 | 12 | 300 | 440 | 2.52m |
| ウェブ | 14 | M22 | 2 | 9 | 170 | 440 | |

H-700×300×13×24



| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 40 | M22 | 2 | 19 | 300 | 530 | 2.95m |
| ウェブ | 18 | M22 | 2 | 9 | 170 | 560 | |

H-800×300×14×26



| | 高力ボルト | | 母材と同等品 | | | | 使用可能な梁の最小長さ |
|------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-------------|
| | 全数量 (本) | 径 (mm) | 数量 (枚) | 厚さ (mm) | 幅 (mm) | 長さ (mm) | |
| フランジ | 40 | M22 | 2 | 19 | 300 | 530 | 3.01m |
| ウェブ | 20 | M22 | 2 | 12 | 170 | 620 | |

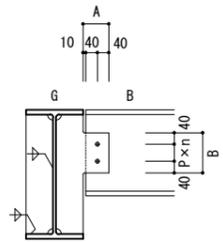
2022.4.1 訂 一般社団法人 徳島県建築士事務所協会

| | | | | | | | |
|----|---|--|----|----|-----------------------|--------------|-------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敏 | | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | | | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | K-04 |
| | | | | | | 図面名称 | 整理No. |
| | | | | | | 鉄骨構造標準図(7-4) | |

鉄骨構造標準図 7-5

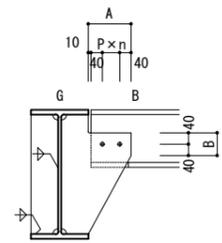
小梁接合部

- 特記事項
- 鋼材の材質は SS400 SN400A・B・Cとする。
 - ガセットプレートの材質は、大梁と同じものとする。
 - 高力ボルトは S10T-F10T F8T とする。
 - 大梁の横補剛材として使用する場合は別途計算の上決定する必要がある。
 - 本標準図は小梁の接合部を示すものであるが、別途設計を行う場合は本図を用いなくてよい。
 - 本標準図に記載されている耐力は参考値であって、本図を用いる場合は、耐力の確認を行うこと。
 - ボルト孔明けは、ドリル明けとする。
 - 小梁のたわみ量は算定していません。



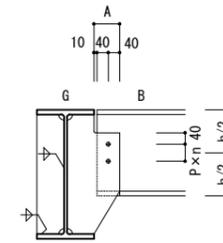
H-200×100
H-194×150 以上の場合

| |
|-----|
| タイプ |
| A |



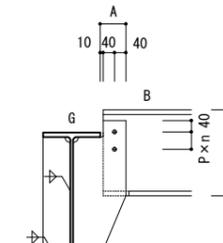
H-175×90
H-148×100 以下の場合

| |
|-----|
| タイプ |
| B |



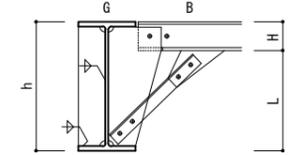
H-200×100
H-194×150 以上の場合

| |
|-----|
| タイプ |
| C |



H-200×100
H-194×150 以上の場合

| |
|-----|
| タイプ |
| D |



方杖材 $\theta=45^\circ$ L>300 且つ 2×H
2LS-65×65×6 の場合は方杖をいれる。
HTB 4-M16
b材取付はA-Eによる。

| |
|-----|
| タイプ |
| E |

| 記号 | タイプ | 細幅シズ 小梁 (B) | 許容せん断耐力 | 大梁 (G) | HTB | | | G.P | | | 記号 | タイプ | 中幅シズ 小梁 (B) | 許容せん断耐力 | 大梁 (G) | HTB | | | G.P | | |
|------|-----|-----------------|-----------|---------------------------|-------|----------|------|-----------|------|--------|------|-----|-----------------|----------|---------------------------|--------|-----------|------|-----------|-------|--------|
| | | | | | N×径 | 許容せん断耐力 | t | 許容せん断耐力 | P×n | A×B | | | | | | N×径 | 許容せん断耐力 | t | 許容せん断耐力 | P×n | A×B |
| BJ01 | | H-100×50×5×7 | ※[30.80] | H-298×149 H-244×175 以下 | 2-M16 | [59.23] | 6.0 | [39.13] | 60×1 | 150×80 | BJ51 | | H-148×100×6×9 | [60.88] | H-298×149 H-244×175 以下 | 2-M16 | [59.23] | 6.0 | ※[33.70] | 60×1 | 150×80 |
| BJ02 | | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 2-M16 | [59.23] | 9.0 | [58.70] | 60×1 | 150×80 | BJ52 | | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 2-M16 | [59.23] | 9.0 | ※[50.55] | 60×1 | 150×80 |
| BJ03 | | H-125×60×6×8 | [49.46] | H-298×149 H-244×175 以下 | 2-M16 | [59.23] | 6.0 | ※[45.93] | 60×1 | 150×80 | BJ53 | | H-194×150×6×9 | [76.10] | H-298×149 H-244×175 以下 | 2-M16 | [59.23] | 6.0 | ※[56.53] | 60×1 | 90×140 |
| BJ04 | | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 2-M16 | [59.23] | 9.0 | [68.89] | 60×1 | 150×80 | BJ54 | | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 2-M16 | ※[59.23] | 9.0 | [84.79] | 60×1 | 90×140 |
| BJ05 | | H-150×75×5×7 | [53.45] | H-298×149 H-244×175 以下 | 2-M16 | [59.23] | 6.0 | ※[52.72] | 60×1 | 150×80 | BJ55 | | H-244×175×7×11 | [112.88] | H-298×149 H-244×175 以下 | 2-M20 | [92.38] | 6.0 | ※[52.18] | 60×1 | 90×140 |
| BJ06 | | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 2-M16 | [59.23] | 9.0 | [79.09] | 60×1 | 150×80 | BJ56 | | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 2-M20 | [92.38] | 9.0 | ※[78.27] | 60×1 | 90×140 |
| BJ07 | | H-175×90×5×8 | [63.87] | H-298×149 H-244×175 以下 | 2-M16 | ※[59.23] | 6.0 | [59.52] | 60×1 | 150×80 | BJ57 | | H-294×200×8×12 | [147.84] | H-300×150 H-294×200 以上 | 3-M20 | [138.57] | 9.0 | ※[109.25] | 60×2 | 90×200 |
| BJ08 | | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 2-M16 | ※[59.23] | 9.0 | [89.29] | 60×1 | 150×80 | BJ58 | | H-340×250×9×14 | [182.63] | H-350×175 H-340×250 以上 | 4-M20 | [184.76] | 9.0 | ※[140.23] | 60×3 | 90×260 |
| BJ09 | | H-200×100×5.5×8 | [73.74] | H-298×149 H-244×175 以下 | 2-M16 | [59.23] | 6.0 | ※[56.53] | 60×1 | 90×140 | BJ59 | | H-390×300×10×13 | [242.78] | H-400×200 H-390×300 以上 | 4-M22 | [223.59] | 12.0 | ※[178.28] | 60×3 | 90×260 |
| BJ10 | | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 2-M16 | ※[59.23] | 9.0 | [84.79] | 60×1 | 90×140 | BJ60 | | H-440×300×11×18 | [283.00] | H-450×200 H-440×300 以上 | 5-M22 | [279.48] | 12.0 | ※[217.42] | 60×4 | 90×320 |
| BJ11 | | H-248×124×5×8 | ※[75.19] | H-298×149 H-244×175 以下 | 3-M16 | [88.85] | 6.0 | [79.35] | 60×2 | 90×200 | BJ61 | | H-482×300×11×15 | [306.92] | H-500×200 H-482×300 以上 | 6-M22 | [335.38] | 12.0 | ※[256.55] | 60×5 | 90×380 |
| BJ12 | | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 3-M16 | [88.85] | 9.0 | [119.03] | 60×2 | 90×200 | BJ62 | | H-488×300×11×18 | [306.92] | H-600×200 H-582×300 以上 | 6-M22 | [335.38] | 12.0 | ※[256.55] | 60×5 | 90×380 |
| BJ13 | | H-250×125×6×9 | [90.23] | H-298×149 H-244×175 以下 | 3-M16 | [88.85] | 6.0 | ※[79.35] | 60×2 | 90×200 | BJ63 | | H-582×300×12×17 | [413.09] | H-600×200 H-582×300 以上 | 7-M22 | [391.28] | 12.0 | ※[295.69] | 60×6 | 90×440 |
| BJ14 | C | | | H-300×150 H-294×200 以上 | 3-M16 | ※[88.85] | 9.0 | [119.03] | 60×2 | 90×200 | BJ64 | | H-588×300×13×20 | [413.09] | H-600×200 H-582×300 以上 | 7-M22 | [391.28] | 12.0 | ※[295.69] | 60×6 | 90×440 |
| BJ15 | | H-298×149×5.5×8 | ※[107.62] | H-298×149 H-294×200 以上 | 3-M20 | [138.57] | 9.0 | [109.25] | 60×2 | 90×200 | BJ65 | | H-692×300×13×20 | [513.46] | H-700×300 H-692×300 以上 | 9-M22 | [503.08] | 16.0 | ※[498.61] | 60×8 | 90×560 |
| BJ16 | | H-300×150×6.5×9 | [127.19] | H-300×150 H-294×200 以上 | 3-M20 | [138.57] | 9.0 | ※[109.25] | 60×2 | 90×200 | BJ66 | | H-700×300×13×24 | [513.46] | H-700×300 H-692×300 以上 | 9-M22 | [503.08] | 16.0 | ※[498.61] | 60×8 | 90×560 |
| BJ17 | | H-346×174×6×9 | ※[130.45] | H-346×174 H-340×250 以上 | 4-M20 | [184.76] | 9.0 | [140.23] | 60×3 | 90×260 | BJ67 | | H-792×300×14×22 | [613.84] | H-800×300 H-792×300 以上 | 11-M22 | [614.87] | 16.0 | ※[602.97] | 60×10 | 90×680 |
| BJ18 | | H-350×175×7×11 | [152.19] | H-350×175 H-340×250 以上 | 4-M20 | [184.76] | 9.0 | ※[140.23] | 60×3 | 90×260 | BJ68 | | H-800×300×14×26 | [613.84] | H-800×300 H-792×300 以上 | 11-M22 | [614.87] | 16.0 | ※[602.97] | 60×10 | 90×680 |
| BJ19 | | H-396×199×7×11 | ※[167.41] | H-396×199 H-390×300 以上 | 5-M20 | [230.95] | 9.0 | [171.22] | 60×4 | 90×320 | BJ69 | | H-890×299×15×23 | [755.52] | H-900×300 H-890×300 以上 | 12-M22 | ※[670.77] | 19.0 | [777.99] | 60×11 | 90×740 |
| BJ20 | | H-400×200×8×13 | [191.33] | H-400×200 H-390×300 以上 | 5-M20 | [230.95] | 9.0 | ※[171.22] | 60×4 | 90×320 | BJ70 | | H-900×300×16×28 | [805.89] | H-900×300 H-890×300 以上 | 12-M22 | ※[670.77] | 19.0 | [777.99] | 60×11 | 90×740 |
| BJ21 | | H-446×199×8×12 | [226.11] | H-446×199 H-440×300 以上 | 5-M20 | [230.95] | 9.0 | ※[171.22] | 60×4 | 90×320 | | | | | | | | | | | |
| BJ22 | | H-450×200×9×14 | [254.38] | H-450×200 H-440×300 以上 | 5-M20 | [230.95] | 12.0 | ※[228.29] | 60×4 | 90×320 | | | | | | | | | | | |
| BJ23 | | H-496×199×9×14 | [273.94] | H-496×199 H-482×300 以上 | 6-M20 | [277.14] | 12.0 | ※[269.60] | 60×5 | 90×380 | | | | | | | | | | | |
| BJ24 | | H-500×200×10×16 | [304.38] | H-500×200 H-482×300 以上 | 6-M20 | [277.14] | 12.0 | ※[269.60] | 60×5 | 90×380 | | | | | | | | | | | |
| BJ25 | | H-600×200×11×17 | [389.23] | H-600×200 H-582×300 以上 | 8-M20 | [277.14] | 12.0 | ※[269.60] | 60×7 | 90×500 | | | | | | | | | | | |

耐力の単位:kN

- 注：1. 小梁に小梁（2次小梁）がつく場合は大梁（G）を小梁と読みかえる。
2. 図中[]内の数値は参考許容せん断力とし※印は最低値を示す。
3. H-100×50、H-125×60、H-150×75、H-175×90、H-148×100の取付方法は、Bタイプ又はEタイプとする。

| | | | | | | | | | |
|----|--|--|----------|----|--|-------------------------------|-------|--|---------------|
| 訂正 | | 株式会社デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敏 | 作成 ●● | 承認 | | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | | 図面No. K-05 |
| | | | 発行 ●● | | | 図面名称 鉄骨構造標準図(7-5) | 整理No. | | |

鉄骨構造標準図 7-6 (角形鋼管柱仕口)

特記事項

1. 本標準図は、冷間（熱間）成形角形鋼管を柱として使用した場合の基準を示す。
2. 次項に記載する鋼材を使用しない場合は、別途設計による。
3. 使用する鋼材の材質

a 角形鋼管柱材質

SM400 SS400 SN400B SM490A SS490 SN490B・C

b 製造方法

冷間プレス成形角形鋼管 BCP235 (SN400B/C)

冷間プレス成形角形鋼管 BCP325 (SN490B/C)

冷間ロール成形角形鋼管 BCR295 (SN400B)

熱間成形角形鋼管 SHC400B/C (SN400級)

熱間成形角形鋼管 SHC490B/C (SN490級)

冷間成形角形鋼管 STKR400 STKR490

c ベースプレート等

・露出柱脚 ・根巻柱脚 ・埋込柱脚

露出柱脚の場合

・認定品 ()

・在来工法

4. ダイヤフラム等

使用材料 SS400 SN400 (B・C) SM490A SN490 (B・C)

加工方法 工場製作 鋳造製ダイヤフラム

5. JIS規格等

冷間プレス成形角形鋼管 (BCP) 国土交通大臣認定品

冷間ロール成形角形鋼管 (BCR) 国土交通大臣認定品

熱間成形角形鋼管 建築センター評定品

冷間成形角形鋼管 (STKR) JIS G 3466

6. ベースプレート等の設置

- ・アンカーボルトの設置は、指定各社の施工基準に基づき正確に設置すること。
- ・鋼管柱とベースプレートとの接合は、各社の施工基準に基づき入念な施工を行うものとする。
- ・アンカーボルトの設置は、特記なき限りA種先付け工法とする。
- ・アンカーボルトの設置は、施工業者の責任施工とする。
- ・ベースプレートとコンクリートの空隙部は、特記なき限り無収縮グラウト注入とする。
- ・露出型固定柱脚は、メーカー毎で、剛性・強度が異なるため変更の際に注意すること。

7. STKR・BCP・BCRには互換性がないので注意すること。

8. 溶接部は全て製作所（社内検査）におけるUT検査を行うこと。

9. 鋼材の使用区分について（参考）

a 角形鋼管柱を使用した鉄骨造架構

柱材・梁材・接合用板材 SN400B SN490B SS400

ダイヤフラム・ベースプレート SN400C SN490C

小梁・間柱・根太母屋材 SN400A SN490A SS400

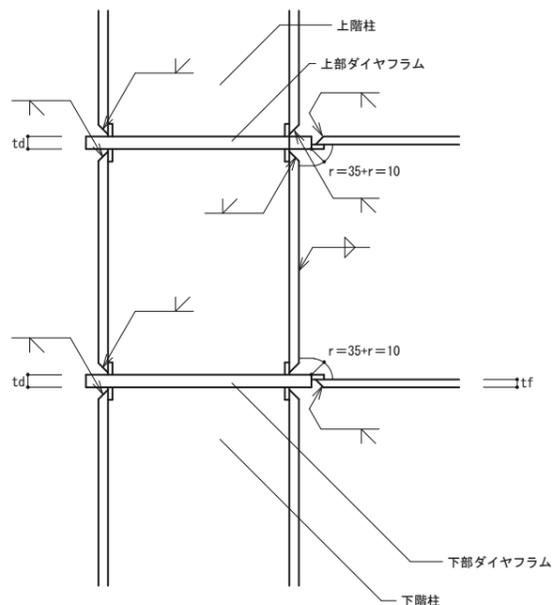
b 角形鋼管柱を使用した鉄骨造架構

柱材・梁材・接合用板材 SN400B SN490B SS400

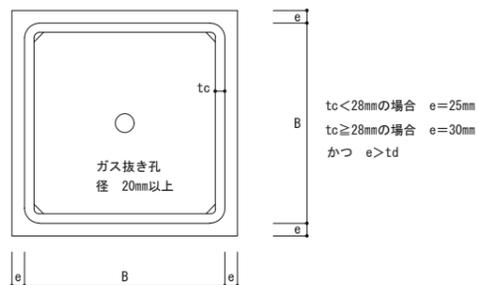
ベースプレート SN400C SN490C

小梁・間柱・根太母屋材 SN400A SN490A SS400

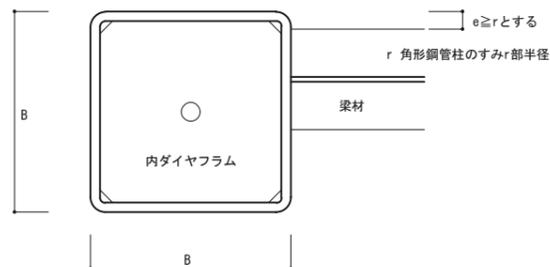
柱頭部（ダイヤフラムに段差のない場合）詳細図



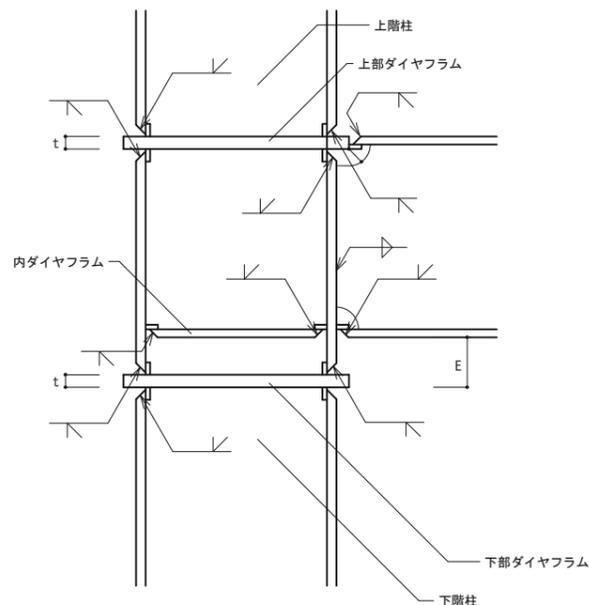
- ・ダイヤフラムに使用する鋼板は、SN400C、SN490Cとする。
- ・t>取り付く大梁フランジの最大厚さ+6mm を越える厚さかつ柱板厚以上。



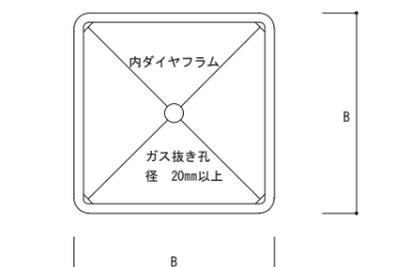
角形鋼管柱・梁仕口 詳細図



柱頭部（ダイヤフラムに段差のある場合）詳細図

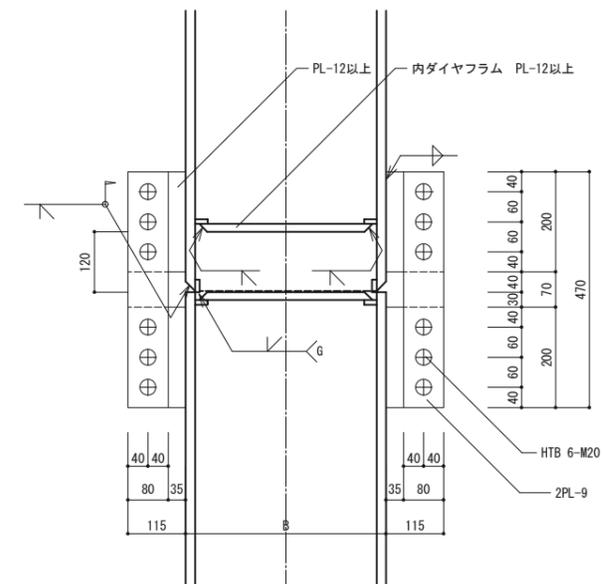


- ・E=100mm未満の場合は、2段ダイヤフラム方式は採用しない。
- ・ダイヤフラムに使用する鋼板は、SN400C、SN490Cとする。
- ・tは取り付く大梁フランジの最大厚さ+6mm を越える厚さかつ柱板厚以上。

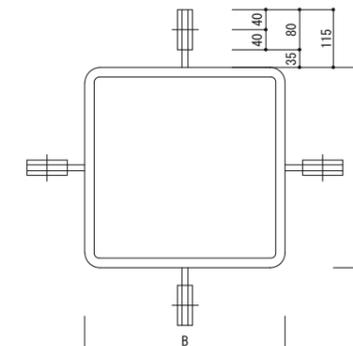


- ・内ダイヤフラムの厚さは、取り付く梁のフランジ厚さ以上で強度は、取り付く部材の最も優れた材質とする。

柱現場継ぎ手 詳細図



- 柱 板厚・ボルト数は最低量を示したものであり、組み立てる部材の重量を考慮して設計してください。
- 当仮設継ぎ手は、8.0×8.0スパンで4階までは可能である。



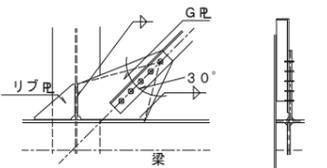
| | | | | | | | |
|----|-------|---|----|----|-------------------------------|----------------------|---------------|
| 訂正 | . . . | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敏 | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. K-06 |
| | | | 発行 | | | 図面名称 鉄骨構造標準図(7-6) | |

鉄骨構造標準図 7-7

(筋かい)

- A. ターンバックル筋違 JIS A5540
- 1) ターンバックルボルト
JIS A 5542の規格品、性能評定品。
材質 SS400 (JIS G3101)
種類 羽子板ボルト JIS記号: S
 - 2) ターンバックル脚
JIS A 5541の規格品、性能評定品。
材質 SS400 (JIS G3101), ST
KM11A, 12A, 13A,
14A (JIS G3445)
種類 1種 (割寸式 JIS記号: ST)
2種 (パイプ式 JIS記号: PT)
 - 3) 接合用高力ボルトは S10T及び F10Tとする。
 - 4) ターンバックルボルトの羽子板部分に製造メーカーの略号を刻印にて明示すること。
 - 5) 筋かい端部の接合はせん断接合である。

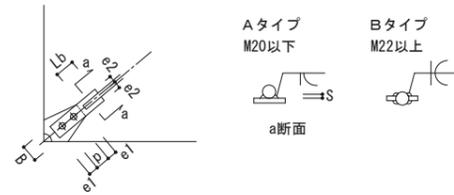
B. 平鋼、溝形鋼、山形鋼 筋違



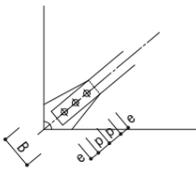
- 1) 使用鋼材 SS400・SN400A-B
- 2) 筋違端部板の面内力だけでは力が伝達されない場合は、必ず水平あるいは鉛直のスチフナーをもうけ変形を防止し、十分な力を伝達させる対策を講じなければならない。
- 3) ガセットプレートの縁は第一ボルトの位置から筋違の軸線の左右各30度の線を切ってはならない。止むを得ずこれを切る場合は偏心による複合応力度の検討を行わなければならない。
- 4) 原則として梁は持出継手とし、ガセットプレートは梁心に合わせて溶接する。止むを得ず偏心する場合は局部変形防止の設計を行わなければならない。
- 5) すみ肉溶接の有効長さには、一辺の長さ 10S 以下は算入しない。
- 6) ガセットプレートの取付く部材厚はS以上とする。
- 7) トルシア形高力ボルトは S10T または、六角高力ボルトは F10T とする。
- 8) 特記なき寸法はmmとする。
- 9) ガセットプレートを実合せ溶接とする場合は詳細設計を行うものとする。
- 10) 柱梁とガセットプレートの接合部を変更する場合は詳細設計を行うものとする。
- 11) プレースの付く柱脚では引抜力はアンカーボルトで、水平力及び偏心力は根巻き鉄筋コンクリートによって処理するものとする。止むを得ず実施出来ない場合は引抜き水平力及び偏心力に対するアンカーボルトの設計を行わなければならない。
- 12) 本標準図に記載されていないものは別途詳細設計を行うこと。

壁面ブレース (床面ブレースもこれに準ずる)

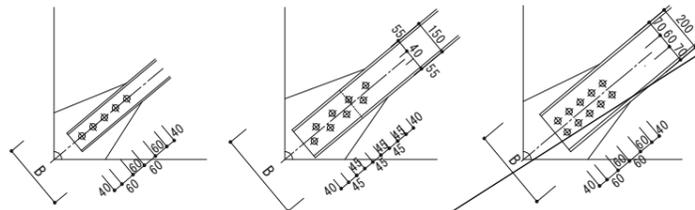
丸鋼



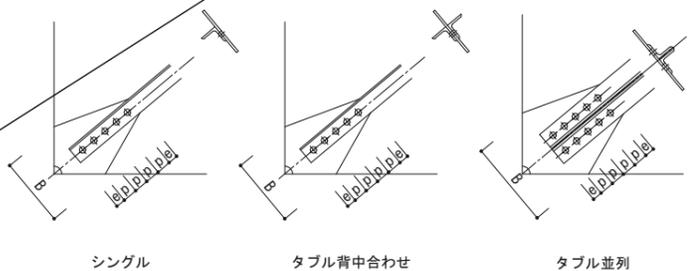
平鋼



溝形鋼



山形鋼

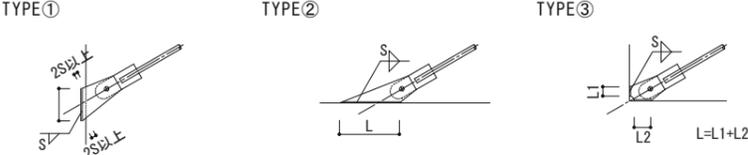


丸鋼 (JISターンバックル筋かい)

e2は、平鋼を使用した場合の値

| 採用部材 | 引張耐力 (kN) | gtxB 厚x幅 | HTB (F10T) (F8T) | p (mm) | e1 (mm) | e2 (mm) | Lb (mm) | S (mm) | 溶接長 L (mm) | | |
|------|-----------|----------|------------------|--------|---------|---------|---------|--------|------------|-------|-------|
| | | | | | | | | | TYPE① | TYPE② | TYPE③ |
| M12 | 21.0 | 6×60 | 1-M12 | - | 35 | 19.0 | 40 | 6 | 60 | 42 | 54 |
| M14 | 28.7 | 6×60 | 1-M16 | - | 40 | 25.0 | 50 | 6 | 64 | 44 | 56 |
| M16 | 38.6 | 9×70 | 1-M16 | - | 45 | 25.0 | 55 | 8 | 80 | 56 | 72 |
| M18 | 48.1 | 9×70 | 1-M20 | - | 50 | 32.5 | 60 | 8 | 80 | 56 | 72 |
| M20 | 60.6 | 9×80 | 1-M20 | - | 50 | 32.5 | 75 | 8 | 102 | 67 | 83 |
| M22 | 74.7 | 12×80 | 1-M22 | - | 55 | 37.5 | 85 | 10 | 101 | 71 | 91 |
| M24 | 87.7 | 12×90 | 2-M20 | 50 | 50 | 37.5 | 85 | 10 | 118 | 79 | 99 |
| M27 | 113.8 | 12×90 | 2-M20 | 50 | 50 | 45.0 | 90 | 10 | 152 | 96 | 116 |
| M30 | 139.3 | 12×100 | 2-M22 | 55 | 55 | 45.0 | 95 | 10 | 186 | 113 | 133 |
| M33 | 172.6 | 12×110 | 2-M22 | 55 | 55 | 50.0 | 110 | 10 | 229 | 135 | 155 |

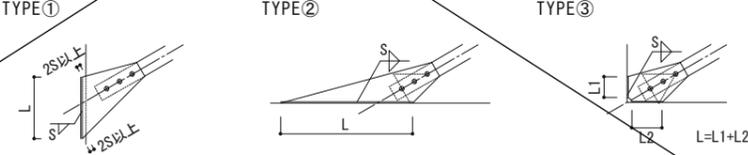
ガセットプレートの種類



平鋼

| 採用部材 | 引張耐力 (kN) | gtxB 厚x幅 | HTB (F10T) | p (mm) | e (mm) | S (mm) | 溶接長 L (mm) | | |
|-----------|-----------|----------|------------|--------|--------|--------|------------|-------|-------|
| | | | | | | | TYPE① | TYPE② | TYPE③ |
| FB-65×6 | 66.4 | 6×65 | 2-M16 | 60 | 40 | 6 | 117 | 71 | 83 |
| FB-75×6 | 80.5 | 6×75 | 2-M16 | 60 | 40 | 6 | 142 | 83 | 95 |
| FB-65×9 | 99.5 | 9×65 | 3-M16 | 60 | 40 | 8 | 131 | 82 | 98 |
| FB-75×9 | 120.7 | 9×75 | 3-M16 | 60 | 40 | 8 | 159 | 96 | 112 |
| FB-90×9 | 144.1 | 9×90 | 3-M20 | 60 | 40 | 8 | 190 | 111 | 127 |
| FB-100×9 | 165.2 | 9×100 | 3-M20 | 60 | 40 | 8 | 218 | 125 | 141 |
| FB-90×12 | 192.0 | 12×90 | 3-M20 | 60 | 40 | 10 | 202 | 121 | 141 |
| FB-100×12 | 226.3 | 12×100 | 4-M20 | 60 | 40 | 10 | 232 | 136 | 156 |
| FB-90×16 | 256.1 | 12×115 | 4-M20 | 60 | 40 | 10 | 270 | 155 | 175 |
| FB-100×16 | 293.7 | 12×130 | 5-M20 | 60 | 40 | 10 | 309 | 175 | 195 |

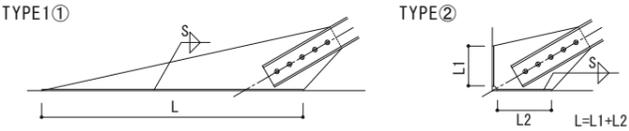
ガセットプレートの種類



溝形鋼

| 採用部材 | 引張耐力 (kN) | gtxB 厚x幅 | 列 | HTB (F10T) | S (mm) | 溶接長 L (mm) | |
|------------------|-----------|----------|----|------------|--------|------------|-------|
| | | | | | | TYPE① | TYPE② |
| [-100×50×5×7.5 | 219.4 | 9×130 | 1 | 5-M20 | 8 | 161 | 177 |
| [-125×65×6×8 | 322.6 | 9×180 | 1 | 6-M20 | 8 | 229 | 245 |
| [-150×75×6.5×10 | 415.5 | 9×240 | 千鳥 | 8-M20 | 8 | 290 | 306 |
| [-150×75×9×12.5 | 545.6 | 9×300 | 千鳥 | 9-M20 | 8 | 375 | 391 |
| [-200×90×8×13.5 | 692.8 | 12×300 | 2 | 10-M20 | 10 | 472 | 488 |
| 2[-100×50×5×7.5 | 509.4 | 12×205 | 1 | 5-M20 | 10 | 288 | 308 |
| 2[-125×65×6×8 | 743.2 | 16×220 | 1 | 6-M20 | 13 | 327 | 353 |
| 2[-150×75×6.5×10 | 1023.5 | 16×305 | 千鳥 | 8-M20 | 13 | 440 | 456 |
| 2[-150×75×9×12.5 | 1311.7 | 16×380 | 千鳥 | 10-M20 | 13 | 557 | 583 |
| 2[-200×90×8×13.5 | 1614.4 | 19×405 | 2 | 12-M20 | 16 | 563 | 595 |

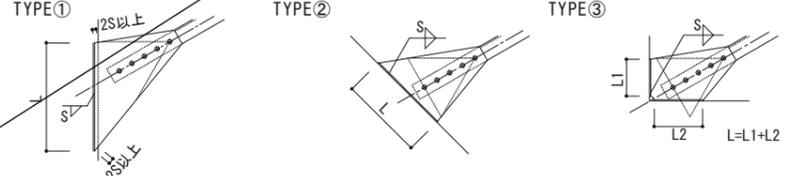
ガセットプレートの種類



山形鋼 (シングル)

| 採用部材 | 引張耐力 (kN) | gtxB 厚x幅 | HTB (F10T) | p (mm) | e (mm) | S (mm) | 溶接長 L (mm) | | |
|--------------|-----------|----------|------------|--------|--------|--------|------------|-------|-------|
| | | | | | | | TYPE① | TYPE② | TYPE③ |
| L-65×65×6 | 128.8 | 9×90 | 5-M16 | 60 | 40 | 8 | 170 | 101 | 117 |
| L-75×75×6 | 153.5 | 9×95 | 5-M16 | 60 | 40 | 8 | 202 | 117 | 133 |
| L-75×75×9 | 220.8 | 9×125 | 5-M16 | 60 | 40 | 8 | 291 | 162 | 178 |
| L-75×75×12 | 274.7 | 9×160 | 5-M20 | 60 | 40 | 8 | 361 | 197 | 213 |
| L-90×90×7 | 202.4 | 9×120 | 4-M20 | 60 | 40 | 8 | 267 | 150 | 166 |
| L-90×90×10 | 295.4 | 9×165 | 5-M20 | 60 | 40 | 8 | 389 | 211 | 227 |
| L-90×90×13 | 374.8 | 12×160 | 6-M20 | 60 | 40 | 10 | 395 | 218 | 238 |
| L-100×100×7 | 230.0 | 9×135 | 4-M20 | 60 | 40 | 8 | 303 | 168 | 184 |
| L-100×100×10 | 336.6 | 9×185 | 5-M20 | 60 | 40 | 8 | 443 | 238 | 254 |
| L-100×100×13 | 415.7 | 12×180 | 6-M20 | 60 | 40 | 10 | 438 | 239 | 259 |

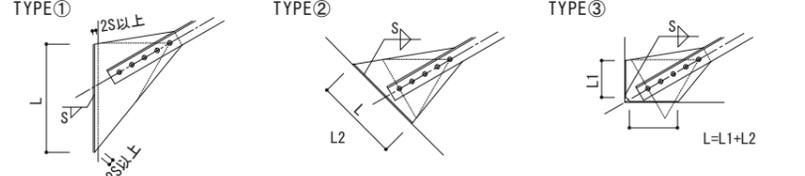
ガセットプレートの種類



山形鋼 (ダブル背中合わせ)

| 採用部材 | 引張耐力 (kN) | gtxB 厚x幅 | HTB (F10T) | p (mm) | e (mm) | S (mm) | 溶接長 L (mm) | | |
|---------------|-----------|----------|------------|--------|--------|--------|------------|-------|-------|
| | | | | | | | TYPE① | TYPE② | TYPE③ |
| 2L-65×65×6 | 303.4 | 9×165 | 5-M16 | 60 | 40 | 8 | 399 | 216 | 232 |
| 2L-75×75×6 | 359.9 | 9×190 | 5-M16 | 60 | 40 | 8 | 473 | 253 | 269 |
| 2L-75×75×9 | 504.2 | 12×205 | 5-M20 | 60 | 40 | 10 | 531 | 286 | 306 |
| 2L-75×75×12 | 655.3 | 12×255 | 5-M20 | 60 | 40 | 10 | 689 | 365 | 385 |
| 2L-90×90×7 | 502.7 | 12×205 | 4-M20 | 60 | 40 | 10 | 529 | 285 | 305 |
| 2L-90×90×10 | 692.8 | 12×270 | 5-M20 | 60 | 40 | 10 | 729 | 385 | 405 |
| 2L-90×90×13 | 887.3 | 12×340 | 7-M20 | 60 | 40 | 10 | 933 | 487 | 507 |
| 2L-100×100×7 | 568.6 | 12×225 | 5-M20 | 60 | 40 | 10 | 598 | 319 | 339 |
| 2L-100×100×10 | 790.8 | 12×305 | 6-M20 | 60 | 40 | 10 | 832 | 436 | 456 |
| 2L-100×100×13 | 1009.7 | 12×385 | 8-M20 | 60 | 40 | 10 | 1062 | 551 | 571 |

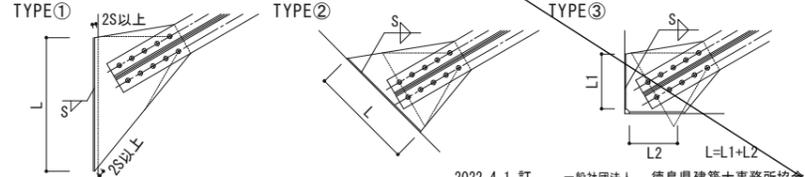
ガセットプレートの種類



山形鋼 (ダブル並列)

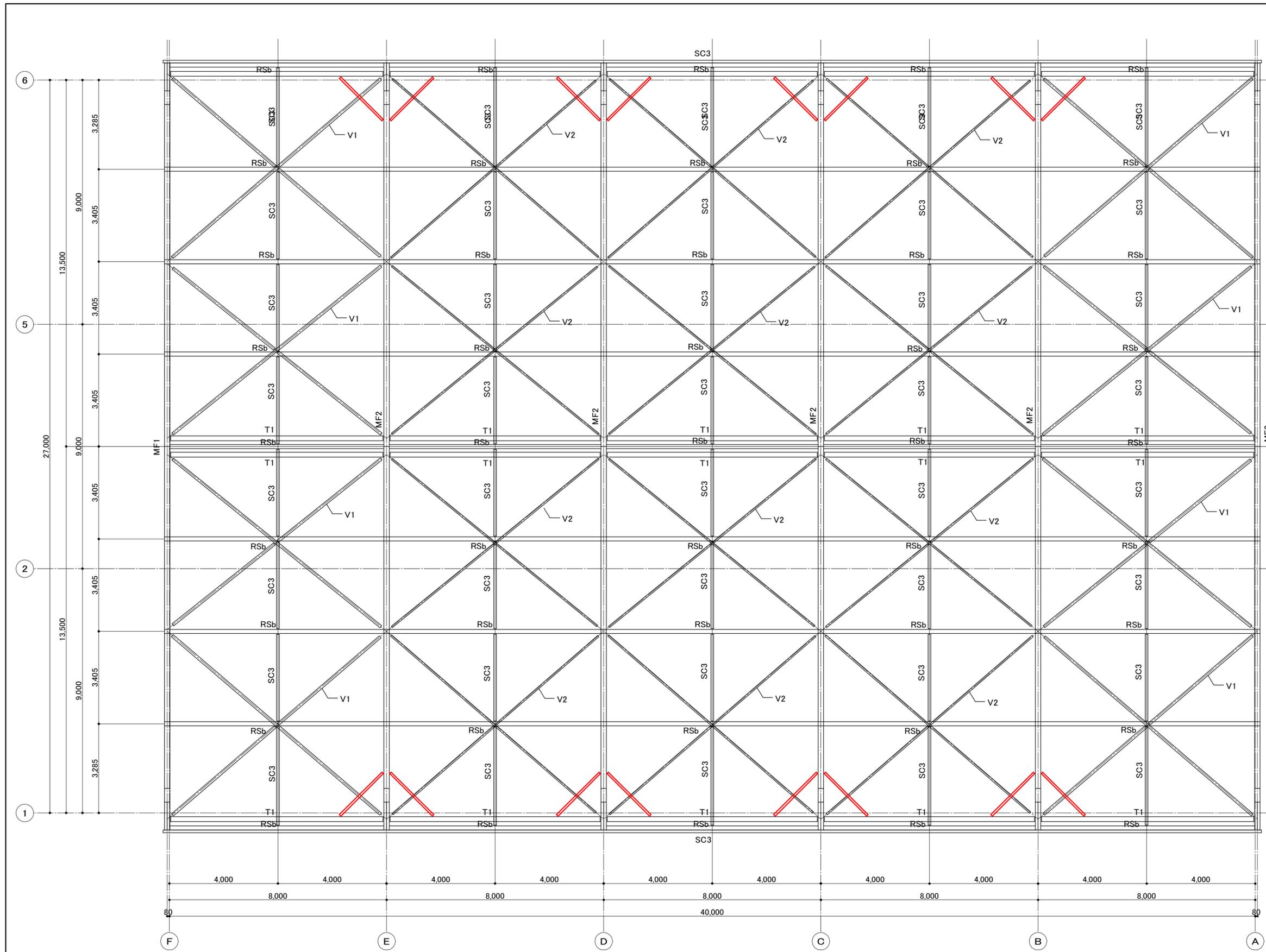
| 採用部材 | 引張耐力 (kN) | gtxB 厚x幅 | HTB (F10T) | p (mm) | e (mm) | S (mm) | 溶接長 L (mm) | | |
|---------------|-----------|----------|------------|--------|--------|--------|------------|-------|-------|
| | | | | | | | TYPE① | TYPE② | TYPE③ |
| 2L-65×65×6 | 257.5 | 9×160 | 5x2-M16 | 60 | 40 | 8 | 339 | 186 | 202 |
| 2L-75×75×6 | 306.9 | 9×185 | 5x2-M16 | 60 | 40 | 8 | 404 | 218 | 234 |
| 2L-75×75×9 | 441.7 | 9×250 | 5x2-M16 | 60 | 40 | 8 | 581 | 307 | 323 |
| 2L-75×75×12 | 549.4 | 9×315 | 5x2-M20 | 60 | 40 | 8 | 722 | 377 | 393 |
| 2L-90×90×7 | 404.8 | 9×240 | 4x2-M20 | 60 | 40 | 8 | 533 | 283 | 299 |
| 2L-90×90×10 | 596.8 | 9×330 | 5x2-M20 | 60 | 40 | 8 | 777 | 405 | 421 |
| 2L-90×90×13 | 749.6 | 12×320 | 6x2-M20 | 60 | 40 | 10 | 789 | 415 | 435 |
| 2L-100×100×7 | 459.9 | 9×270 | 4x2-M20 | 60 | 40 | 8 | 605 | 319 | 335 |
| 2L-100×100×10 | 673.1 | 9×370 | 5x2-M20 | 60 | 40 | 8 | 885 | 459 | 475 |
| 2L-100×100×13 | 831.4 | 12×355 | 6x2-M20 | 60 | 40 | 10 | 875 | 458 | 478 |

ガセットプレートの種類



2022.4.1訂 一般社団法人 徳島県建築士事務所協会

| | | | | | | |
|----|--|---|----------|-----------------------|----------------|---------------|
| 訂正 | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 作成 承認 | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. 整理No. | 図面No. K-07 |
|----|--|---|----------|-----------------------|----------------|---------------|



補強部材
 [-150*75*6.5*10]

部材リスト

| 記号 | サイズ |
|-----|--------------------|
| MF1 | 川鉄テーパースチール特殊サイズ |
| MF2 | 川鉄テーパースチール特殊サイズ |
| RSb | LH-300*150*3.2*4.5 |
| RSG | LH-300*150*3.2*4.5 |
| SC1 | LH-250*125*4.5*9 |
| SC2 | LH-250*125*4.5*6 |
| SC3 | □-100*100*3.2 |
| SC4 | L-65*65*6 |
| T1 | □-175*175*9 |
| V1 | 2L-100*100*7 |
| V2 | 2L-65*65*6 |

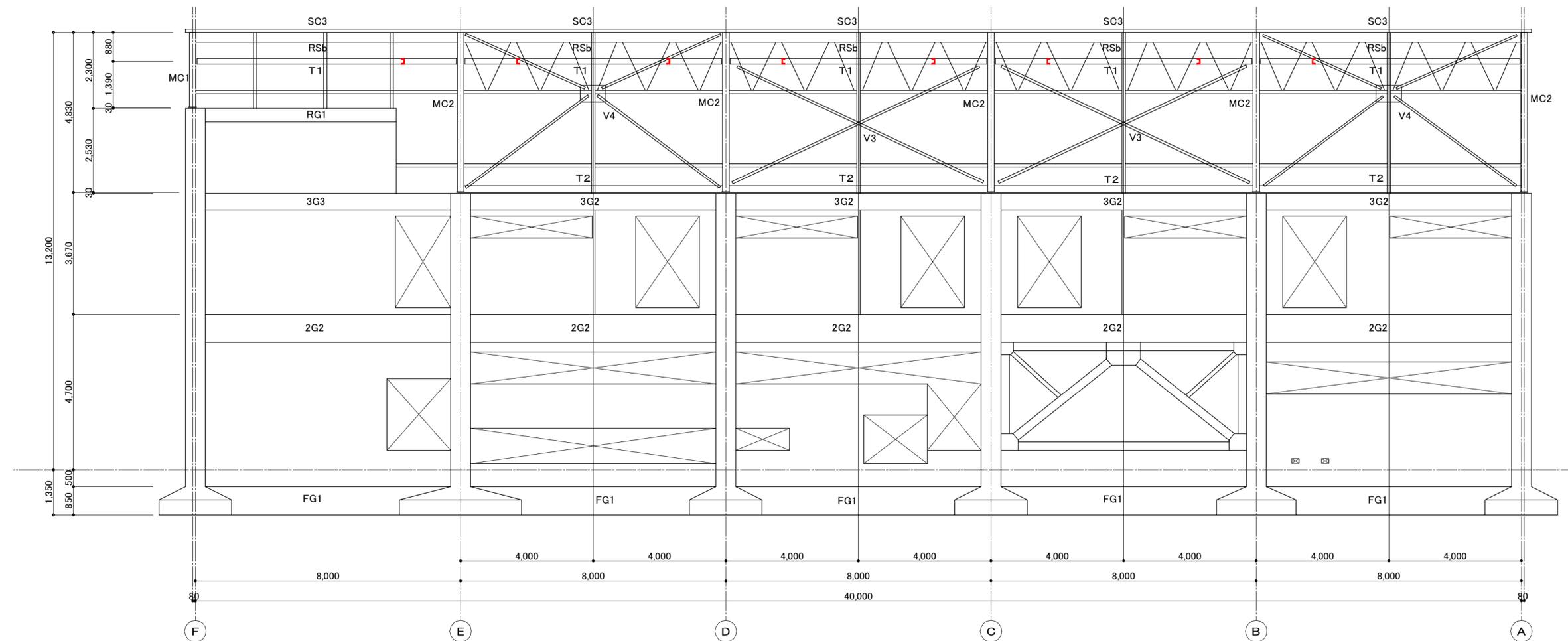
小屋伏図 S=1:100

| | | | | | | |
|----|---|----|----|-------------------------------|-------------------------|---------------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敏 | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. S-01 |
| | | 発行 | | | 図面名称 小屋伏図 | |
| | | | | | 縮尺 1:100 A3縮尺は70% | |

部材リスト

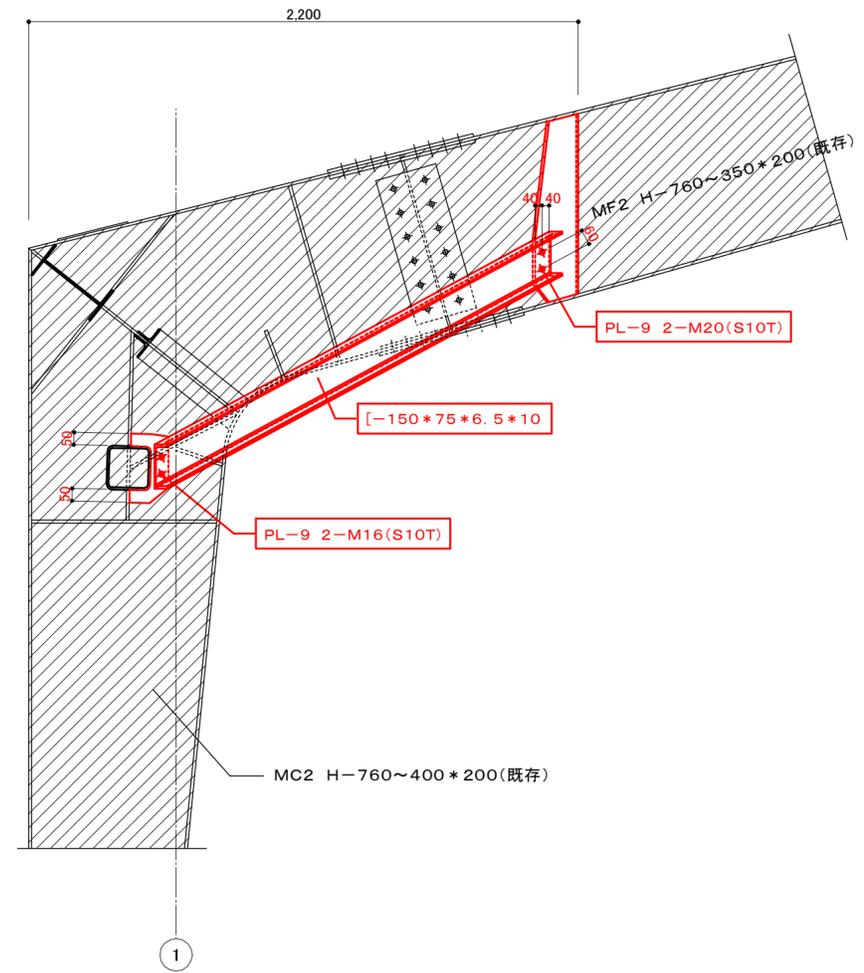
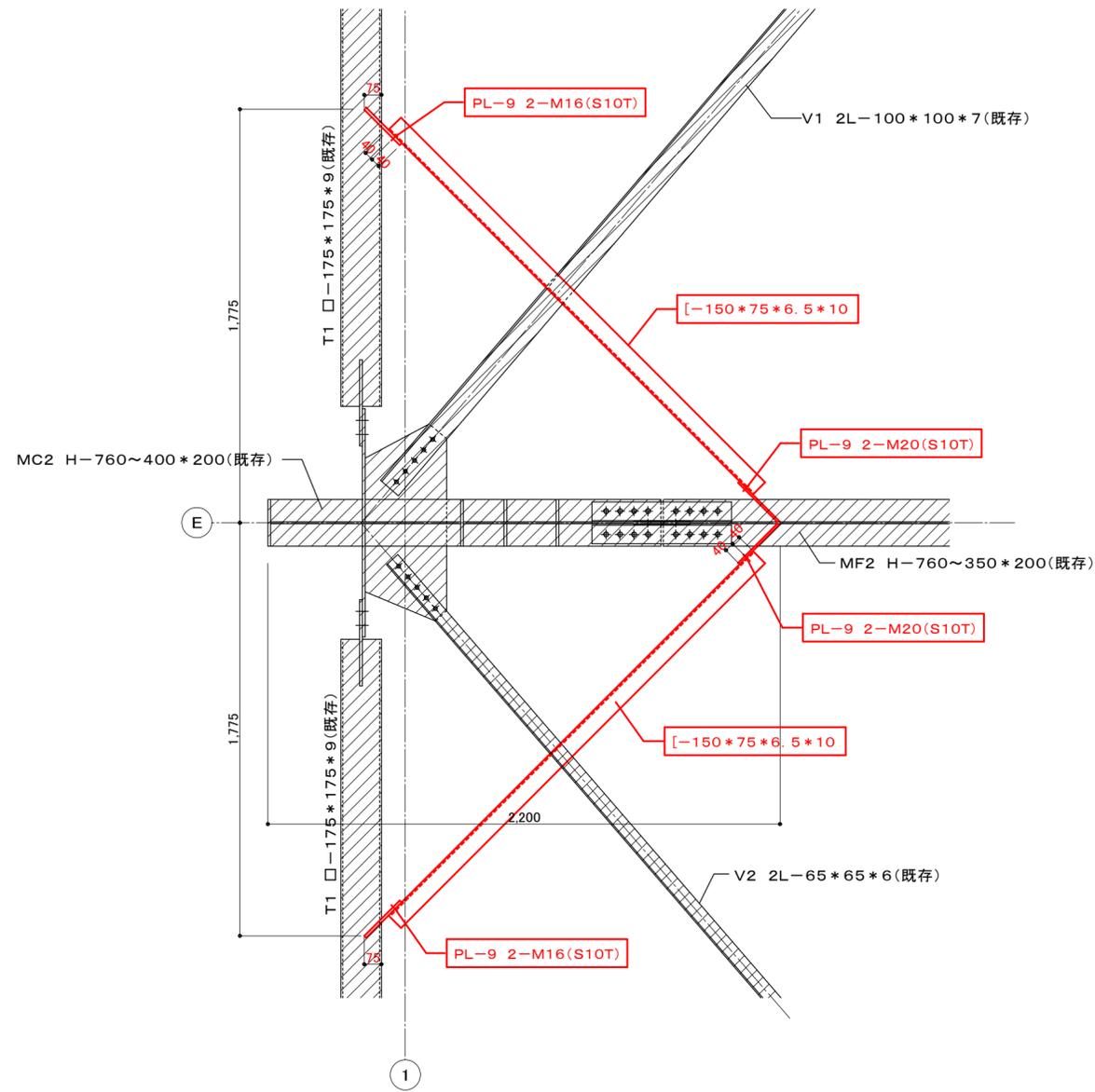
| 記号 | サイズ | 記号 | サイズ |
|-----|--------------------|----|----------------|
| MF1 | 川鉄テーパーasteel特殊サイズ | T1 | □-175*175*9 |
| MF2 | 川鉄テーパーasteel特殊サイズ | T2 | H-200*200*8*12 |
| P1 | H-200*200*8*12 | T3 | H-250*250*9*14 |
| RSb | LH-300*150*4.5*6 | V1 | 2L-100*100*7 |
| RSG | LH-300*150*3.2*4.5 | V2 | 2L-65*65*6 |
| SC1 | LH-250*125*4.5*9 | V3 | 2L-75*75*6 |
| SC2 | LH-250*125*4.5*6 | V4 | L-65*65*6 |
| SC3 | □-100*100*3.2 | V5 | 2L-90*90*10 |
| SC4 | L-65*65*6 | | |

| 補強部材 | |
|------|-----------------|
| C | [-150*75*6.5*10 |



1通・6通軸組図 S=1:100

| | | | | | |
|----|-------------------------|----|-----------------------|-------------------|-------|
| 訂正 | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | | | | 図面名称 | |
| | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | S-02 |
| | 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 | | 軸組図(1) | 1:100 A3縮尺は70% | |



| | | | | | | | | | |
|----|--------------------------|--|--|--|----|----|-----------------------|------------------|-------|
| 訂正 | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 | | | | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敏 | | | | ● | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | S-05 |
| | | | | | 発行 | | 図面名称 | 縮尺 | 整理No. |
| | | | | | ● | | 補強詳細図 | 1:20 A3縮尺は70% | |

特記：【品名、材料名は同等品とする】参考図でありメーカーを特定するものではない。

ウルトラコラム工法特記仕様書

『建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針』日本建築センター

1、工法概要

本地業はスラリー状のセメント系固化材を地盤に注入しながら、現地盤土と機械的に攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良体（ソイルセメントによるパイル）を構築するものである。

2、一般事項

(1) 工事に先立ち、施工計画書を管理員に提出する。施工計画は次の事項を明記する。

- 1) 建物概要、地盤概要
- 2) 工事内容（改良範囲、パイルの径、長さ、本数、設計基準強度）
- 3) 工事期間及び工程
- 4) 工事要領（使用固化材、配合計画、攪拌羽の昇降速度、噴出量等）
- 5) 施工機器
- 6) 施工管理方法
- 7) 品質管理の方法
- 8) 仮設備とその配置
- 9) 各種作業に従事する主たる人員の組織表
- 10) 施工記録の方法
- 11) 環境の保安対策
- 12) 安全対策
- 13) 建築請負者の本工事責任者名
- 14) 本工事施工業者名及び責任者名

3、特記事項

- (1) 事前に六価クロムが発生するかどうか検討を行い、管理員と協議の上対策を施すこと。（又は、六価クロム抑制型を使用）
- (2) 本工事の施工業者は、本工法の施工技術に精通したもので、工事に先立ち試験施工を行った後、管理員の承認を得たものとする。
- (3) 改良範囲、パイルの径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は設計図による。
- (4) ソイルセメントの設計基準強度は $F_c = 800 \text{ kN/m}^2$ とする。
- (5) 支持層は N 値10以上とする。
- (6) 本工事工法は、改良体強度の品質が変動係数30%以下で（共回り防止翼を装備）あることを『建築技術検査証明協会』に属する機関で証明された技術審査証明取得工法、財団法人建築総合試験所で証明された建築技術性能証明取得工法とする。

4、固化材の配合

- (1) 固化材液に使用する固化材は、セメント系固化材とし、設計基準強度、土質及び使用材用を十分に考慮し、室内配合試験又はメーカー指定配合量により、必要な強度が得られるように決定すること。
- (2) 配合方法：混合用タンクには始めに所定量の水を入れ、その水を攪拌しながら所定量の固化材を投入し、十分に攪拌する。
- (3) 使用量：固化材の配合は $W/C 60 \sim 80\%$ とする。

5、施工

- (1) 固化材液の充填方法は、掘削時充填工法とする。
- (2) 施工に対して擬義が生じた場合はただちに管理員と協議し、その指示を受ける。

6、施工機器

- (1) 改良機本体は、本工事に必要な器具（施工管理用測定器を含む）を装備したもので、自走式とする。
- (2) 攪拌ロッドは、曲がりや欠損の無いものとし、共回り防止翼を装備したものである。
- (3) 固化材の混合タンクは所定噴出量を十分供給できるもの。

7、施工管理

(1) 施工過程における管理方法は次の通りとする。

パイル鉛直度：改良機本体に設置された傾斜計で管理する。

未固化改良体の確認：抵抗測定ミキシングテスターで管理する（改良50箇所ごとに1箇所）。

固化材液の作成：（水の計量） 水量計又は、水管計で計測を管理する。

（固化材の計量） 袋数又は重量計で計測をおこなう。

（固化材液の吐出量） 流量計で測量し記録する。

（掘進速度） 改良機本体に設置された速度計で計測し記録する。

（掘進深度） 改良機本体に設置された速度計で計測し記録する。

8、報告

工事完了後、次の事項について報告書をまとめ、管理員に提出する。

- (1) パイルの伏図及び番号
- (2) パイルの施工日
- (3) パイルの径及び長さ
- (4) 掘削深度
- (5) 掘削速度及び引き抜き速度
- (6) 固化材液の配合と固化材の使用量
- (7) コアの強度管理試験結果
- (8) 未固化改良体の比抵抗測定（ミキシングテスター）の測定結果

供試体（コアの採取）

建築センターの指針により、設計時想定する検定結果による変動係数の推定値を30%以下、不良率を10%以下とする。

深度コアの採取は深度モールドコアサンブラーを使用する。

一軸圧縮試験合格判定

合格の判定は設計対象層における N ヶ所（採取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下記を満足する場合を合格と判定する。

強度試験による合格判定

・設計対象層についての採取箇所数を N とする。1箇所当りて3個の供試体を採用し、その平均強度をその箇所の強度とする。

・検査手法Aによる品質検査

$$X_n \geq X_L = F_c + K_a \cdot \delta d = F_c + K_a \{ F_c \cdot V_d / (1 - 1.3 V_d) \}$$

X_n : N ヶ所の一軸圧縮強度の平均値
 X_L : 合格判定値
 F_c : 設計基準強度
 K_a : 合格判定係数
 δd : 標準偏差 $\delta d = V_d \cdot q_{ud}$
 V_d : 変動係数、品質確認書のより想定する (0.3)

| 合格判定係数 | | | |
|--------------|-----|-----|-----|
| 採取箇所数 N | 1 | 2 | 3 |
| 合格判定係数 K_a | 1.9 | 1.7 | 1.6 |

当現場の場合 $X_n \geq X_L = F_c + K_a \cdot \delta d = F_c + K_a \{ F_c \cdot V_d / (1 - 1.3 V_d) \}$

$$= 800 + 1.7 \{ 800 \cdot 0.3 / (1 - 1.3 \times 0.3) \}$$

$$= 1469$$

$$\approx 1469 \text{ kN/m}^2$$

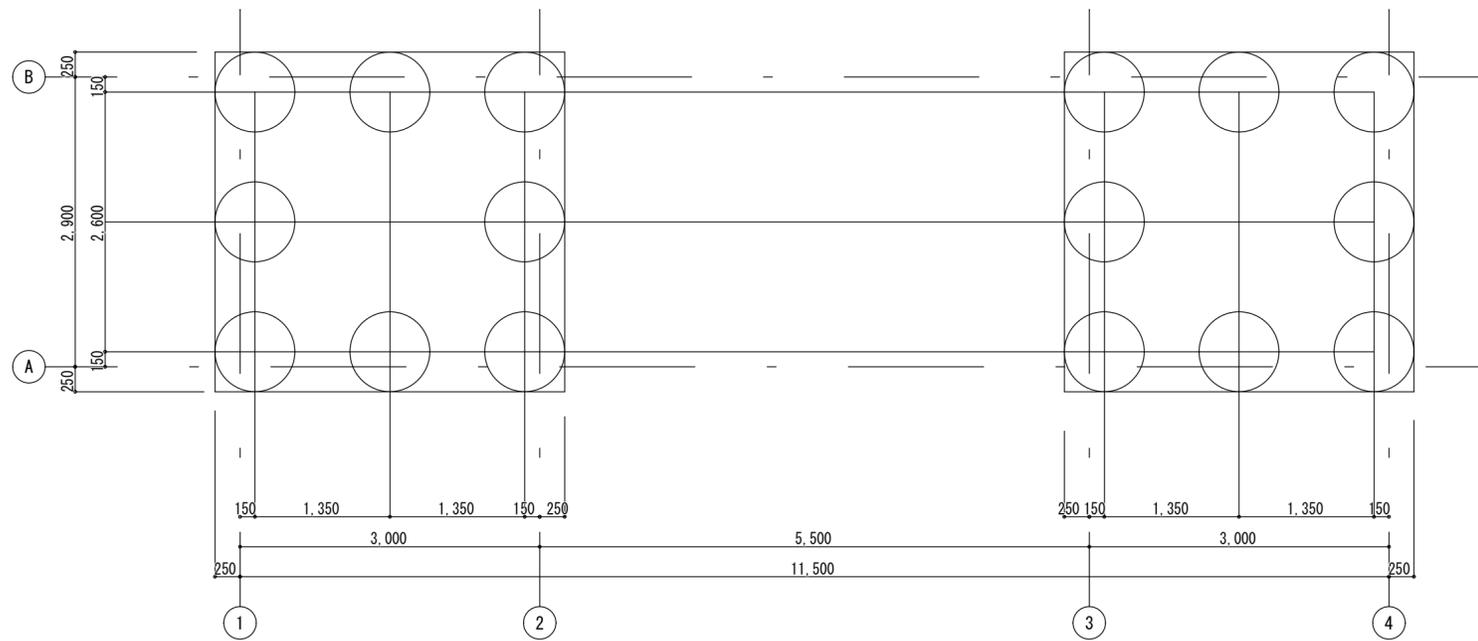
したがって、テストピースの圧縮強度の平均値が1469 kN/m^2 以上あれば合格とする。

| | | | | | | | |
|----|-------|---|-------------|----|-------------------------------|-------------------------|---------------|
| 訂正 | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | S-06 実施設計図 |
| | | | 発行 | | 図面名称 設備架台地盤改良特記仕様書 | 縮尺 1:NON A3縮尺は70% | |

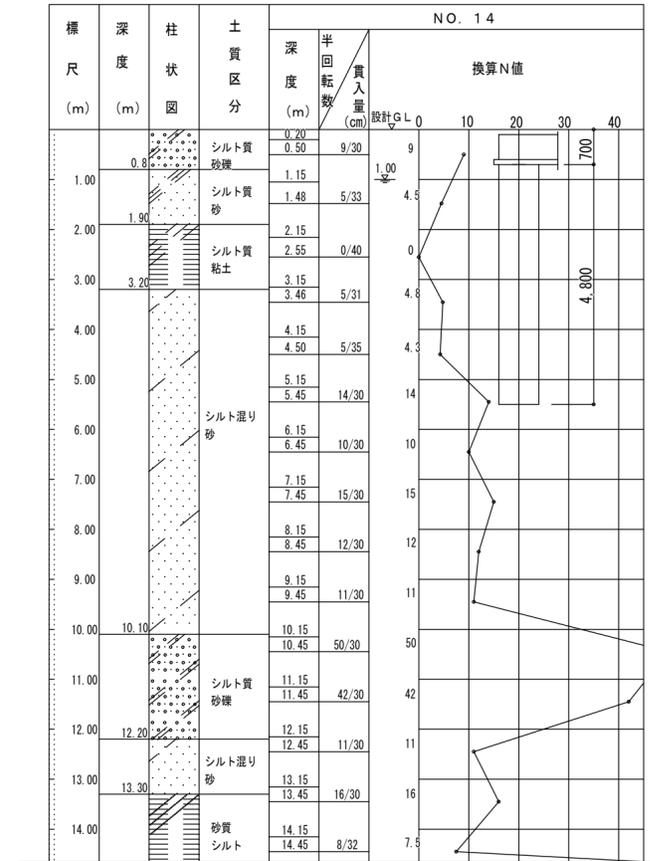
特記：【品名、材料名は同等品とする】参考図でありメーカーを特定するものではない。

| | |
|----------|-------------------------|
| 工 法 | 地盤改良（ウルトラコラム工法） |
| 改 良 径・本数 | 800φ-16本 |
| 改 良 深 | GL-5.50m |
| 固化剤 | ユースタビラー10又は60 |
| 固化剤配合量 | 350Kg添加/m ³ |
| 設計基準強度 | FC=800KN/m ² |

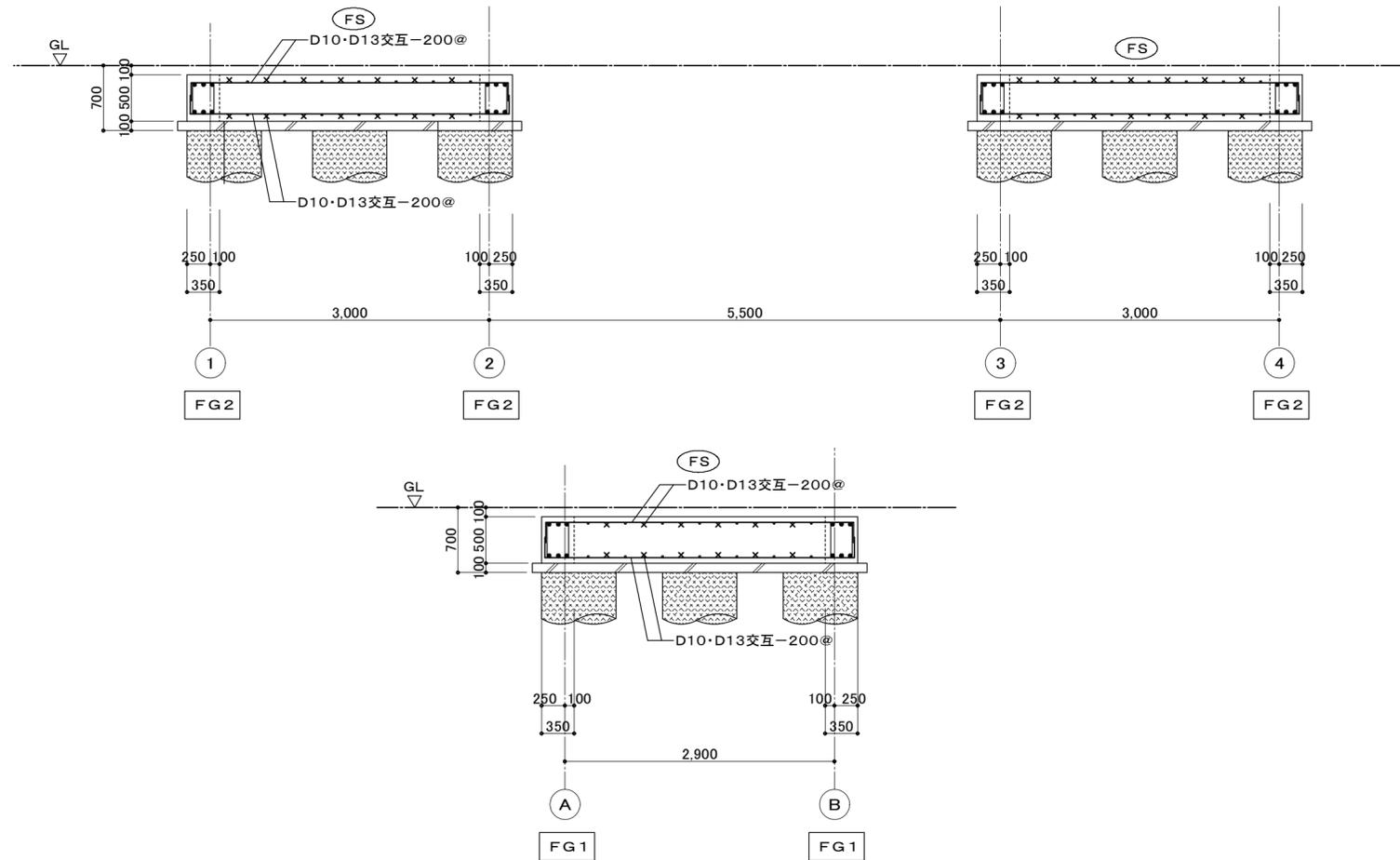
| | |
|---------|----------------------|
| 長期許容応力度 | 60KN/m ² |
| 短期許容応力度 | 120KN/m ² |



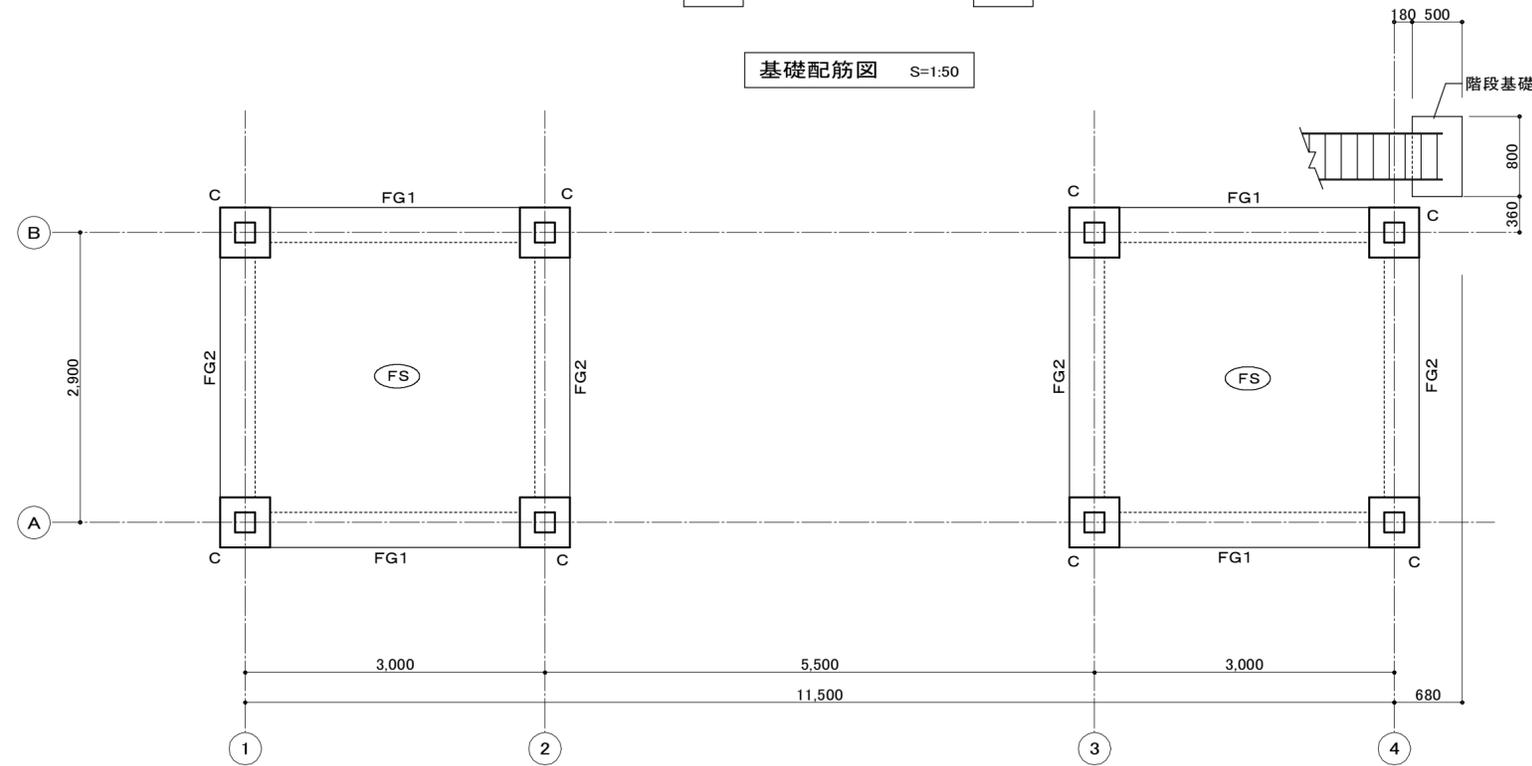
地盤改良伏図 S=1:50



| | | | | | | | | | | |
|----|--|--|--|--|---|-----------|----|-------------------------------|------------------------|---------------|
| 訂正 | | | | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敬 | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | S-07 実施設計図 |
| | | | | | | 発行 ● ● | | 図面名称 設備架台地盤改良伏図 | 縮尺 1:50 A3縮尺は70% | |



基礎配筋図 S=1:50



基礎伏図 S=1:50

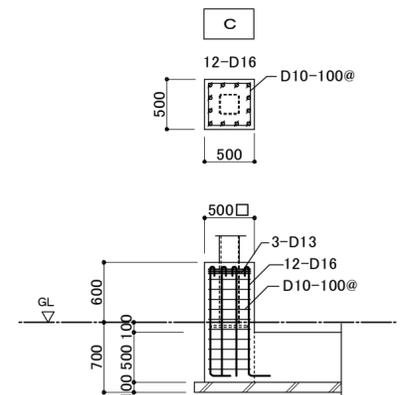
■ 鉄筋コンクリート仕様

1. 普通コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)
基礎・地中梁 21
スラブ・土間コン・捨てコン18
2. レディーミクストコンクリートの種別
JIS A 5308 ■ I類 □ II類
3. セメントの種類
■ 普通ポルトランドセメント (JIS R 5210)
4. 骨材
砕石及び砕砂 (JIS A 5005) アルカリシリカ反応性による区分
■ A
粗骨材の塩化物量 (%)
■ 0.04%以下
5. 混和材料の種類
■ 混和剤 AE減水剤 (標準形 I種)
6. 普通コンクリートの割合
所要スランプ (cm) 基礎・地中梁 18
スラブ・土間コン・捨てコン15
単位水量 (最大値) 185Kg/m³
単位セメント量 (最小値) 270kg/m³
水セメント比 (最大値) 65%
粗骨材の最大寸法 (mm) 20
7. 試験及び養生方法
■ 圧縮強度試験 標準養生
8. 型枠の存置期間及び取外し
■ コンクリートの材齢による (日) 15度C以上 3日
5度C以上 15度C未満 5日
5度C未満 8日
9. 水
■ 上水 上澄水

地中梁断面リスト S=1:50

特記なき限り下記による
巾止め筋はD10@800程度とする。

| 符号 | FG1 | FG2 |
|-------|-----------|-----------|
| 位置 | 全断面 | 全断面 |
| F階 | | |
| B × D | 350 × 500 | 350 × 500 |
| 上端筋 | 3-D19 | 3-D19 |
| 下端筋 | 3-D19 | 3-D19 |
| STP | D10-200@ | D10-200@ |



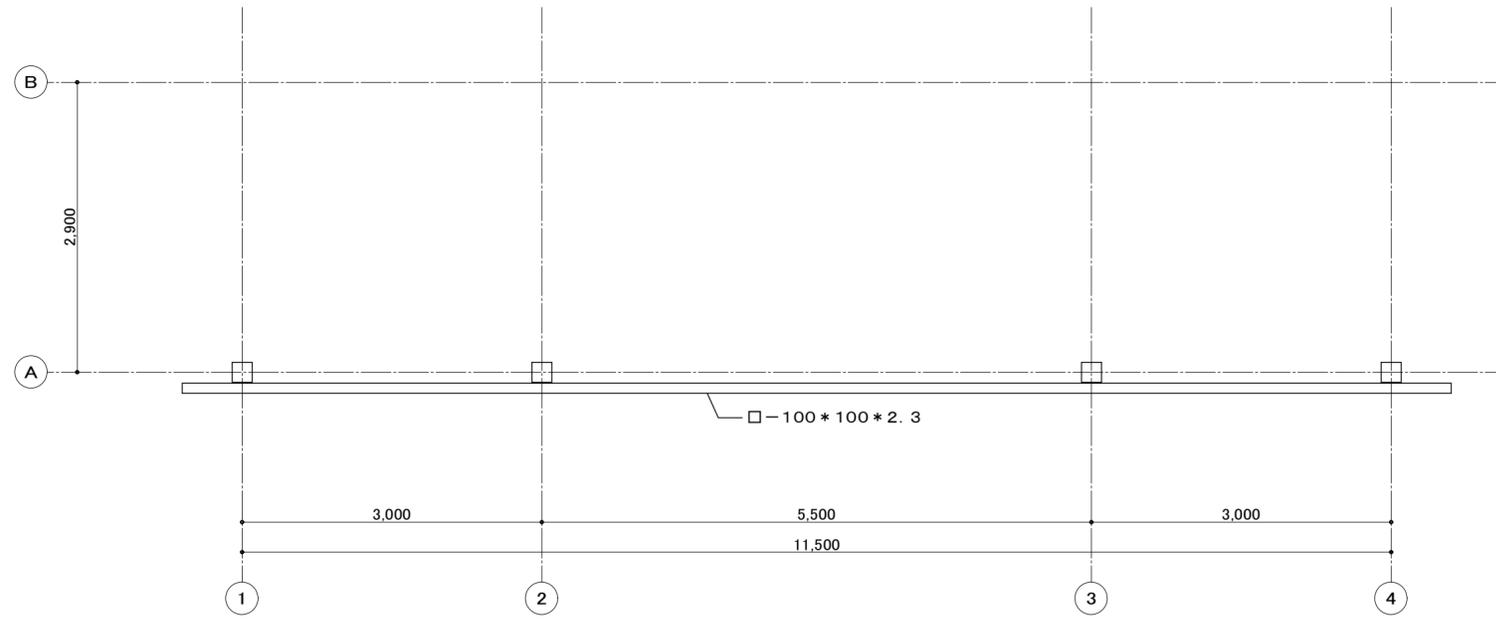
| | | | | | | | |
|----|--|--|-----------|----|-------------------------------|------------------------|-------|
| 訂正 | | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 | 作成 ● ● | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. |
| | | | 発行 ● ● | | 図面名称 設備架台基礎伏図 | 縮尺 1:50 A3縮尺は70% | 整理No. |
| | | | | | | | S-08 |

部材リスト

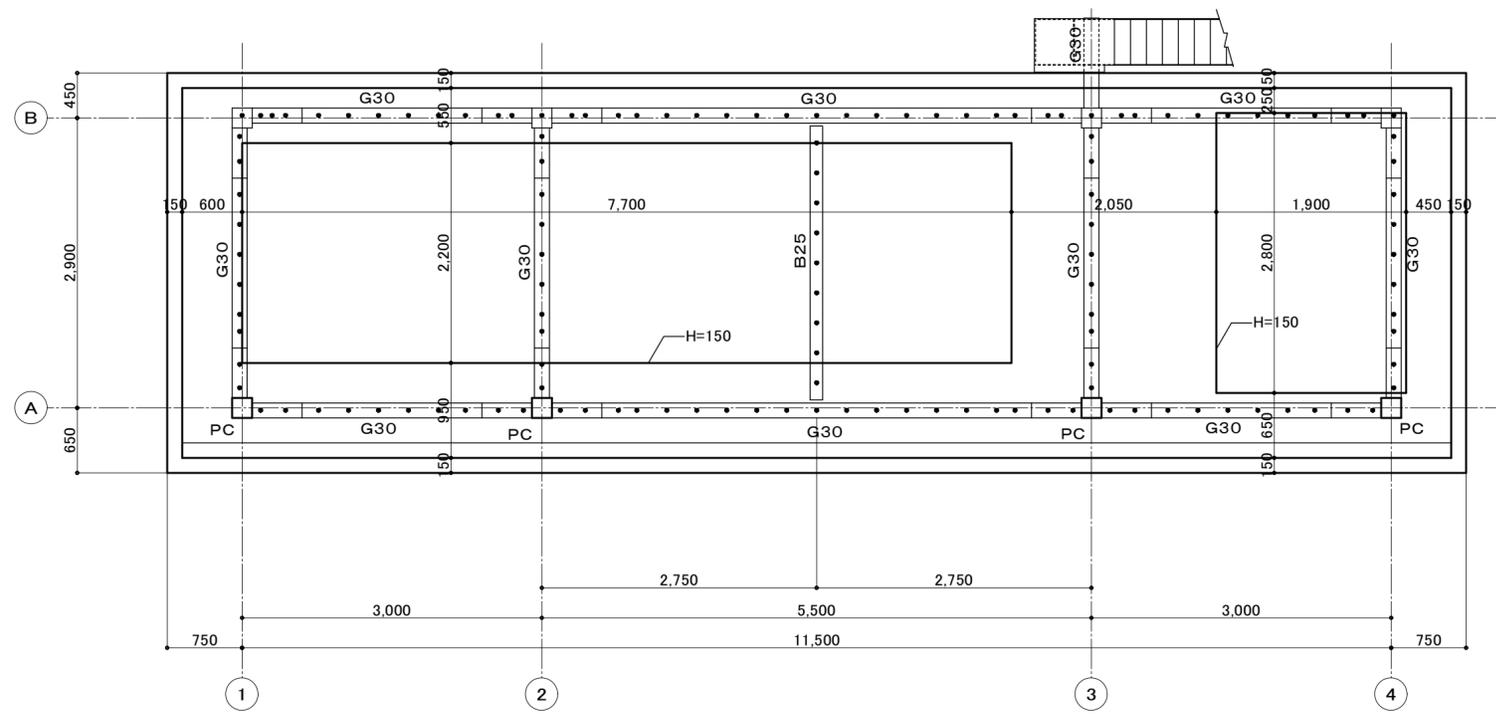
| 記号 | 名称 | サイズ | 規格 | 種類 |
|-----|----|-----------------|-------------|---------|
| 1C | 柱 | □-200*200*9 | 冷間ロール成形角形鋼管 | BCR295 |
| PC | " | □-200*200*6 | " | " |
| G30 | 大梁 | H-300*150*6.5*9 | JIS G 3101 | SS400 |
| B25 | 小梁 | H-250*125*6*9 | " | " |
| 胴縁 | | □-100*100*2.3 | JIS G 3466 | STKR400 |

※ 大梁で内ダイヤの部分は、コラムのr部分をさけて取り付け。
 但し、内フランジを設けなくてハンチとした場合は柱の外付けでもよい。
 ※ 大梁、小梁共スタッドコネクタ1-16Φ @300 L=100を取り付ける。
 ※ 鉄部は全て溶融亜鉛メッキとする。
 ※ 鉄骨製作工場は、国土交通省大臣認定Rグレード以上とする。

| 名称 | 仕様 | 規格 | 種類 |
|----------|---------------------------------------|---------------|------------------|
| 通しダイヤフラム | | JIS G 3136 | SN490C |
| 柱脚 | | " | " |
| 高力ボルト | 溶融亜鉛めっき高力ボルト | 国住指 第3864号 | MBLT-0119 F8T |
| ボルト | 中ボルト | JIS B 1180 | F4T |
| 溶接材料 | MAG溶接用ソリッドワイヤ RC11 (高張力鋼用被覆アーク溶接棒) | JIS Z 3312 | YGW11 |

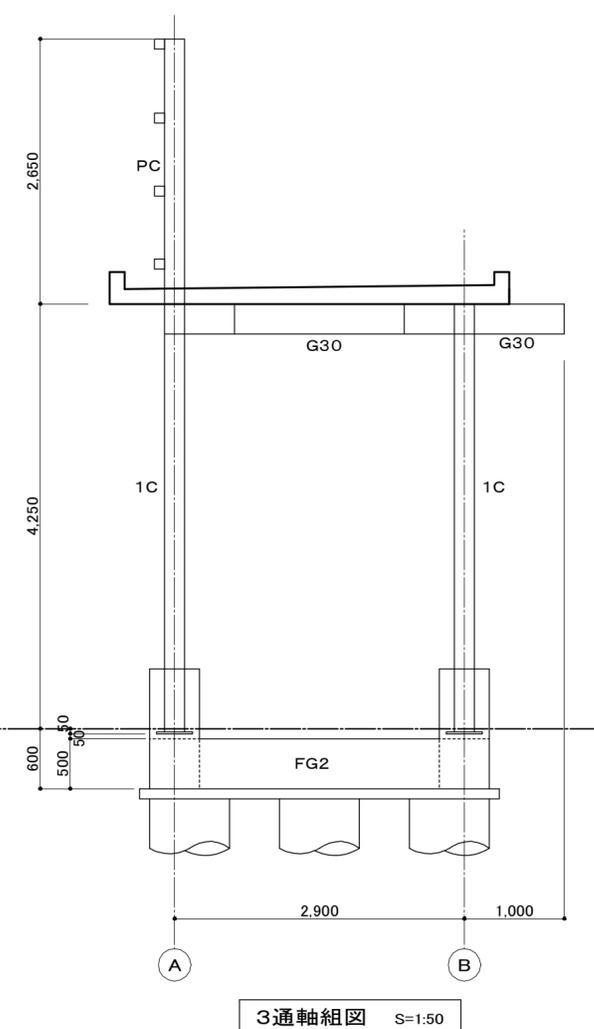
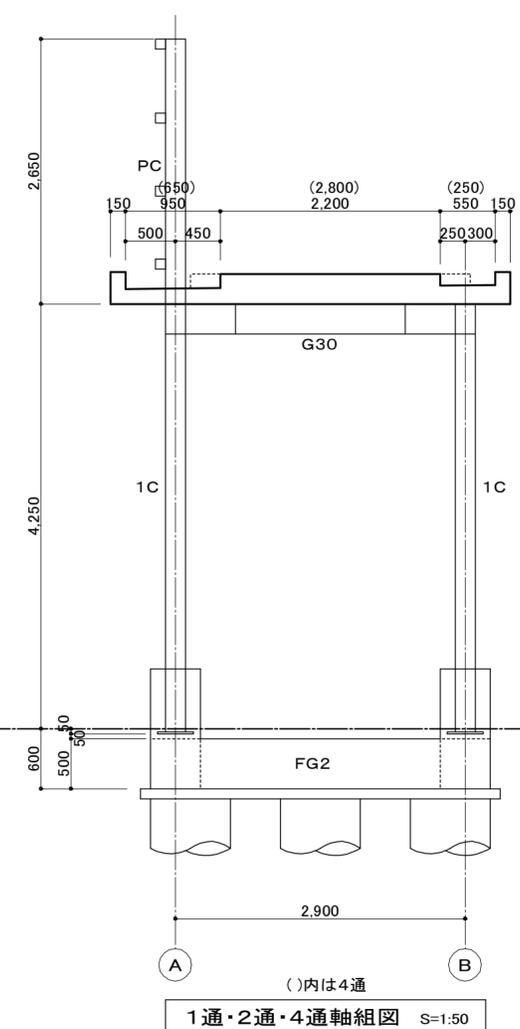
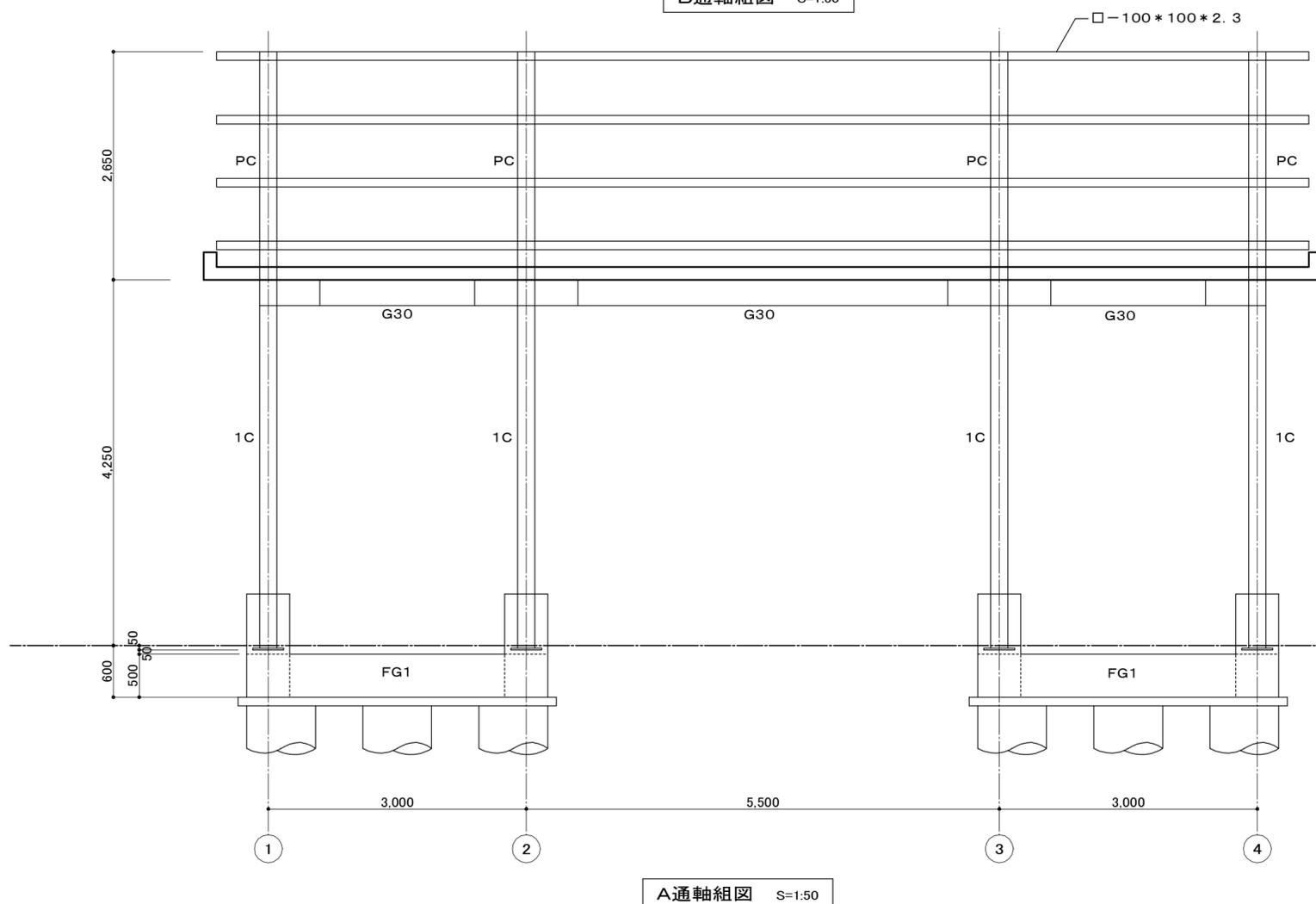
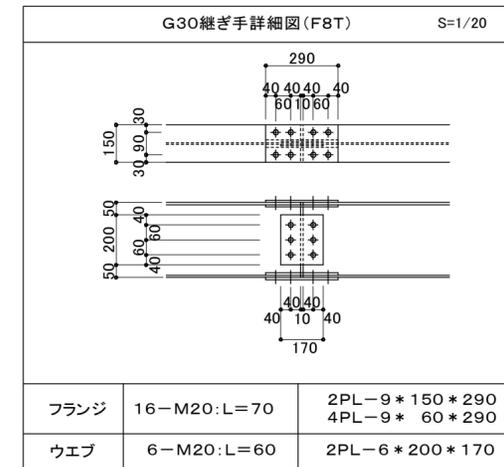
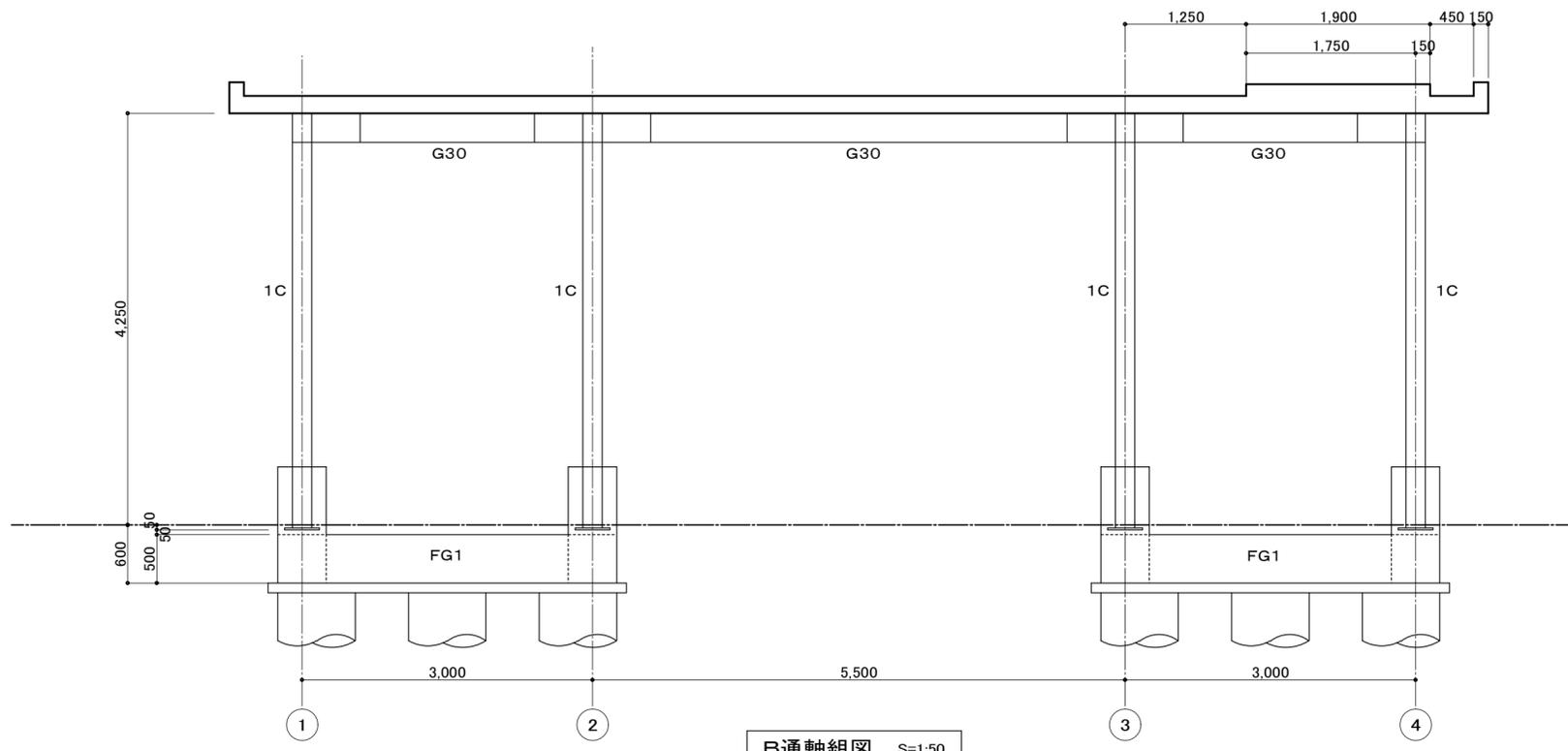


P階梁伏図 S=1:50



R階梁伏図 S=1:50

| | | | | | |
|----|---|----|-----------------------|-------------------|-------|
| 訂正 | 作成 | 承認 | 工事名称 | 設計No. | 図面No. |
| | 発行 | | 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | | S-09 |
| | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敏 | | 図面名称 | 縮尺 | 整理No. |
| | | | 設備架台伏図 | 1:100 A3縮尺は70% | |



| | | | | | | | |
|----|-------|---|----|----|-------------------------------|-----------------|---------------|
| 訂正 | . . . | 株式会社歩デザイン 鳴門事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野 和敏 | 作成 | 承認 | 工事名称 鳴門市第一中学校屋内運動場屋根改修ほか工事 | 設計No. | 図面No. S-10 |
| | | | 発行 | | | 図面名称 設備架台軸組図 | |

